



古義神代考 上中下

リ印
1.768



伊5
號1768
卷



二御靈祭告詞 掛麻久母畏伎崇道盡敬 皇命乃大御靈寧樂大朝
民部卿太朝臣命乃御靈二柱乃御靈乃大前尔姓名... 等恐美母申給
彼久登申須皇帝命波日本書紀年記志給比朝臣命波古事記年撰
比給比与天地乃判志時与理神乃御代乃御代御代乃七御代乃御代
五御代乃御代... 天皇乃遠津御代乃御代... 乃天津日嗣乃
御次年年始且世間尔有登志有初年雜々之故事年漏留事無久
落留事無久永由尔記志給比撰比給与天地乃共弥遠長尔大
皇朝廷乃大御靈登遺志給比傳信給布廣伎厚伎大御惠尔
依且志于年五百年乃後乃世尔遠逢奈久拙伎某等我友賢
良尔至麻尔尔遙邪伎神代乃有邪流歌年字加之比尋尔日明伎
貴伎御世乃意乎百箇我一母悟知事得且志有留因類乎二乃
御書讀奉留度每尔頂尔棒持且畏美字礼斯美奈母思給布故是
今年乃其月乃其日乃其生且乃足日登擇定且其之宅乃奧尔床
身伊豆乃般石境登拂比清米且與山乃小此木之枝乎打折持来且伊豆
乃真坂樹登之所尔刺尔波夜斯齋比奉且和幣取置伎... 居並
倍海山乃多尔... 初乎員尔奈... 机代登貢奉且... 恐美母申伎
二程命乃御靈等今如是刺立齋比奉留... 離示... 凡例三ウウウ

○地ノ周行ハ太陽ノ右旋ヲナシ地ノ週轉ハ天体ノ左旋ヲナス
 ○地球一日ノ行皇國ノ道遠ニテ五十餘万里
 ○氣血ノ如キ其運行一息ノ間断ナク其ノ自ラ知覺見セザル和順
 ヲ運レバナリ和セザルハ轉筋動氣夜痛ノ類ヲナス又
 形ニ乘リ海ヲ渡ル如キ凡浪穏ナク寸ハ百里ヲ馳ストモ其ノ自ラ痛
 安泰ナク凡浪ノ暴ニ遇ハバ後ニ數里ノ間ヲ或ハ夜食ヲ安セザル
 ニ至ル是皆移動ノ疎密ニヨリテ神氣ニ逆順ヲ失カ故ニ覺ト不覺
 トノ異ナクモ其日時後醒胡天皇ノ御令ニ正當テ佐々木塩谷判官高
 身ノ許ヨリ龍馬トテ月毛ノ馬ノ三文計ナルヲ引キ進ム其相
 形尋常ノ馬ニ異ニ今朝ノ卯刻ニ出雲ノ富田ヲ立テ酉ノ刻ニ京
 着ス其道既ニ七十六里鞍ノ上閑ヲ徒ラニ生スルカ如ク然レモ旋風
 フ撲ツニ堪スト奏シテ太平記ニ見タリ是即馬ト人ト其動ノ同
 其移ノ所謂密ナクモナリ然レ人馬ノ行ト凡ノ行ト同キ一能サレカ故ニ凡
 靜ナレ其横面ノカ厲ニカマレ一能サレモノナリ地球動力如キ凡
 龍馬ノ類ニテ上ニテハ雲雨露凡西下シハ山海土石中ハ人畜田魚虫
 及ヒ其精神氣血皆其行ヲ同シ其運ヲ同ク山坂ノ峻ナク凡浪ノ

暴ナク遮ルモノモナリ至密ナリト謂ヘシ是故ニ是ヲ間ニ声ナク
 是ヲ見ルニ象ナシ如何ソ我能コレヲ覺セン
 ○本末無東西何処有南北トハ在轉ヲ北ヲ越ニ行一能ハズ色即是空即
 是色トハ在轉ヲ西施ヲ
 醜トシ嬖母ヲ妍トス
 ル一能ハズ
 ○立天之道曰陰与
 陽立地之道曰剛与
 柔木ト云リ是氣ヲ
 天トシ陽トシ竹實ヲ地
 トシ陰トスルモノナリ
 又氣ニテリテハ精神
 ナルヲ陽トシ粗屈ナ
 フ陰トシ竹實ニテハ
 柔木虚ナク陰トシ剛
 實ナルヲ陽トスル
 按ニ易ハ天地ノ妙用ヲ
 讀スルヲ主トスルカ
 故ニ天地ノ氣ヲ論
 又ハ天ノ氣ヲ地ノ竹實ト

古義神代考此由意よ
 此乃書をくし女いさし一説くは此かよ乃
 かうがへや名けくさ由意よる皇大御國
 此古事乃主やをべむたもむまを考へ漢籍
 ぶるふらまうつして古き外外國此説が
 字母ひま出く外國尔女古傳のかをく
 遺きふこと志免く全古義をさゆし
 ぶるあはか程今と天地此さ由不夫
 御代ふして神の大御代のみまびゆとをく

○古義神代考

○凡例一

論ノ天ヲ陽トシ地ヲ陰トスナリシ若ク天地ノ質ヲ並ニ論ルニ及ニシカハ必ス夫ヲ象虚ノ陰トシ地ヲ剛實ノ陽トセン假令ハ周易ノ陰陽如顯中ニ物アリト云リ顯ト物トハ地ニ在リ顯中ノ空虛ハ天ニ屬セシモノナリ陽ヲ以テ顯ニ象トリ陰ヲ以テ顯中ノ空虛ニ象トリ

是等ハ皆寓言ナラト亦其理ヲ云ルニヨリアレテ西域ノ書ニ云ルカヘリヤツト云々腹中ニアル虫ハ極テ微ナルモノヲ顯微鏡ノ極上品ヲ以テ鏡ニ具形ヲ見ルコト得テ其大サヲ計算スルニ無寸八分ノ間ニ三千ヲ並ヘレト云リ佛經ニ三十三天西方極樂ノ説アリ列子ニ五山龍伯ナントノ國アリト云リ且テ其言必シモ實ナラ子ト世間此理ナキニアラスト云ル意息ナレバ清輕者上為天濁重者下為地ト云リ今日月星ヲ以テ天ニ較ヘハ孰カ清輕ナリト云レ孰カ濁重ナリト云レ諸星モ地球モ同ク濁重ノ物ナリ共ニ天中ニアル者ナリ又乾坤ヲ天地ノ小トモトスルナリ諸山ノ地上ニアルハ諸星ノ天上ニアルカ如ク良寛ヲ以テ乾坤ノ次ノ所以

母萬世學乃本於學也ゆゑ免ていづま乃御書ル母皆註解いできてふ足ぬ許やふま及せふものつらぎ免まを戊申が聞たまつる説や母此かきわふふま書集てかくもものせふふふ年。さて漢籍ふりふつして讀むはも大氏をかきふふ許とばま訓ふ。かの漢籍ふれに漆つまふふ人等もかつ讀く皇大御國乃正しき道乃許るるをへ字

列子ニ百又年ハ陽ニ對スル言アリ其言曰ク万物ヲ見ルニ大ナレハ小キヲ含テ其小キモノ内ニモ亦小キヲ含ミクニナレハ我等カ世間ト云モ亦如何ナルモノ内ニアリヤサテハ天地ノ外ニ天地ヨリモ大ナルモノアリテ斯ノ天地ヲ包ミ人管テアラモ亦知リ難レト云リ

志り萬を真心小直くおこねいゝ免せよと此日ざぞか。されば許やまふル漢免るゝふふ許や母あふあふ。三神始造水火と書ふるま。是を地いまむ推して。浮脂乃許や大虚空小水月ふは漂へましやあふものを水土とし其中よわ葦牙の許と萌騰しもの乃とあふを氣火やして。如此かけふも乃ありま。二靈生大八洲國下小謂生洲者即生其主宰也。註しふふ古傳乃趣と違

○韓子曰形於上者謂之天形於下者謂之地命於其間者謂之人上之曰假令地球之外地あり人あり其間亦天ヲ載キ地ヲ踏テ陰陽無端ノ道ニ出テ好相悪ヲ性ニ居伸スヘケルハ眞思邪正ヲ或ハ等ニカラサラノ善ヲ悪ニ異左右ノアツモヤハ

○元氣屈伸ノ字宙ノ間ニ元氣ノ伸縮ナリ又虚実ノ二者ナリ是レニシテ一ナリ若クハトセハ屈伸ノ別アルハカラス天ハ伸縮ナリ地ハ屈伸アルニアラヤ若クハ二ナリトセハ天地ノ氣相通スルヲ能ハレ日星ノ光氣互ニ照映シ天際ニ往來ノ間隙ナク升降ノ方亦変ス一氣ニ非スト云

ふが如く礼や母。是を此とつた考あふな母て。志むらゝかくを註しおまつ又月夜見神や素盞彥神やの御事。經津主神と甕槌神や乃御事あや本居翁乃古事記傳論はまふことあり。礼と今容易あること然がさけまを。この書紀はまゝあり。すべて神まゝのまや乃くはしき論を別る古事記外傳やいへふなあるをていふべし。まゝ星中神人乃説と天乃災をしとてふ書いへり吾徒を

○神代正語神代紀葺牙直日靈葛花靈乃真はしき大被後釋玉鉾百首解仲子此礼は古義神代考とを加へて十部は書少といふふふ。おのれが書ふ書をし母あをせていへふ許とを。いといやかしくこまごまおれや道乃しめふらよしや罪を得ふや母やて。母年志やうはこやせといふまゝは可貴。秋乃下葉乃いふげこ活。夫乃ふ災をふつてびか

○神代正語神代紀葺牙直日靈葛花靈乃真はしき大被後釋玉鉾百首解仲子此礼は古義神代考とを加へて十部は書少といふふふ。おのれが書ふ書をし母あをせていへふ許とを。いといやかしくこまごまおれや道乃しめふらよしや罪を得ふや母やて。母年志やうはこやせといふまゝは可貴。秋乃下葉乃いふげこ活。夫乃ふ災をふつてびか

此火氣能金石出
スレバ觀テ知レシ譬ハ
寒シク冬トシ暑ク夏ト
スレバ冬モ絶テ温氣
ナキニアラス度モ絶テ
凉氣ナキニ非レカ如ク
ホラ水中ニ沈ルカ如ク
ホラ實ニ重ラ地ノ如ク
水ハ虚輕ラ天ノ如ク
ホラ水ニ混メ濁ラン
水ハ土ニ入テ混スカ
故ニ水中トシ土氣ア
ラスト云フナク土中
所トシ水氣アルスト
云フナレ是故ニ伸氣中ニハ常ニ屈所見アリ屈伸
アルカ故ニ變化無窮ナリ一氣ナルカ故ニ万物一体ナリ唯其多ク所以ニ至
テハ我輩ノ敢テ議スル所ニアラス屈伸虚実ノ微理ヲ悟レト欲セハ易ク
學フニ若クハカラス

かへつ、便如いづふ。中よくふたつ、ちのし
ふふひふふ、まじりう、はま、人
つふみぬ、乃、あ、さ、乃、ふ、い、事
只暫時之間天翔依乘坐且漏落年事乎波神直日
大直日亦見直志簡直志坐且貢奉礼留物乎神
隨平初久安良初人所自看且今母太前母某
等之學乃業乎弥助尔助給此弥將米木將大給此
引十福津日乃福事有世受夜乃守日乃守尔守其倍
給倍登其等諸兵亦杜鹿成膝折伏世鶴自物須根
衝拔且此美恐美母申給波久登申
件ノ祝詞ハ石見國濱田文學小竹條道沖敏一需
ヨリテ作リテ遣ルモノ也本居宣長

西洋ノ千二百三十年皇國ノ寛喜二年比太古刺私ノ天摩再ヒ歐羅巴ニ傳来ス
○千四百七十三年文明五年古伯尔泥對喜源熱尔馬泥亞國ニ生ル
○千七百平年奇見全
書ヲ開板ス元文五年
○西測諸體(重量)
傍尔納里說

氣中	水中
金四百	金三百七
銀二百四十	銀二百十九
銅二百十八	銅百九十七
銀二百	銅百七十九
水二十一	水無

又游氣ノ重量ハ金
ノ一萬五千二百三十分
ノ一ト云リ

○千六百四十二年寛
永二十年 意太里
亞國ノ多里世

古義神代考上卷

源紫偈迺部 著

未有天地之時空中自有神人焉
漢人所謂凡海外諸國呼支那之人爲唐人
天地主宰先天無始後天無終者或問
名曰天御中主次高皇產靈次神皇產靈是爲
造化三神矣
漢人所謂上帝印度人所謂梵王帝釋等恐
是詩以文王小心翼翼昭事上帝大明

○古義神代考上

此者晴雨玻璃...
 別器ニモ水銀ヲ置テ
 但シ游氣シ管中ニ
 漏テ恰好ノ所ニ至
 テ自ラ止ルモ水十
 ラハ降りモルコト
 右ノ字ヲ得テ讀ム
 以下モ心得テ讀ム
 此字本ノ一ナレバ
 イタカカナシ

三神始造水火
 漢人以天地始初混沌未分時想只有水火
 二者。朱子
 水火未分其氣混沌其形譬猶魚之浮水上也
 水火既分昇者爲日降者爲月殘者爲土
 土猶星也說見下
 日爲之天原
 漢人以水土之氣升爲天論物理
 月爲之黃泉
 佛郎斯國ノ學者是器ヲ携テ高山ニ登ルニ是器ヲ一愈ク高クハ水銀降ル
 愈甚如何トナレハ若ク今ノ游氣既ニ是器ヨリ以下ノ処ニ降りテ重且重ク水

銀ニカクル一能ズカ故ナリト云リ
 又曰ヒニツトデドクカスルニ人高上ニ登ル
 測ルニ平氣ノ氣ヨ
 リ薄キトヒユツト
 テドクハ四倍弱
 ナリトシカスルハ羅
 強ナリトセリ
 今四倍ヲ本トシ
 里以上ノ氣ヲ推
 ツテスルニ其平地游
 氣ヨリ輕薄ナル
 六里ノ上ニテ十六
 倍セリ九里ノ上ニ
 テ八十六倍セリ
 十二里ノ上ニテ八百餘
 万倍セリ千二十四
 中ナリニ百里餘ニ
 至レハ誠ニ至極ナリ

漢人以黃泉濁水也。孟子
 土爲之世界
 西人以此曰西人以諸國傳說天色如火火色氣
 氣色水水色土重重色裏人之肉目止見水
 土二行不見氣火二行
 其因昇者化神號可美葦牙彥舅次天常立此
 神皆棲乎天原故謂之天神
 漢人以天之神棲乎日人之神發乎目皇極
 日月者所謂陰陽之精也淮南是也天原黃泉者
 〇古義神代考上
 〇二

忠雄按ニ
地面三遊氣最
毛厚濃ラ太陽ノ
光ヲ受テ及照ル
ニ足レ者ハ僅ニ正
上二十一二里間ニ
スキス太陽出沒横
射ノ光映ノコ游氣
中ヲ経曆スル所ノ
分二百五十余里ニ
スキス何モ我國ノ
道法且是皆辰昏
時刻ノ長ニヨリテ測
量メシル所ナリ

所謂日中有三足鳥。歷天月中有兔與蟾蜍之類。五經是也。日月土雖既有體而未有用焉。及國常立豐斟淳塗土煮沙土煮角檝活檝。大戸之道。大戸摩邊。面足惶根。伊羿諾。伊羿冉。諸神化生。諾音奴各反。此訓那那。天神賜伊羿諾伊羿冉。二靈天瓊戈。勅造國土。佛經亦有造天地之說。於是二靈立於天浮橋之上。漢人傳說堯時巨查浮西海上。十二年一周。

○重カニ中カハ源ヲ造化不測ノ中ニ受テ用テ世間ノ事ヲ表シ施ス夫ハ是ヲ得テ清ク地ハ是ヲ得テ寧ク水ハ是ヲ得テ安シク火ハ是ヲ得テ安シク土ハ是ヲ得テ安シク空ハ是ヲ得テ安シク是カニヨラスト云フナレ大地ノ形ハ渾球ノ如ク上ノ面ハ陸者ハ河海トナリ下ノ面ハ水者ハ山トナリ平地トナリ田地トナリ然レ氏山ノ谷ノ金地ニ於テハ巖ハ波瀾ノ海面ニアルカ如シ大地渾圓ノ形ヲ成ルニ是ラズ地回アラスト云フ無ク國平ナラスト云フナレ其ハ四其平皆重カ勢ヲ方ヨリ均争競スルカ如ク皆地心ニ向テ輻湊スルカ故ニ如此渾圓ナルヲ得タリ万物ハ地面ニ住ス亦皆地心ヲ指テ下ス故ニ地球ノ四面總シ人住非ト

拾遺記亦浮橋之類與。漢人以水落土出遂成山川。故山川形有波浪之勢。草木又聞度再格之地有沙海。沙乘大風如浪行旅過之偶爲沙浪所壓倏忽上成丘山。名曰自凝島。造化之妙有度再格之一海。其性凝結不生波浪。嘗湧大塊如松脂不能沉物。雖用力按。

○古義神代考上

○三

云一十若... 天下之國中... 或不能天... 所アルベシ... 至宝ノ本體... 能立彩ヲ生... 大ニシテ天... 折半スルハ... 地心ニ遠キ... スルヲ落ト... 全ハ氣ヨリ... 水ヨリモ重... 中ニアルハ... アルバ院ノ... 故ニ氣中ニ... 水中ニアル... 重カクテ争... 水ノ分ニ火... 吸テ伸テ氣... 輕ニシテハ... トナリ取合... モニ重ニシ... 雲トナル其... 氣ト重カク...

抑不能入... 凝爲石之類... 二靈降居... 利未亞界... 高凡風雨... 視日星倍... 乃巡天柱... 漢人所謂... 初二靈分... 初二靈分... 巡天柱相... 相遇之時... 伊羿冉神... 先唱曰

體重ク疎伸... 折半スルハ... 地心ニ遠キ... スルヲ落ト... 全ハ氣ヨリ... 水ヨリモ重... 中ニアルハ... アルバ院ノ... 故ニ氣中ニ... 水中ニアル... 重カクテ争... 水ノ分ニ火... 吸テ伸テ氣... 輕ニシテハ... トナリ取合... モニ重ニシ... 雲トナル其... 氣ト重カク...

妍哉可愛... 是爲一切... 伊羿諾神... 而先生蛭... 而流棄... 商船之通... 次生淡洲... 具奏其狀... 漢人亦嘗... 女媧氏補... 天淮南黃... 帝登雲天

○古義神代考上

○四

古ナリ是皆其力
ニヨラズト云フナリ
重カリ大地ノ力物
引ニ起ルナリ大地
能万物ヲ引クニシテ
ラス万物亦能大地
ヲ引ク其力ハ万物
ト相引モノニ唯小者
ハ引カ微シ其動ハ
著ナリ大者ハ引カ
盛シ其動ハ微ナリ
是ヲ以テ大地金木
落スノ金木大地ニ
夜少其力大地ト金木ト相引
聲ハ小船ト大船トアリ
百斤十人一人有ニ
百間大船ハ動ク一
一丈ナルナリ大船
スレハ大地ハ上行
ト船トノ如シ然レ
九ノ動ニ比スルモ
地面ニ在テ重カ極
強シ地體至近ニ
實氣ヲ以テ一方ヨ
引カ故ナリ若地中
ニムル一數百里ナ
重力漸ク減ヘシ實
氣上下ヨリ引カ故
リ地心ニ至テハ絶
重カナルベシ同ク
万方ヨリ引カ故シ
若又天上ニ升テ地
ヲ去リ地球ノ全徑
等ナキ所ニ至ラハ其
力地面極強カニ比

莊子。然世人多疑而不信焉。是亦所謂聞道
史記。然世人多疑而不信焉。是亦所謂聞道
大笑之徒。固不足論也。夫飛龍騰蛇。能乘雲
遊霧。今謂龍蛇得之。神靈不得之。豈可乎。
時。天神以太占卜之。乃教曰。婦人之辭。其已先
揚乎。宜更還去。改旋天柱。乃降之。
百再西亞人相傳。太古生民之始。人類聚居
言語惟一。自洪水之後。機智漸生。人心好異。
即創一高臺。欲上窮天際。上帝憎其長傲。遂
亂諸人之語音。漢人以天下之理。夫者唱。婦

者隨。關尹
故二靈改復巡柱。是行也。伊羿諾。神先唱。伊羿
再神後隨。然後以淡洲為胞。生大八洲國。
謂生洲者。即生其主宰也。漢人以天非自天。
有為天者。地非自地。有為地者。關尹萬物芸
芸。無主則亂。草。致
既而伊羿諾神曰。我所生之國。唯有朝霧而熏
滿哉。乃吹撥之。氣化為神。號曰級長津彦。級長
戶邊。是風神也。

一丈ナルナリ大船
スレハ大地ハ上行
ト船トノ如シ然レ
九ノ動ニ比スルモ
地面ニ在テ重カ極
強シ地體至近ニ
實氣ヲ以テ一方ヨ
引カ故ナリ若地中
ニムル一數百里ナ
重力漸ク減ヘシ實
氣上下ヨリ引カ故
リ地心ニ至テハ絶
重カナルベシ同ク
万方ヨリ引カ故シ
若又天上ニ升テ地
ヲ去リ地球ノ全徑
等ナキ所ニ至ラハ其
力地面極強カニ比

血八却テ地面重カ
ニ當ル其數ヲ互テ
重カノ強弱ヲ知
是故ニ互數ニ應ス
ト云

屈伸變化ハ引カ
スル所ナリ引カト

重力ト二用ナレ其層

ハ根ナリ地ニ各々ニ於テ

ハ重カト云精氣微

質ノ上ニテハ引カ

上ナリ其餘彈力

吸カ末心カト云

モ皆引カノ別名ニ

諸所見ノ人カ子

質ノ分

質ヲ成セル者ヲ云リ質ハ又質ヲ積テ生ズルカ故ニ

推テ知ヘシ頭微鏡ヲ以テ水面ヲ見レハ麻葉ノ如キ紋アリ此紋ハ水ノ分子ノ本形ニハ

ニ形ノ因天高妻ノ粉ヲ見レハ悉ク三角ナリト云リ色声香味ノ万殊ナルモ素

人カ子ヲ以テ人カ子ニ似セルノ異ニヨリ一水ニノ雨散氷ニ雪トナルカ如レハ分子ノ本形ノ異ニヨリ

引カト不同ナリ譬ハ片ト片トハ相粘ルノカ強ク九ト九トハ相粘ルノカ弱ク水ノ能流動スル

精粗固柔モ様々ナリ是故ニ屈伸變化モ様々ナリ或ハ伸物ノ間隙ニ

力粘カモホ引カ強キ

氣ヲ引レハ是ヲ媒

トメ結テ屈物トナ

或ハ屈物ノ縫錠

ニ引カ強キ氣ヲ引

入シ是カ爲ニ割折

セラレテ解テ伸物ト

ナルノ類ヲ屈伸變

化ト云リ

引カニニ義アリ重力
ノ天ニアルヲモ引カト云屈
伸變化ノ引カト自ラ
別ナリ重カハ形ノ爲ニ
亦変ス引カハ形ニヨリ
テ殊ナリ重カノ所及
ハ遠ク引カハ唯ニ至

之山其魂則鎮於紀伊國熊野之有馬村土俗
祭之則有花時則以花祭又用鼓吹幡旗歌舞
而祭矣伊弉諾神遂拔所帶十握劍斬軻遇突
智爲五段此各化成神也

度再格國有鳥名弗尼思其壽四五百歲自
覺將終則聚乾香木一堆立其上待天甚熱
搖尾燃火自焚矣骨肉遺灰變成一蟲蟲又
變爲鳥故天下止有一鳥而已西國言人物
奇異無兩者皆謂之弗尼思云天下之奇鳥

得テ見ルハカラスト魚モ各々本形ノ異アリハ
如干紋アリ此紋ハ水ノ分子ノ本形ニハ
色声香味ノ万殊ナルモ素
或ハ伸物ノ間隙ニ

獸尚有如斯者

復劍刃及鐔頭垂血激越著天安河邊所在五
百箇磐石各爲神又斬血激灑漆於石礫樹草
此草木沙石自含火之緣也

天安河者即天漢也五百箇磐石者即星辰
也漢人以星石也孟康便是所化之神皆是
星中之神人近世西人嘗作惑星地動之說
其意蓋亦近于本教也一說以伊弉諾神斬
軻遇突智血成赤霧天下陰闇直達天漢

迎際於テス磁鍊
吸ヒ珀、艾ヲ拾フモ
氣ヲ放テ其氣引
カヲ以テス上云リ是又
至近際引カヲ以テス
物ヲ挽カスルモノナ
引カ遠ク相及モノハ
力人ノ子ノ形ニ拘ラ
ス至近ニ拘ル者ハ分
子ノ形ニ拘ル故ニ形
ノ為ニ變セサルト形ニ
ヨリテ殊ナルト異ハ
リ實ハ此引カ至近
際ニ於テ所引ノ分子
ノ重力ニ過ルル甚大
ナレ僅ニ微ク相遠ク
ハ亦及シ生ル能ハス
ナルカ故ニ遠ケルハ至
其即積ル也

○常靜者常動 靜ナル者ハ靜ナラサル能ハス動者動サレ能ハス靜者動カサレハ動
能ハス動者止メサレハ靜ナル能ハス是レ以テ動機一矣スル者ハ常ニ一定方ニ向テ直
線ヲ画行ソ自ラ止留スル一ナク動機至ラサル者ハ常ニ一定方ニ安在ノ永靜不
動ナリ動靜錯綜引カ相及ニ至テハ動ヲ亦及ノ靜トシ靜ヲ轉ノ動トシ
動物未テ靜物ニ触
レハ靜物ハ是カ為ニ動
キ動物ハ其カ衰損
ス速者追來テ遲者
ニ及ベハ遲者ハ是カ
為ニ速ヲ益シ速者ハ
其速ヲ損ス強弱
兩動互ニ來テ相觸ル
寸ハ弱ナルハ退キ強
ナハ速ヲ加テ而モ猶
進ム兩動等分ニ
互ニ來レハ合体ノ靜
トナル唯彈力アル者
相退ル
彈力ハ物ニ抗リテ彈
キ戻ルカヲ云フ
カモ亦彈力ナリ

爲三百六十五度七百八十三磐石是謂星
度之精也。天書
然後伊弉諾神追伊弉冉神入於黃泉伊弉冉
神曰吾夫君何來之晚也吾已飡泉之竈請勿
視吾矣。
世人忌食死家之火自大古之法也西域一
種退擺特之人敬火其說以天生五穀地產
牲畜非火人何由而食之入之所以生火養
之也。西域聞見錄

言訖忽然不見于時間也伊弉諾神陰取湯津
爪擲牽折其雄柱以爲一片之火而視之則伊
弉冉神脹滿太高上有八色雷公今世人夜忌
一片之火此其緣也
又婦死時夫避其葬處蓋亦是故也漢人以
今人新死味斂者聞雷聲屍輒漲起五雜俎
伊弉諾神大驚因將出返盟曰族離乃唾矣乃
掃矣
漢人以鬼唯畏人唾列異

○古義神代考上

○八

鏡面ニ物影ヲ移ス
 光氣ニ彈力アリ
 鏡ノ平面ニ梳リ
 テ飛テ反スルカ故ニ
 凡物体ノ合織様
 亦カ故ニ粘直ニ
 疎密ノ品アリ分子
 ニ剛柔ノ等アリ分
 子密合ニ粘力固
 大ニ外カノ力ニ
 曲ラサルヲ以テ偶大
 カニ遇テ子ハ粘力
 ノ再合スルヲ能ハ
 サルハ強物アリ分
 ツ子疎合ニ粘力微
 小ニ外カニ堪カ
 フ以テ小カノ力ニ
 動テ一点ヲ留ルハ
 柔アリテ外カノ力
 多ハ分子ノ虚実ニ
 分子疎密粘力大小
 相違外カ至ルハ粘
 微ク相開テ而モ相
 留ス至近ノ際ニ

又他点ニ粘セス外カ去シハ再各其本トフ引テ粘合ノ始ノ形ニ復スル者ハ是彈力也
 者ハ皆引カニヨリ天下ノ諸動彈力ニヨル者甚多シ右一條ノ外ナル諸動ハ
 彈力有無ニ拘ラス
 體重者ハ遲ク體輕者ハ速ナリ體重ノ速ナルハ其動力強ケルハ體輕ノ遲ハ其動力
 弱ケルハナリ今甲乙二
 体アリ甲体ノ重キ
 乙体ニ倍スルニ甲ノ動
 力強キ一乙ノ動力ニ
 一倍也ニ体ノ動其
 速力同分ナラシ是故
 ニ動力相等ノ速力
 不同ナルハ其速力
 數ヲ互ニシテニ体速
 カヲ知ルニ体ノ遲速輕
 重相等ノ速力不同
 凡寸ハ速力ノ數ニ
 テニ体ノ動力強弱
 其速力ノ知ん天地
 遲速ニ應スヲ知ん天地
 間万化稠密ニ

既而走還時伊弉冉神恥恨曰何不用要言令
 吾恥辱乃遣泉津醜女八人追留之故伊弉諾
 神拔劔背揮以逃矣因投黑髮此即化成蒲陶
 醜女見而採噉之噉了則更追又投湯津爪擲
 此即化成筍醜女亦以技噉噉了則更追今世
 人夜忌擲擲此其緣也又向大樹放庭此即化
 成巨川醜女將渡其水之間已至泉津平坂是
 時又雷等皆追來故伊弉諾神隱其坂路所植
 桃樹下因採其實以擲之則雷等皆退走矣此
 轉ノ他ノ一点ニ粘シ隨テ留ルハ弱物ナリ強弱各剛
 柔アリテ外カノ力ニ應セリ又柔木ニ強ナルアリ剛ニ弱ナルアリ體ノ剛
 柔多ハ分子ノ虚実ニ依リテ必シモ分子合體ノ疎密ニ拘サレハナリ又一種ノ體
 分子疎密粘力大小相違外カ至ルハ粘微ク相開テ而モ相留ス至近ノ際ニ

用桃避鬼之緣也
 漢人亦稱桃之制鬼者不一其見於所謂經
 則巫祝桃茱之類禮檀是也於其國尚令巫
 祝袪除不祥然後
 進吊論佛骨表
 最後伊弉冉神亦自来追故便以千人所引磐
 石塞其坂路遂建絕妻之誓時伊弉冉神曰愛
 也吾夫君言如此者吾縊殺汝所治國民日將
 千人伊弉諾神乃報之曰愛吾妹稱妻為妹言
 如此者吾則產日將千五百人

而天動靜ニ外ナラス万
動皆引カニ起リ引
力強弱ナ差ニメ物
体輕重ナ別ナルハ
故ニ動靜ニ變化他
空窮リナレ然ラサル
動者ハ常動ナリ靜
者ハ常靜ナリ一動
スル者ハ引カ繼カス
自ラ動ナラハ能ハス
或曰靜者ハ自ラ動
能ハスト云ハ非ナリ
如何トナレハ凡動者
久ノ而後其動衰減
セサルナレ然ハ常動
ハ日月ト星トノミナ
淡濃ノ別ハアリ又
為ニ障碍セラル如何
ソ能長久ナルヲ得
ニ是其動體自ラ靜
トナルハ

アラス游氣障碍ノカ
ヲ以テ靜ニシムルモ
ナリ其地上ノ動物ハ
或ハ地ニ轉テ行キ
或ハ水ヲ磨ソ行カ
故ニ皆ソシカ為ニ
障碍セラル是故ニ
進歩スレハ其行終
ニ止ル者ハ水ト舟
底ト相磨スルナリ
獨樂ノ廻轉ノ無窮
ニ至ラサルハ其軸
ノ立ツ所地ト相轉
レハナリ是等皆游
氣ノ障碍ノミナラ
ラサレハ久
堪ルノ能ハス唯上天
ノ氣ハ至淡至薄ニ
ノ其障碍ノ力至微
至弱ナリ故ニ日月
星ノ行能長久ナリ
ヲ得ルモノナリ是
ヲ以テ觀テ動者自
ラ動トナレ能ハス
ニアラス是故ニ礙
界純空ニ游氣ノ障
碍モナク一物ノ相
引者モナクラン寸
ニ一丸ヲ取テ其中
ニ投ルテアラス是
丸能ハス一線路ヲ
守テ無窮ニ至テモ
其向方

是日生者多於日死者之緣也。
其於泉津平坂所塞磐石。是謂泉門塞道返大神矣。謂泉津平坂。今出雲國言屋坂是也。或所謂泉津平坂者。不復別有處所。但臨苑氣絕之際。是之謂與。
黃泉一名根國。一名夜之食國。便是所在月中之處。漢人以月中有物。婆婆者乃山河影也。其空處乃海水影。淮南凡在神世以現在身。往來於黃泉者。有伊弉諾大國主二神。此

是神靈之事。常人有涯之智。不可得而思議也。姑以今人論之。夫如今人形軀受之父母。靈魂受之天神。造化形軀。可滅。靈魂不可滅。一至命終。則靈魂忽去而適於黃泉。故俗謂蘇生為泉返。靈魂又有體與用。所謂魂魄是也。體則屬黃泉。用則屬世界。漢人以能人生始化曰魄。既生魄。陽曰魂。用物精多。則魂魄疆。是以有精爽。至於神明。左傳蓋至其死為貴神者。則兼體用。而神氣全耳。想若夫天堂地

○古義神代考上

○十

理ナキ一明ニ曰六合虛廓ノ中ニ在テ人ノ仰見ル所
真ニ空虛ナルニハアラス氣アリテ云ル滿セリ天氣地氣
淡濃ノ別ハアリ又是氣ニアラズト云レナレ動ヲナス者
其六中ニアルカ故ニ氣ノ為ニ障碍セラル如何ソ能長
久ナルヲ得ニ是其動體自ラ靜トナルハ

動物ハ或ハ地ニ轉テ行キ或ハ水ヲ磨ソ行カ故ニ皆ソシカ為ニ障碍セラル是故ニ進歩スレハ其行終ニ止ル者ハ水ト舟底ト相磨スルナリ獨樂ノ廻轉ノ無窮ニ至ラサルハ其軸ノ立ツ所地ト相轉レハナリ是等皆游氣ノ障碍ノミナララサレハ久

ト速カトト変スル一
ナルハ然ニ人テ一
石ヲ取テ是ヲ投ル
其行久キ一能サル
游氣障礙カヲ待
テ然ルニアラス一重カ
為ニ後格テ地ニ止ナリ
一箇ノ鉛ヲ以テ
細糸懸テ手ニ持
テ振轉セシム是ヲ名
テ振子ト云カヲ出
急ニ是ヲ轉スハ其
丸ノ軌跡一円ヲ中
ニ画ス是丸未タ動セ
寸ハ垂下セリ僅ニカ
ヲ得ハ其勢ヨリテ
直線路ノ行ヲナサントス若シ御スル糸ヲ以スルニ非スハ必遠ク去ヘシ是故ニ試ニ
スルヲ断絶セシムハ其丸必ス當時所在ノ点ノ切線切線ハ四角ニ切スル直線ニ從テ
走り去モノナリ此時重カナカリセハ其動必無窮ニ至ル能ハス丸ノ力ハ引カニ止メテ
此ニ至ル地ニ其走り去ノカハ切線路ニ從テ若切線ヲ画セハ必横ニ向テ其四心ヲ
正立スル者ナリ

獄之說亦曾有取于此也
伊弉諾神既還乃將滌去黃泉之濁穢往至筑
紫日向小戸橋之檍原而後除焉
日向小戸古事記作橋之小門蓋是速吸名
門古名在豐後伊豫之間漢人所謂土佐至
佐加關海面一百八十里圖書便是凡海船
至日向者必取針路於此門故曰日向小門
如橋豐日天皇明諱恐亦象此地余別有說
檍原淡湧之原之義也

遠カルベシ是ヲ以テ觀ハ鉛丸轉行ノカハ四心ヲ遠サカラントスルモノナリ是カヲ遠心カ
ト名ケ若果ノ心ヲ遠カラハ如何ソ四ラ画スルヲ得ニ故ニ其丸ヲ御ノ其カヲ止
ニスルヲ求心カト名ケ而カ相待ソ其糸緩ナル一能ハス丸ノ力ハ引カニ止メテ
寸モ亦隨テ大ナリ
其四振子ノ遠心カ
ハ重カノ為ニ所ナリト
云リ然氏振子ノ画
スル四形ヲシテ平直
ニ立セシメテ丸ヲ
轉シ其四輪ノ頂上
ニ升リ云云シムル時其
丸猶能其糸ヲ引ク
若重カノ為ニ所ナリ
ハ重カノ力ハ常ニ
下ニ向ヘリ如何テカ
頂上ニ在テ糸ヲ引
クヲ得然ハ遠心カ
ハ動カノ勢ヨリ出ス
ルモノニ重カト混ス
ヘカラサルヲ知ベシ

因投其衣帶杖履此皆為神
蓋是世人棄觸死穢之杖履之緣也
乃興言曰上瀨是太疾下瀨是太弱便濯之中
瀨也
是亦天下修禊事之緣也漢人以倭人入死
已葬則舉家入水澡浴身潔以除不祥魏志
又聞東印度有大河名安日國人謂經此水
一浴所作罪業悉得消除五印度之人咸往
沐浴冀得滅罪生天也或亦有傳聞於本教

地球一昼夜一週轉
 万物ト皆其上一
 在テ同運セリ亦
 猶振子ノ轉ルカ
 如シ南北各自ノ本
 輪アリテ大小同カ
 ラス而モ皆赤道大
 輪ト相並ヘリ此如
 ナルハ我ト万物ト
 各遠心カアリ然ニ
 我徒ノ足ハ糸ヲ以テ
 地体ニ結ヒ附ルモ非
 サルニ遠心カニヨリテ
 各其本輪ノ切線
 ニ從テ走リ去ル
 十ハ重力アレハナリ是重力ヲ以テ求心カトスルモノナリ地上ニアリニ求心カノ
 強キ一ト大ニ其遠心カニ過スリ
 ○加力変速 動ハ静トナリ 靜ハ動トナル其初ヲ知ルナク其終ヲ知ルナク向方定リ
 ナレ西行或南ヲ變シ北行又東トナル然レ凡物体自亦及ヲナスヲ能ハス 南カ東カ
 是故ニ速ハ自ラ遲ナルヲ能ハス遲ハ自速ナルヲ能ハス向方又他ヲ變スルヲ能ハス加カスレハ
 速ヲ益シ障碍スレハ遲トナル動力斜ニ加ル時ハ向方變又一分ノ力ハ一方ノ動力ナレニ分ノ
 カハ二分ノ動力ナレニ分ノ力ハ三動力四力ハ四動力ナス向方ニシテ動力頻ニ加ル寸ハ其速亦
 頻ニ增長ス是ヲ斜テ加鞭スト云物體墮落ノ行其初ハ遲ニシテ漸ク速ナルハ重力
 ノ加鞭ニ因テノ横行
 斜行ノ屈路ヲ画ス
 ルハ重力頻ニ来リ加
 テ向方ヲ亦及スルニ
 因テナリ

耳。
 因以生神號曰八十狂津日。次將矯其枉而生
 神號曰神直日。次大直日。
 凡人之死者生壽夭貧富禍福。理之不可解者。
 皆神能爲之主。其正命者。是爲伊弉諾神主。
 其非命者。是爲伊弉冉神主。其吉福者。是爲
 直日神主。其凶禍者。是爲枉津日神。蓋天命
 因果之說。自此而來。
 又浮沈海水。因以生神號曰底津少童。次底筒
 男。次中津少童。次中筒男。次表津少童。次表筒
 男。其少童三神。是阿曇連等所祭神矣。底筒男
 中筒男。表筒男。三神。是住吉大神矣。然後洗左
 眼。因以生神號曰天照大神。亦名天照大日靈
 尊。即日神也。
 佛有大日者。是本印度人稱日神名。亦不可
 知也。
 此子光華明彩。照徹於六合之内。伊弉諾神喜
 曰。吾子雖多。未有若此靈異之兒。不宜久留。此

○古義神代考上

○十二

方斜ニ交ルハ向方
速力皆是力為ニ變
ス人科交一ナラス加力
強弱モ亦一ナラス是故
ニ其向方其速力變
ヲナス一ナラス差ハ端
ナリ

○重動大地ハ重力
ノ根本タリ重力ノ
乃所實ハ遠近不
アリ重力ノ為ニ重ルカ
如シ然レ人カノ為ル
所石ヲ投シ丸ヲ飛
スカ如ハ丈尺ヲ以テ
數フヘキノ間ニアリ其
上下高卑ノ重カ實

ニ同カラスト虫尺而モ其差分至微ニシテ算スルニ足ラス其最高落初ノ重力ト最卑
落着ノ重力トノ差ヲ以テ落着ノ重力ニ比スルニ猶大地半徑ノ長ヲ以テ其丈
尺ノ長ニ比スルノ類ナリ然ハ落初落着ノ重力ノ差ノ落着ノ重力ニ於ルハ殆
ト一毫毛ノ馬體ニ於ルカ如シ故ニ落初落着ノ重力相殊ラストノ可ナリ是
篇ノ言所モ上下重カノ異ニ拘ラス人カノ為ルノ落體ヲ論スルカ故ナリ落初ト落着
トノ中間ノ時刻ヲ分テ無量數トナシ是ヲ名テ瞬ト云落體重カニ加鞭セラレテ
下ト上下重カ一ナルカ故ニ上下加カノ大サモ亦一ナリ落初才一瞬重カ至テ一カヲ
其フ其無量小ナリ若此ヨリ後亦重カノ相繼テ加ハ鞭ツナクハ長ク五小ノ
カヲ以テ至速ニ降
テ地ニ着スベシ

自鳴鐘ノ鐘ノ下ハ鐵
輪ノ鋸齒間ヲ得テ
其分厘ノ間ニ重カ
鐘ニ加リ又次ノ齒
為ニ重カノ加鞭ヲ止
ラシ又其次ノ齒間ヲ
得テ加カス其加速
ヲ以テ上輪ニ讓リ
上輪ノ加速ハ最上ニ
アル振子ノ為ニ支ヘ
ラル輪ノ振子ヲ撲ノ
カ強テハ振子ノ輪ヲ
撲テ止ルノカモ道ヲ
強ニ故ニ鐘ノ降下
速速ナシ常之重

國因勅曰可以治天原也。是時天地相去殊遠。故以天柱舉於天上也。

天柱者伊弉諾神吹噉之氣龍田風神號天御柱國御柱。延喜便是佛經以日月各乘五風繞四天下。經起世漢人又說天了無質日月衆星其行止皆須氣焉。晉書天

復洗右眼因以生神號曰月夜見神亦名月尊。即月神也。其光彩亞日。因勅曰可以治夜之食國。故亦送之于天。

漢人以盤古死目為日月。曆紀日神是天原之大主宰。天原所謂大陽也。月神是黃泉之大主宰。黃泉所謂大陰也。日月二神有人之貌。身帶光明。照徹於六合之內。佛經謂之日天子。月天子。

復洗鼻因以生神。號曰武速素彋鳴神。因勅曰可以治天下也。是為至貴三神矣。

夫造化三神者。生万物者也。日月二神者。照萬物者也。天者。覆萬物者也。地者。載萬物者。

量數ナリ是故曰
形ハ無量數ノ直線
ヲ以テ成ルモノナリ

振子画輪ノ地平ニ
正スルカ如ク遠心求
心ノ力ヨリ外ニ重力
アリテ下方ヨリ引
力故ニ人カヲ止ル
輪轉ノ動モ止リ
振子若地平ニ轉
正輪ヲ画スル寸ハ其
動能久ニ堪テ其行
又遲速ナシ地平正
立ノ寸ハ重力輪ノ
側ヨリ引キ平轉ノ
寸ハ重力輪ノ周圍ヲ均ク引カ故ナリ但シ振子ノ動法ハ委ク下ニ見タリ此篇ハ
重カヲ指テ云モアラズ振子ノ動ヲ指テ云モアラズ橫行ノ遠心カトハ向フノ
求心カト相等ソ以テ正輪ヲ画スルノ數理ヲ廣ク云モナリ
○旋輪動法 旋輪動法何モ奇見ノ書ニ出タレ元來
和蘭人呼ビ遠心求心ノ線ノ長短ニ應ス
西カノ大小ハ同時刻ノ間ニ輪ヲ旋ル其輪ノ大小ハ不同シ周ノ時刻ハ相等寸ハ遠心カノ
今ニ休アリテ又口其輪ヲ旋ル其輪ノ大小ハ不同シ周ノ時刻ハ相等寸ハ遠心カノ
大小ハ各輪ノ周圍ノ長短ニ應ス

此ヲ以テ知ル今地球
ノ住人各其輪心ヲ
遠シトスル所ノ遠心
力ノ大小ハ各地非極
度ノ引カ正弦ノ長
短ニ應ス其故ハ國
皆一尺旦夜ヲ以テ一
周ス其時刻相等
ノ其輪ハ則大ナリ
云
右ノ妙ノ赤道ニ近キト
ニ極ニ近キトニヨリテ遠
地心カ強弱不同アルカ
故ニ諸体隨落スルニ
至亦遲速不同アリ赤

四十八萬二千五百二十里餘地大レ于月三
十八倍又三之一。此說雖殊知其當否亦足
以語本教之真義也。然大低世人。不曉造化
之妙在理之外。以己所見妄意以為怪力之
說。無足取焉。不臨深谿不知地之厚。荀夏蟲
疑氷。孫綽。古人善言。是此等人。便是殊解聖
人胸中周當無怪也已。
是後伊辨諾神神功既畢。德亦大矣。於是登天
報命。仍留宅於日之少宮矣。

日之少宮。便是所在日中之處。猶月中有廣
寒清虛之府。天寶遺事。想若夫日中黑點。日輪黑
文經緯。又望氣經云。漢蓋亦諸天神靈之所
居耳。
其魂則鎮於淡路之洲。

右第一章

天照大神在於天上。勅月夜見神曰。聞葦原中
國有保食神。宜再就候之。
葦原中國猶漢人謂其國曰中土中華也。史記

道三近キ國ニテハ遠地
心カ小ナルカ故ニ落ル
速ナリ是ハ西國諸名
家ノ親ク南北ノ諸國
ニ在テ振子ノ動ニヨリ
テ測リ試テ知所ノ
實事トナリ但此
ノ如ク陸速ノ異アリ
トハ黃氏是又微ナル
トナリ重カト遠心カト
ハ也重カト遠心カト
ノ強弱ノ論ハ委ク
下ニ見ヘリ又西國
諸名家南北諸國
ノ海上ニテ地面一度
ノ里數ヲ測リカ
其里數稍不同アリ
形微クニ極方ニ於テ
ニテ厄通カ其數理ヲ
ハ其扁形ニ拘ラス
心カハ弱ノ重カハ甚
大ニ扁ナルヲ得ス
今ニ一ニ同輪ヲ旋ル
是ヲ以テ知ル地球
スベレニ倍ナラハ遠心
カハ九倍スベシ
今ニ一ニ同輪ヲ旋ル
ニ當テ其遠心カハ遠
ニ倍止シ其求心カヲ
重カトノ頻ニ加カ
直落スルノ間ニ其
若干時刻ノ間ニ落
ル所ノ線ノ長ヲ以テ
是ニ倍常ノ如ク旋輪
ノ同時刻ノ間ニ行
セシ所ノ弧ノ長ニ比
其同時刻ノ行ノ弧
ヲ以テ人王經ニ比スル
カ
今ニ一ニ同輪ヲ旋ル
其速カノ大カヲ測ル

如騶行言。中國名赤縣神州。中國外。如赤縣神州者九。乃所謂九州也。月夜見神受勅。而降于保食神許。保食神乃迴首嚮國。則自口出飯。又嚮海則鱗介亦自口出。又嚮山。則鳥獸亦自口出。漢人傳。有騰黃神獸。其色黃狀如狐。背上有兩角龍翼。出日本國。壽二千歲。黃帝得而乘之。遂周旋六合。雲笈軒。豈亦保食神之所產與。蘇子嘗曰。予於趙世家。削簡子之夢。黜扁鵲之說。以為為國不可以語怪。及扁鵲列傳。

地面南北一度ハ不同アルハカラサルニ不同アルモハ是地球ノ形微クニ極方ニ於テニテ厄通カ其數理ヲハ其扁形ニ拘ラス心カハ弱ノ重カハ甚大ニ扁ナルヲ得ス今ニ一ニ同輪ヲ旋ル是ヲ以テ知ル地球スベレニ倍ナラハ遠心カハ九倍スベシ今ニ一ニ同輪ヲ旋ルニ當テ其遠心カハ遠ニ倍止シ其求心カヲ重カトノ頻ニ加カ直落スルノ間ニ其若干時刻ノ間ニ落ル所ノ線ノ長ヲ以テ是ニ倍常ノ如ク旋輪ノ同時刻ノ間ニ行セシ所ノ弧ノ長ニ比其同時刻ノ行ノ弧ヲ以テ人王經ニ比スルカ

則具載其說曰。世或有是不足怪也。蓋孔子作春秋。非人事不書。而左丘明所記鬼神變怪。世所共傳者。錄之無疑。世有達者當辨此耳。是可謂閱覽也。夫品物悉備。貯之百机。而饗之。月夜見神。忿然作色曰。穢矣鄙矣。寧可以口吐之物。敢養我乎。延拔劍擊殺保食神。復命具言其事。時天照大神怒甚曰。汝是惡神。不須相見。乃與月夜見神。一日一夜。隔離而住。

是体其亦心カト重カ
 トノ頻ニ如カノ本輪全
 經ノ四分ノ一ヲ落テ得
 タルノ速カニ等シ是ヲ
 以テ知ル凡速カ此ノ如
 ル者ハ能正輪ヲ旋リテ
 求心ニ逐心ニ力相適ノ
 其行速速ナキ一ヲ得
 但速カ如此ト長ニ其
 初動機正横ニ向サル
 モハ正輪ヲ画落線ヲ四
 スル事能ハス
 分經ノ一ニ画弧ヲ四分
 經ノ二トス如何トナレハ
 四分經ノ二ハ即半經ニ
 四分經ノ一ハ半經若
 半經禁人主經是ヲ以
 テ落線四分經ノ一ニ
 寸ハ画弧ノ長カ半經
 二等シ又辟言ハ彼此二
 力ヲ以テ平行セハ其同
 今平行ノ弧ハ半經ニ等
 ノ速カト平行速カト必
 相等ヲ得

蓋是日月有合度隔離而時蝕之縁也。漢人
 以日爲徳而君於天下。月爲刑而相佐。史
 是後天照大神復遣天熊之大人往看之。保食
 神實已死矣。唯有其神之頂化生牛馬。願上生
 粟。眉上生鹽。眼中生稗。腹中生稻。陰生麥。及大
 豆。小豆。天熊之大人悉取持去而奉進之。
 古之大宛今号哈薩克。歲有納支那之稅。牛
 馬百取一。羊千取一。其王初則大費躊躇。蓋
 其衆之意以爲。天生水草。天產牲畜。我等自

○赤道遠心カ張本
 ノ跡ヲ以テ錐形ヲナス其
 其重カニ比ルニ各其輪
 振子動法ニ一箇ノ振子
 輪經ヲ以テ其糸ノ長
 二比ルニ甚小ナルハ一
 周時刻始相等シ敬
 振糸ノ長ハ変セズ
 諸輪ノ經皆小ナルハ
 諸錐ノ高サ始相等
 故前段ニ振子ノ二
 輪同時刻ニ一周スルカ
 如シ振子必上ニ懸ル
 所ノ処アリ九ノ動隨
 テ其懸心所ト糸ト相
 磨スルカ故ニ障碍ヲ
 ナス又糸ハ輕薄ナル
 者ナルカ故ニ游氣ノ
 障碍モアリ是故ニ
 大輪漸々ニ小輪トシ
 ナリ是故ニ手ヲ以テ

費經營如何有貢賦之說。
 天照大神見之甚喜曰。此是顯見蒼生可食而
 活者也。乃以粟稗麥豆爲陸田種子。以稻爲水
 田種子。又因定天邑君。即以其稻種始殖于天
 狹田。及長田。其秋垂穎。八握莫莫然。甚快也。又
 口裏含蠶。便得抽絲。自此始有養蠶之道焉。
 漢人以神農始教民播種五穀。淮南黃帝元
 妃西陵氏始養蠶絲。雲
 是時素戔嗚神年已長矣。復生八握鬚髯。雖然

振子ニ動ク其ヘテタヒ
旋輪ヲナセムルノ後ハ
自ラ旋輪ノ止ムヲナシ
ト臣氏其輪漸クヤク
ナリテ遠ク力減ルル
モノナリ是其ハ動力
漸ク衰ルル故ナリ
然レ此段ノ言ハ如ク
其輪何モ小寸ハ一周
時刻ハ殆ト相等シ
下横振ノ一振時刻モ
亦此ニ類ナリ

振子動法三
一、固ノ振子ヲ地平ニ轉
ノ諸小輪ヲ画ス其諸
輪一周時刻ヲ以テ振
糸ニ箇ノ長ヲ五倍スル
振子平轉一周間落線定法
十九箇七三九
時刻ハ落線ノ幕根ニ應ス
而シテ落線ハ又錘高ニ應ス
然レ則時刻ハ錘高ノ幕根ニ應ス
此時其一轉時刻ト至微小輪ノ一轉時刻トハ九十九ノ幕根ト百ノ幕根トノ加シ其ハ差
殆二百分ノ一ナリ斜角ハ度ヨリ小ナルハ轉輪速テ小ナルハ故ニ其差光四ニ微ナリ
但シ其差二百分ノ一ナリ斜角ハ度ヨリ小ナルハ轉輪速テ小ナルハ故ニ其差光四ニ微ナリ
斜角ハ度ノ輪ハ二百
轉ストルベシ

鹿島解
以申云鹿島跡トハ車輪
ニ附タレ鹿島車輪ニ隨
テ升降シ穴ニ中ニ其
跡ニ画キ中還ス居ル
是ナリト名テ鹿島跡
トトイヘリ圖解ナル
ハ故ニコトニ抄出スル
ヲ得ス凡他モ圖解
ハコトトク更ハスルモノゾ
振子ヲ垂下ノ横振メ
画セシムル正輪弧ヲナス
其弧微小ナリハ最卑

不治天下常以哭泣為行令國內人民多以天
折復使青山變枯

伊弉冉神日縊殺千人者於是乎見矣

嘗天照大神之田有三處此皆良田雖經霖旱
無所損傷

霖旱以人事說焉

素戔嗚神之田亦有三處此皆磽地雨則流之

早則焦之故素戔嗚神妬害姉田凡其惡事曾

無息時雖然天照大神恩親之意皆以平恕容

焉至其當天照大神新嘗時陰放戾於其新宮

天照大神舉體不平

放戾詛人蓋亦起于此

又見稚日女神居于齋服殿而織神衣逆剥班

駒投入之稚日女神見驚墮機而神退天照大

神發愠乃入于天石窟閉磐戶而幽居焉於是

六合之内常闇無復晝夜之殊凡厥庶事燎燭

而辨

或謂日神入石窟蓋支那五龍紀以前之事

○古義神代考上

一、去一、遠カララズ、強
 塵跡形、同、是故、
 振子ノ横振モ其弧小
 ナリ、ハ、皆同時刻ナリ
 トス、其數理ノ事、ハ
 下ニ見、タリ、又、振子ヲ
 ソ、塵跡形、ヲ、画セ、
 ル、則、衣、法、モ、アリ、是、
 畧、セ、
 塵跡振子動法比論
 振子長、典、振子一、横、
 振時刻之正、落線、若
 全、終、幕、子、圓、周、幕
 半、分、但、
 二、段、ヲ、以、テ、振、系、ノ、長
 ト、ス、
 故、
 何、モ、微、小、ナル、寸、ハ、二、振、ト、
 刻、ハ、小、ト、ナリ、横、振、時、刻、ハ、大、ト、ナル、
 一、地、平、至、微、轉、一、周、時、刻、ト、
 遍、時、刻、ノ、千、分、ノ、一、モ、ア、ラ、ズ、
 長、ト、モ、云、ハ、シ、又、振、子、ニ、テ、
 二、塵、跡、ノ、高、サ、ノ、一、倍、ナル、
 或、問、曰、振、子、ノ、画、弧、甚、
 大、ナル、寸、ハ、僅、ニ、二、振、
 間、ヲ、變、シ、小、弧、ト、
 ナリ、易、キ、ハ、何、ノ、理、
 答、曰、振、子、ノ、懸、ル、
 故、
 故、
 本、ト、相、懸、ス、
 故、
 其、上、画、弧、大、ナル、者、ハ、
 降、初、升、末、ノ、辺、ニ、在、
 テ、糸、ヲ、引、ク、力、甚、弱、
 力、故、ニ、糸、ノ、彈、力、ノ、為、
 是、亦、テ、受、ル、所、アリ、
 是、等、ノ、故、ニ、ヨリ、テ、變、
 ソ、小、弧、ト、ナリ、易、キ、モ、

然三代以前。文籍未備。固不可考也。但女媧
 氏鍊五色石以補天。斷鼈足以立四極之類。
 亦不甚遠也。

故八十萬神會合於天安河邊。計其可禱之方。
 時有思兼者。靈神兒。有思慮之智。乃深謀遠慮。
 曰。宜圖造彼神之象。而奉招禱也。故使石凝姥。
 鏡作遠祖。造日矛及八咫鏡。其初所造之鏡。是
 天枝戶兒。造日矛及八咫鏡。其初所造之鏡。是
 即紀伊國所坐日前神也。又天明玉。玉作遠祖。
 兒。造八坂瓊之曲玉。天日鷲。粟國忌。造木綿。又

使山雷採五百箇真坂樹八十五箇野槌採五
 百箇野薦八十五箇。又聚常世之長鳴鳥。使互
 長鳴。
 漢人以長鳴鷄。高大過常。鷄鳴聲甚長。終日
 啼號不絕。桂海虞。又意多利亞之一島。滿島
 皆鷄。自生自育云。

凡此諸物皆來聚時。天兒屋神。中臣連遠祖。興
 太玉神。遠祖。首則相與致其祈禱焉。
 是天兒屋神。主神事之宗源張本。

右振子附屬數理
各人一時試テ知リ
玉ハ

附重カノ加速ハ体
大小ニ拘ラス大小ニ拘
ルハ重量ノ動カナリ

所ノ落未ノ動カヲ
以テ十斤ノ者ヲ撲テ
升上セシムルヲハラハ
十斤者ノ升ルハ
一斤者ノ落未ノ速ハ
十斤ノ者升初ノ速
ニテハ十分一トナリ而ソ
ナリ試ニ一小專ヲ上ニ懸
テ兩鍾相切ニシテ程ニ
離ルル一ニ分ナラシム
ルニ尺ニシテ落セハ重
轉ノ障碍アル故一尺上
法ヲ準テ例トス振子諸
九ハキナリ

振子画弧ノ大小ニテ
時刻ニ不同アル例
ハ万種ノ小弧降下
時刻ヲ各別ニ算
セサレ凡知ベキノ術
アルベシ但シ本書ニハ
明説ナシ

曆象新書中編卷下
○赤道遠心カ
巴禮須城及ヒ其同
緯ニアル諸地ノ重力
ヲ以テ赤道ノ遠心カ
ニ比テ二千七百七十
七固三二ト七固五四

又天鈿女神遠祖君則手持茅纏之稍立於天
石窟戸之前而燒火處置覆槽踏之爲神明憑
談巧作俳優於是天照大神乃細開磐戸而窺
之時天手力雄神侍磐戸側則引而奉出是時
以鏡入其石窟則觸戸小瑕其瑕於今猶存此
即伊勢崇祕之大神也

漢人以伊勢乃皇大神所居武備朝鮮人亦
記崇神天皇六年己丑始祭天照大神天照
大神地神始主俗稱日神至今四方共祭之

海東諸國記
天兒屋太玉二神則界以左繩乃請曰勿復還
幸故群神大喜即科素戔嗚神千座置戸之解
除技髮技爪以唾涕爲幣乃使天兒屋神掌其
解除之太諄辭而宣之焉世人慎收已爪者此
其緣也

漢人亦說成湯大旱七年齊戒剪髮斷爪以
已爲犧牲禱於桑林之社帝王
既而群神噴素戔嗚神曰汝所行甚無狀故不

○古義神代卷上

○三

一抄ノ間ニ其輪心ヲ
 令六四ナリ是夫即
 ナリ是即七線五五
 足今五三三六五五
 ナリ其矢ヲ求ルニ無
 画行スル所ノ弧ハ其長
 是故ニ是体一抄ノ間ニ
 地球一轉ノ時刻ニ
 十九抄弱ナリコレ
 〇四抄ナリ即我九
 二十三時五十六分
 是ヲ以テ一星日ハ
 四時ト星日ト如シ
 運九旋三百六十
 度ト太陽日二十
 我百刻ナリ而ノ太陽日天運九旋三百六十度九合八夕五才六人今ハ八時ナリ即今
 再ニ南中ニ至ルハ一晝夜ヲ太陽日ト云リ太陽ハ平行一日ノ右旋無九合八夕五才六人今ハ八時ナリ即今
 五才六人今ハ八時ナリ即今
 云星日ハ天運九旋三百六十度九合八夕五才六人今ハ八時ナリ即今
 我百刻ナリ而ノ太陽日天運九旋三百六十度九合八夕五才六人今ハ八時ナリ即今
 運九旋三百六十
 度ト太陽日二十
 我百刻ナリ而ノ太陽日天運九旋三百六十度九合八夕五才六人今ハ八時ナリ即今
 再ニ南中ニ至ルハ一晝夜ヲ太陽日ト云リ太陽ハ平行一日ノ右旋無九合八夕五才六人今ハ八時ナリ即今
 五才六人今ハ八時ナリ即今
 云星日ハ天運九旋三百六十度九合八夕五才六人今ハ八時ナリ即今
 我百刻ナリ而ノ太陽日天運九旋三百六十度九合八夕五才六人今ハ八時ナリ即今

大歳大將軍大陰歳刑歳破歳殺黄幡豹尾
 是也。備後風土記。蓋蓋内傳等載此。蓋古來
 言。蓋聞之南印度之地。自五夏以至秋分。無
 耳。蓋聞之南印度之地。自五夏以至秋分。無
 日不雨。反是則片雲不合。酷暑難堪。惟日有
 涼風解之。本教曰。于時霖也。豈謂斯與。
 是後素戔嗚神曰。諸神逐我。我今當永去。如何
 不與我姉相見。而擅自徑去。與。廼復扇天扇國
 上詣于天。時天鈿女見之。而告言於天照大神
 也。天照大神曰。吾弟所以上來。非復好意。必欲

其一周ハ二十三時五十六分也。是ハ星日ヲ云リ。
 忠雄曰。星日トハ一恒星南中ノヨリ再ニ南中ニ至ル迄ノ一晝夜ヲ云リ。太陽南中ヨリ

奪我之國者與。吾雖婦女。何當避乎。
 漢人以日者陽德之母。春秋。磐余彦天皇
 曰。今我是日神子孫。而向日征虜。此逆天道
 也。神武
 乃昭裝武備。振起弓彌。急握劍柄。踏堅庭而陷
 股若沫雪。以蹙散奮稜威之雄。誥發稜威之噴
 讓而徑誥問焉。
 軍旅之事。始起于此。
 素戔嗚神對曰。吾將就乎根國。如不與姉相見

○古義神代考上

〇三十三

甲一度十分ノ正法ハ
 無箇六五八二二六
 ナリ是ヲ自乗メ
 法トシテ箇五五八
 六四ニ乘タルモノ
 是ノ三箇二六七即チ
 巴礼頂ノ遠地心カ
 ナリ此數ヲ以テ巴礼
 頂重カ二千七百七十
 四箇十ハ分箇ヲ
 三加ヘテ巴礼頂ノ
 重カノ全數ヲ得
 忠雄曰此ニ充テ重カ全
 數ハ地球不動ナリ
 寸重カヲサレテ
 前ノ塵跡旅子ノ重カノ全數トシテ者トハ別義ナリ
 然ハ巴礼頂重カ全數ヲ以テ一秒ノ間ニ止テ落スルノ線ハ二千七百七十七線三二二ノ
 二千七百七十七線ニ充テ重カ全數トシテ者トハ別義ナリ
 故ニ巴礼頂重カ全數トシテ者トハ別義ナリ
 附 二千七百七十七箇三二二ノ七箇五箇四箇三箇二箇一箇トスルニ而モ大地形ハ渾山ナルカ故ニ重カ全數ニ充テテハ万国ニ遍
 四ノ尺ニ乘メテ二百八十九トスルニ而モ大地形ハ渾山ナルカ故ニ重カ全數ニ充テテハ万国ニ遍
 是是故ニ赤道ニ重カト赤道遠心カトハ亦二百八十九ト一トノ如シ
 忠雄曰長崎ハ距北極
 五十七度半ノ地ナリ
 其正弦ハ無箇八四
 三三六ナリ其算
 無箇七一二五
 故ニ赤道遠心カ
 ト長崎遠心カト
 一箇ト無箇七一
 一二五トノ如シ故ニ
 又七箇五四〇六四
 五箇三六三トノ如シ
 是ノ五箇三六三即
 千長崎ノ遠心カト
 リ是ヲ以テ重カ
 全數二千七百七十
 七箇三ニテ減スル
 長崎重カ二千七百七

嚼而吹棄氣噴之狹霧所生神號曰正哉吾勝
 勝速日天忍穗耳尊次天穗日次天津彦根次
 活津彦根次熊野櫛樟日凡五男矣其天穗日
 神是出雲臣土師連等祖也天津彦根神是凡
 川内直山代直等祖也
 大荒之中有思幽之國思士不妻思女不夫
 是堯時益所說云思幽之國見山海經王充
 論衡曰益主記異物海外
 山表無遠不至以
 所聞見作山海經
 見

是時天照大神勅曰原其物根則八坂瓊之五
 百箇御統者是吾物也故彼五男神悉是吾兒
 乃取而子養焉又勅曰其十握劍者是再物也
 故此三女神悉是再兒便授之素戔嗚神此則
 筑紫胸肩君等所祭神也
 漢人所謂林靈素三女者丘文莊天蓋亦指
 此神也

於是素戔嗚神白天照大神曰今則奉觀已訖
 當隨衆神之意永歸根國矣請姉照臨天國可

十一箇九五七九一
 フレバ長崎ハ北ニ
 アリ長崎ハ南ニ
 故巴礼須ニ重カハ
 大ニ長安可重カ
 ハ小ナリ巴礼須重
 カニ百七十箇ノ
 五五ト長崎重カ
 ニ百七十一箇九
 五七トハ子箇ト九
 百九十九箇ト九
 故巴礼須一抄正落
 ノ子多ク九百九十九
 ナルヲ長崎一抄正
 落線二千七百七十一
 線九五七ト是我
 一丈九尺三寸八分五厘ナリ
 三尺二寸三分零七毛ノ千九百九十九ナルヲ長崎一抄正落線ニ差ハ僅ニ猶千分ノ一ナルヲミレハ皇國ノ中ニテハ諸國ニ通ソ重カモ一抄振子
 ノ長ニ大ニ一丈一尺一寸一分七厘五毛ハ我半時ノ間ニ三十一百六十六振スル振子ノ長ナリト知ヘシ
 又時刻ハ振子ノ長ノ幕根ニ応スルハ前ニ三十一百六十六振スル振子ノ長ナリト知ヘシ
 故ニ若我地球其廻轉ノ速カヲ増メ今ノ速カニ十七倍スルニ五土テハ赤道ニ當
 ル諸体求心遠心高
 カ恰モ相適カレハ
 志雄曰二百八十九ノ
 幕根ハ七十七ナリ地
 球廻轉ノ速カ今ノ
 速カニ十七倍シテリ
 セハ赤道ニ在テ兩
 力恰好ナルヘシ但シ
 實ハ二百八十八ノ
 幕根ナル故十六倍
 九九ニ十レ既ホソ十
 テ倍トスルニ遠心カ
 ハ速カ幕根ニ応シ
 速カハ遠心カノ
 幕根ニ應ルノ數
 理ハ旋轉ノ二段

平安焉。已而帥其子五十猛神降_ニ於新羅國。
 居曾尸茂梨之處。
 朝鮮人相傳當初無君長有神人降檀木下。

國人立爲君。是爲檀君。國號朝鮮。唐堯時也。
 至商武丁八年。入阿斯達山爲神。東國通鑑。嘗天
 國排開廣庭。天皇欽十六年。百濟王子餘昌。
 遣王子惠奏。聖明王爲賊見殺。時蘇我臣謂
 王子惠曰。昔在天皇大泊瀨。雄之世。汝國爲
 高麗所逼。危甚累卵。於是天皇命神祇伯敬

受策於神祇。祝者廼託神語報曰。屈請建邦
 之神。往救將亡之主。必當國家謚靖。人物又
 安。由是請神往救。所以社稷安寧。原夫建邦
 神者。天地割判之代。草木言語之時。自天降
 來。造立國家之神也。項聞汝國輟而不祀。方
 今悛悔前過。脩理神宮。奉祭神靈。國可昌盛。

汝當莫忘。欽。明此謂素戔嗚神也。蓋聖明王
 惑於佛。廢宗廟之祭。遂以佛法貢獻國家。其
 爲賊見殺。不亦宜乎。論佛骨表不謂乎。佛者

視の差大ハ一度一分二
十五抄トシ小ハ五十四
分五抄トセリ是月
天ヨリ地ノ半徑ヲ見久
ハ正角ノ度數ニテ商
地ノ遠近ニヨリテ不同
アルナリ今太陰ノ商
地ノ半徑一尺ト定テ
右視差ノ度ノ正弦
ヲ求ルニ大ハ一分七厘
ハ六十四リ小ハ一分五
厘七三ニナリ此ノ比
例ニヨリテ各數ヲ以テ
半徑一尺ヲ除スレハ
太陰商地ノ數地球
半徑ニテ近ハ五十五
箇九八ナリ遠ハ六十三箇五
七ナリ諸家通例ハ何レモ
六十七箇トナリ
一貫比例 假星一周畢
心再乘畢

假星一周畢 假星一周畢
法 二十万六千七百
假星商地再乘畢一角
太陰商地再乘畢全法
大陰商地〇六千〇七弱
右六十箇〇七八地球ノ
大サト振子ノ動ト本半
テ變動一貫ノ比例ニ
ヨリテ推算スル所ノ太陰
商地ノ數ナリ刺比カ
後器ヲ執テ測定シ
タル數ニテ算シ得ル
五十九箇七七ノ數ニ
比ルニ違フ所僅ニ無
圖三ノ一ニ是其本數
在テ亦唯二百人ノ
一ナリ測術精微ノ

延於丘谷之間。今吾祖產恐亦見吞。是以哀傷。
漢人亦說東越閩中有庸嶺高數十里。其下
北隙中有大蛇長七八丈圍之一丈。土俗常
懼。治都尉及屬城長吏多有死者。祭以牛羊。
故不得福。或與人夢。或諭巫祝。欲得啗童女
年十二三者。搜神
素戔鳴神乃教之曰。汝可以衆菓釀酒八甕。吾
當爲汝殺蛇。二神隨教設酒。至產時果彼大蛇
來當戶將吞兒焉。素戔鳴神勅蛇曰。汝是可畏

之神敢不饗乎。乃以八甕酒。每口沃入。其蛇飲
酒而睡。
蛇性好酒。蓋緣斯與。南亞墨利加伯西再之
地有一獸。其地云虎。餓時百夫莫可當。值其
飽後一人制之有餘。即犬亦可斃之也云。
素戔鳴神技劍斬之。
一說此蛇爲八段。每段成雷。總爲八雷。飛躍
昇天。是神異之甚矣。蟒蛇及鼻之屬。今猶有
如然者云。

○諸曜行道真形
奇見曰喜音ノ流ニハ
太陽ノ運行ヲ平行ナリ
地球ノ行輪ヲ正四
ノト太陽ノ座ヲ輪
ノ近傍ニ定テハ
視行ノ所トセリコト
勿論遠速ヲ以テ太
陽ノ遠近ニ起リト
ノ未タ地球ノ運行ノ
不同ナリ理ヲラス其事
曰シ以テ是ヲ見サン

至新尾時。劔刃少缺。即擘而視之。尾中有一神
劔。素戔鳴神曰。此不可以吾私用也。乃遣五世
孫天之骨根神。上奉於天。此今所謂草薙劔矣。
本名天藜雲劔。蓋大蛇所居之上。常有雲氣。故
以名與。至日本武皇子。改名草薙劔。即尾張國
熱田祝部所掌之神也。其斷蛇劔。號曰天蠅所。
古語拾遺。天十握劔。其名天。亦名蛇。鹿正亦蛇。
羽。斬。古語大蛇謂之羽。羽。亦名蛇。鹿正亦蛇。
韓鋤。此今在寸數神部許也。

漢人稱日本刀者不一。謂日本刀極剛利。中

○星行應ニ角積起源
諸曜ノ行ハ各其前外後外ト太陽トノ三トヨリ線ヲ引タル中間ノ平積ニ宿ル一既ニ上
縮ノ下卷ニ於テ一層ニ云ルカ如シ今ハ其起源ノ理ハモナリ

國不及也。上等曰上庫刀。次等曰備前刀。以
有血漕為巧。刀上或鑿龍。或鑿劔。或鑿八幡
大菩薩。春日大明神。天照皇大神宮。皆其形
著在外為美觀者。日本風寸數神部。備前國
石上布都之魂神社。延喜便是。

○求心力疑問
問曰子方談心數理
比例シミルニ重カ
心カハ速カニ比ルニ無
量小ナリ。然ハ
ハ一尺ノ上ヨリ落ル
者ヲ受ルノ力ニ比ルニ

是後素戔鳴神。以其脚摩手摩生兒真髮觸奇
稻田媛為妃。行覓將婚之處。遂到清地。乃言曰。
吾心清清矣。故今呼此地曰清。於彼處建宮。時
素戔鳴神歌曰。夜句茂多菟。伊都毛夜霸。餓岐

年ニ捧タルモノヲ持
力ハ無量小ナルハキ
ニ然ク覺ハサルハ如何
シ忠雄曰重カハ轉
ト此ニ加ハリ速カハ
加力ニ應ヌ是故ニ
一尺ノ上ヨリ夜乘ル
者ヲ受ルノカト持メ
正落一尺時刻久
シキヲ徑テ其間用
ルカト相等シ但傾
ト漸ト異アリ夜
体ノカハ頓撲スルカ
故ニ是カ為ニ破損セ
ラルト又重カ
テノ比例ナリ有量時
ノ積モ各々ツベシ問
其輪心ノ為ニ引レテ
全ク不動ナルヲ能
ノ中ニ置テ四周ノ一
ヲ得サレハ動移スヘ
ハ殆ト不動ナリ但シ
所引ノ体ノ大小遠近
ヨリテ一ヲサレヘシ
ボイスノ書ニ諸星
引カノ心ヲ論メ曰
木星ト太陽トノ下
スル所ハ殆ト太陽ノ
上面ニアリ土星ト太
陽トノ心トスル所ハ微
ク其重ニ際ルトシテ
其他ハ梅ニ是太陽
ノ諸星ニ引ルハ各
方ニ在テ本星ニテ
ハ殆ト太陽半徑ニ
等ク土星ニテハ更ニ
微クナリト云々如

菟磨語味再。夜霸餓枳菟俱盧贈廼夜霸餓岐
廻。

三十一字詠始起于此。

乃相與違合而生兒八島篠神。此神五世孫。即
大國主神。大國主神亦名國作大已貴。亦名葦
原醜男。亦名八千戈。亦名大國玉。亦名顯國玉。
其子凡有一百八十一神。素戔嗚神因勅曰。吾
兒宮首者。即脚摩。手摩也。故賜號於二神。曰稻
田宮主神。初五十猛神。天降之時。多將樹種而

ヲ速カニ此スルハ無量小ナリトスルハコト無量ト時刻ニ
刻ニ在テハ彼ラス手ト静処ノ久キヲ經ルノ重カノ如クハ重カ
ノ積モ各々ツベシ問。此體独リ彼體ヲ引レ非ス。彼此相引ト云リ然ハ動體
其輪心ノ為ニ引レテ四周スルハ輪心引カノ主モ亦動體ノ為ニ引レテ常ニ
全ク不動ナルヲ能サルノ理アラシク忠雄曰。動體常ニ其引カノ主ヲ其行
ノ中ニ置テ四周ノ一處ニ止留スルハ無カ故ニ引カノ主ハ所引ノ方常ニ一定ナル
ヲ得サレハ動移スヘキハ暇ナシ且引者小ヲ引ル者大ナリ是以テ引カノ主
ハ殆ト不動ナリ但シ全ク不動ナルニハアラス。實ハ微動アル理ナリ其微動亦

下。然不殖韓地。盡以持歸。遂始自筑紫。凡大八
洲國之内。莫不播殖而成青山焉。

漢人傳說。周成王之時。倭人貢暢。暢艸可以
熾釀。芬香暢達者。將祭灌暢降神。珍物產於
四遠。幽遠之地。未可言無奇人也。論

所以稱五十猛神。為有功之神。即紀伊國所坐
大神是也。其妹大屋津姬。次孤津姬。二神亦能
分布木種。嘗素戔嗚神。謂韓鄉之島。是有金銀
亞勒瑪尼亞屬國。有博厄美亞者。地生金。掘

故又曰是重心的
太陽及諸星總
重心即我身
天體中不動之點
其陽心下相
距一常太陽半
徑之長過不
但此事八序モ
夕其詳ハ一
ルモノヲ見サレ
陽心亦諸星ニ引
レ動ノ一アルハ
ニ因テ知ベシ
是書前後論
所ハ太陽之物ラス
テ是等ノ所謂太
陽心即諸星行道
楕圓ノ一斷ニシ
而此ニテ天體不
動ノ一也ナリ

比太陽下土木トノ
引カ強弱比例
ヲ推算スルニ何レモ
體ノ大小ノ比例ヨリ
ハ甚シク尼通ク見
ノ説モ然リ人ニ假
引カ強弱スルテ
直ニ體ノ大小ニ應
トスルニ僅ニ土星引カ
ハ太陽引カノ四百分
ノ一ナリ木星引カハ
太陽引カノ百七十分
ノ一ナリ土木ニ星
極近ナルナリ猶太陽
ノ遠地ヨリ遠キナリ

井恒得金塊有重十餘斤者。河底常有金如
豆粒凡海外諸國如此者多。如國家淨御原
武朝對馬始出銀豐櫻彦天皇武時陸奧始
貢黃金。
若使吾兒所御之國不有浮寶者。未是佳也。
浮寶者。謂船也。
乃拔鬚散之。即成杉。又拔散胸毛。是成檜。尻
毛。是成披。眉毛。是成橡。樟。
漢人以盤古丸。毛髮為草木。曆記五

已而定其當用曰。杉及橡樟。此兩樹者。可以為
浮寶。檜可以為瑞宮之材。披可以為顯見蒼生
與津葉戶將卧之具。
與津葉戶將卧之具。謂棺槨也。上古皆用卧
棺故云。
然後素幾鳴神。遂入於根國者矣。

右第二章

甚し故三引力ノ地及
モノ又隨テ小ナリ大
陽引カ及地者多
土木引カ及地者若
土木膏地幕与太
陽膏地幕ナリ引
カハ相膏幕ノ互
數ニ應ルカ故ナリ
重力為ニ言ルカ如
木星膏地極近ノ時モ
猶太陽膏地ニ於テ太
約四倍セリ故ニ木星
引カ及地者是カ
為ニ弱一太陽引カ
ノ十六分ノ下ナリ本
引カ比例ニ此ノ十六
ヲ乘スル則レ此ノ本星極近引カ及地者与太陽引カ及地者若一ニ固ク二
十七百二十ニ固

○附星行楹田アリテ時刻ト画積ト相忘カ故ニ時刻ト度
分ト相應ル能ハス是ヲ以テ遠近視動ノ速速ト速カ
実動ノ速速ト重複セリ太陽ハ地ノ周ルト又地ハ二
太陽ヲ周ルトノ二行アルカ故ニ其動種々ノ異ヲ見ス
ト云リ地ヲ周ル楹田行ハ大不齊ノ行ナリ其
外ニ小不齊ノ動八種アリ交行ノ不齊モ月字行
ノ不齊モ二道交角時々ノ不同モ此中ニアリ是皆求
心カノ為心所ヲ唯尼通氏ヨリ逐一其理ヲ究明ナリ
又海水ノ潮汐モ地球ト太陽ト互ニ重量ヲ懸ルニ起
ルト大可見ナリ如何ガ其理ナルヘシ別ニ其支ヲ審ニ
シタル書アリト居テ根クハ其書ヨリミルヲ能ハス

古義神代考上卷

金星ノ体稍大シ地ニ近シ膏地極近ノ時ニ當テ太陽膏地ニ比ルニ大約十萬ノ三ナリ故ニ
引カ及地者ハ太陽引カ及地者ニ比シテ大約十倍セリ又金星ノ体ハ太陽ノ体ノ五十八
分ノ下ナリ是ヲ本星極近ノ引カ及地者ノ最大ナルノ時猶
太陽引カ及地者ノ五十八分ノ下ナリ
又太陽膏地ノ半徑ニテ二萬五ナリ今是ヲ二カトシ金星極近比例ノ三ヲ乘スルハ
金星極近膏地六ナリ得又太陽膏地ハ地ノ半徑ニテ六ナリ假星太陽比例篇
ニ言ルカ如シ又地球ハ金星ヨリ小ナル一太陽約二分ノ一ナリ而シテ二体引カ及太陽
者ハ六十倍トノ如シ故ニ地球引カ及太陽者コレヲ為ニ金星極近引カ及太陽者
ヨリ大ナル一萬倍セリ本然引カノ比例ヲ算スル却テ五ナ倍ヲ得金星大ナルカ故
ニ然レハ金星引カハ地ト太陽ト同ク及フ故ニ太陽ニ於テ格別亦又ヲ生スルノ理
ナシ

土木ニ星ハ諸曜中最大ナル其引カノ小ナルハ右ニ云ル如ク況マ其餘ノ四星ハ是ヲ合
下スル土木星ノ大サニモ如サルマ然レ諸曜行道ノ最高微ク動キ移ルルハ星ノ相引
カニヨリトニ通ナリ又地球ノ行ハ五星推歩ノ本心故精微ヲ尽サンテヲ要
ス是ヲ以テ蘭垣カ算表ニハ金星引カノ加減アリ
火地金水其体小ナルカ故ニ木星引カノ微ナリ又火地金水ノ相引モ微ナリ唯
木星ハ引カ大ナリ故ニ遠キニ及ト虫四体相引カニ詔タリ右ニ言ル金星引カ及
地者ト木星引カ及地者トノ比例ニテ知ヘシ四体中ニテ太陽引カヲ受ルル最モ
小ナリ木星引カヲ受ルル最大ナルモノハ火星ナリ地コシツキ人並又コレツキ水又コレ
次ナリ故ニ其最高ノ變移モ火星ニ在テ最著トス地是ニツキ金又是ニツキ水ヲ
微ナリトス上編下卷ニ見タルカ如シ土木亦互ニ變ヲ受ルルハケレハ呂魯日天須
引ル文ニ其事ニシテ引ルカハ地ト太陽ト相引カト云リ此篇ノ所論引カハ天上ニ在リ
諸星相引カヲ云リ

○諸凡障碍

傍尔纳里弄五金水中水外振数ヲ論メ水外百二十振時刻ヲ以テ水中ニテハ百十七振ス
ト云リ呂魯夫源曰水中水外振数比例ハ金重量ノ幕根ト金水重量差ノ幕根ト
ノ如ト云リ忠雄按ニ振数比例ハ即水中水外一振時刻ノ比例ナリ而シテ落線ハ時刻幕
ニ應ス重動ニ方如シ然ハ同時刻ノ間ニ金丸水中落線与水外落線若百〇五五与百
水重量差与金重量ナリ金水重量比例ハ四百ト千下ノ若シトス又百〇五五与百
ト如シ振数比例モ是故ニ金丸水外落線ト水中落線若百〇五五与百ナリ是同時
刻落線ノ比例ナリ

然ハ是水外重力与水中重力若金重量与金水重量差トスルモノナリ是理ノ當然ナ
リ水外水中ニテ一動ニ輕重アルヲ知ヒ此段ノ又二帝中ニ詳ナリ

右ハ金丸水中水外落線ノ比例ナリ
右ニ因テ横行速度頻加速度ノ比例ヲ按ニ金体水外速度与水中速度若金水重量和与
金重量ナリ故ニ若百〇五五与百ナリ又若十九与十八ナリ是故ニ金体一尺立方者水
外ニテ十九尺ヲ行ノ速度ハ水中ニテハ同時刻ニ十八尺ノ行ノ速度ナリ立方金行ク
十九尺ニテ経歴スル所ノ水ノ重量ト本体ノ重量ト相適等ナル力故ニ右ノ比例アリ
モ寸立方金十ラ一尺九寸ヲ行ノ速ヲ以テ水中一尺八寸ノ速トナル十九分ノ速ヲ減
スルハ一尺九寸ニ似タレ凡障碍力ハ漸々加ヘ来テ止サレカ故ニ第一回三尺九寸ヲ行テ十
九分一速ヲ減ノ一尺八寸速トナル第二回ニテ一尺九寸ヲ行テ再ニ一尺八寸速ト
十九分一速ヲ減ノ一尺七寸一分ノ速トナル元速比スルニ即一尺七寸一分ト一尺九寸トノ

和与金重量此一段
此例ノ又二帝中ニ見
右ハ金丸水中水外横
行速度ノ比例ナリ
金重量与游氣地
面近際厚濃ノニ凡
重量若一万五千言
三十八与一ト呂魯夫須
然ハ金重量和与
金重量若一万五千
二百三十九与一万五千
二百三十八ナリ然金
丸全径一尺者空中
速度与氣中初速行
七十六百十九尺速度
若一万五千二百三十

古義神代考中卷

源紫偈通部 著

天照大神以思兼神妹栲幡千千姬配正哉吾
勝勝速日天忍穗耳尊為妃令降之於葦原中
國是時勝速日天忍穗耳尊立于天浮橋而臨
睨曰彼地球平矣不須也頗傾也凶目之國與
頗傾也地形偏傾之謂夫地者在天之中一
彈丸耳地球圖說見元史天文所創岐伯謂地
在天中大氣舉之經黃帝便是地既一彈丸則

○古義神代考中

○一

九与一万五千二百三十
弟三回ハ再ヒ一万五千
三百三十九分ノ一ヲ減
入是故ニ空中ニ元速
与弟二廻行七千六
百十九尺速力若一
万五千三百三十九与
一万五千二百三十七

第三廻以往此準ソ
知ヘシ
右ハ游氣ノ障碍ヲ

假令ハ又今九アラン
是ヲ亞ト名ケ其差
長ヲ勝ト名ケシ又其
重量ヲ水ト等セシ又
今前ニ見タル比例ニテ
氣ノ重量ハ亞九ノ重量
力与薄氣中初廻行ニ億
八千万勝速力若五億
六千万〇〇〇〇〇〇一与五億六

初廻行ニ四百周ニシテ
諸曜人主徑ハ何レモ本
道周ノ二十万分ノ一ニ
過ルル速ト厄通説
ニ見タル此事又次
第一見ユ然ラ今假
定メテ其徑ヲ本
道周ノ二十万分ノ一
シ其体ヲ水ニ等トシ
其氣ノ重量ヲ地面
游氣ノ重量ノ七十
万分ノ一トセシ時ニ氣
ノ障碍ノ微ナルヲ猶
右ノ如シ況マ又飲ラ
カルモノシヤ

右ハ天際障碍ヲ云
呂島日夫須カ説交篇

無處非中又無處非偏故天祖自天上臨睨
曰不須也頗傾也本教之真義不亦大乎漢
人又以共工氏與顓頊爭爲帝怒觸不周之
山天柱折地維絶故天傾西北地不滿東南
列佛氏又説佛告富樓那是世界地形相團
圓如銅燭盤如陶家輪地亦復如是猶如燭
盤邊縁隆起毘曇論
乃更還登具隙不降之狀既而生兒天照國照
彥火明神次天饒石國饒石天津彦火瓊瓊杵

乃更還登具隙不降之狀既而生兒天照國照
彥火明神次天饒石國饒石天津彦火瓊瓊杵
乃更還登具隙不降之狀既而生兒天照國照
彥火明神次天饒石國饒石天津彦火瓊瓊杵
乃更還登具隙不降之狀既而生兒天照國照
彥火明神次天饒石國饒石天津彦火瓊瓊杵

尊其火明神兒天香山是尾張連等遠祖也火
明神亦名饒速日後乘天磐船飛降於河内國
娶長髓彥妹御炊屋姬爲妃生兒宇摩志摩治
是物部氏之遠祖也
後世呼武士云毛廼廼夫起於此
先是大國主神之平國也行到出雲國五十田
狹之小汀而且飲食時海上忽有人聲乃驚而
求之都無所見頃時有一箇小男以白藪皮爲
舟以鷦鷯羽爲衣隨潮水以浮到大國主神即

○古義神代考中

○二

ニ出セリ此篇言ル所
ノ比例ハ予カ愚安ホ
ニ出テ而モ未タ的切
トスル一能ハルモ
ハ天際障碍ノ
微ナリト信スルニ足
ラカシ

○薄氣

西域三語アリ跋魯的
アルト名ノ羅旬語ナリ
和蘭語ニ晴雨玆珠
ウエノカラスト云遊氣
ノ輕重ヲ測ル品ニ
其ハ制衣玆珠管ニ
水銀ヲ滿シメ又別器
ニ水銀ヲ湛テ玆珠
管ヲ覆フ直倒ニ別
器中ニ立ツ但シ遊氣
所ニ至テ自ラ止ルモ
世羅私ト云ル者彼方
水銀ノタケニ十九冊
計リ一冊各典尺ニ一
八分ナリ是ヲ以テ遊
氣ノ重サト水銀

取置掌中而翫之。則跳鬻其頰。
焦僥之國。人皆三尺。小人之國。朱衣元冠長
皆七寸。今所謂郭罕。男女皆長二尺餘。然尚
氣好鬪。少有不合。即裂眦相向。有笑其么麼
者。則抽刀併命。怒不可解。此雖不可比於神
人。亦引備觀。
乃怪其物色。遣使自於天神。時高皇產靈神曰。
吾所產兒。凡有一千五百座。其中一兒。最惡不
順教養。自指間漏墮者。必彼矣。宜愛而養之。此

ノタケニ十九冊計リ
遊氣ノ重サヲ測ル品
ニ水銀ヲ滿シメ又別
器中ニ立ツ但シ遊氣
所ニ至テ自ラ止ルモ
世羅私ト云ル者彼方
水銀ノタケニ十九冊
計リ一冊各典尺ニ一
八分ナリ是ヲ以テ遊
氣ノ重サト水銀

即少彥名神也。於是大國主神與少彥名神戮
力一心經營天下。復爲顯見蒼生及畜產則定
其療病之方。
漢人以神農氏以楮鞭鞭草木。嘗百草始有
醫藥。史記如天下溫泉亦嘗二神之所造。彼又
記我風俗。以其俗信巫疾無醫藥。疾無醫藥
綱目。證治準繩等。並載我醫方。劉氏鴻書亦
云。日本有諸藥。而無甘草。葛藟。甘草。葛藟。皆
有之。唯近世病者。裸而就水濱。杓水淋沐之。
重異產耳。面四方呼其神。誠禱即愈。據
○古善神代考中
○三

又柳郎斯國ノ學者
是器ヲ推テ高山ニ
登ルニ登ル一愈愈高
ハ水銀降ル一愈愈甚
如何トナハ若干分ノ
遊氣既ニ是器ヨリ
以下ノ処ニアリテ重量
ヲ水銀ニカクル一能ハ
ス。故ナリト云リ。ホイ
ス。ホウテレイキウラ
テ。ンブツク。有。家。詞。難
ト云ル書。日。說。ナリ。
忠雄。按。遊。氣。ノ。重
サ。ト。水。銀。ニ。九。冊。等
ト。云。ル。假。人。タ。ハ。一。冊
四。方。ノ。水。銀。ノ。高。サ。二

○古善神代考中
○三

余梅丸ノ重サト一極
 四方ノ海気地面ヨリ
 氣ノ最上際ニ至ル
 重サト一箇等ナリ
 ト云フナリ又和蘭
 國ノ日記ヲ見ルニ水銀
 最上高時三十極最
 卑ノ時二十七極余
 總ノ赤道ニ近キ國
 ニテハ升降少ク赤道
 遠キ地ニテハ升降多
 ト云フ天明元年春
 予崎陽ヲ試ルニ當時
 水銀ノ長サ二尺三寸
 五六分アリ其後升降四五寸ニ過ルナリ和産ノ硝子性惡キ力故三二月ノ
 後ハマ游氣漏リ入テ終ニ廢シ又水氣月光ヲ引入メ大ニ伸レハ凡トナリテ游氣
 和シ少ク伸レハ雨務トナリ亦終ニ伸テハ游氣トナリ凡雨務伸テ升レハ游氣ニ重
 重ク加フ風行ノ速ニヨリテ游氣輕重相雜レハ重キハ水銀ノ上ニ浮スル云ト
 ナリ大ニ屈スルハ雨トナリテ降ル屈スルハ游氣ノ重ニ過ルハ雨トナリテ降ル
 北方冷屈ノ氣ハ重シニ過ルハ水銀ノ上ニ浮スル云ト
 晴ヲ主リ水銀ノ下降ハ雨ヲ主ル而モ多ハ其時ニ云テ應驗アリ常ニ豫晴雨
 ノ兆ヲ告ル能ハス
 子テルラツセヤルツ
 少知蘭年鑑ト曰地
 面近際ノ游氣彈力
 ノ下常ニ動靜靜靜ニ
 見タリ強ク伸張
 フルノ勢アリ故ニ大
 カニ壓レ屈縮リ其度
 量ヲ減スルナルモ其力
 去ルニ及テ又伸張
 大ニ復ス試ニ是カ為ニ
 一皮囊ヲ制スル其中
 ニ游氣ヲ充テメテ固
 ク其口ヲ封シ或ハ手
 ヲ以テ又ハ諸カヲ借
 テ是ヲ壓スニ游氣ノ
 彈丸其壓ル力ニ

鮮人亦記日本釋良心以神應經來獻兼傳
 其本國神醫和介氏丹波氏治癰疽八穴法
 其八穴雖未試用神應經其傳授遠有所自
 而所論折量補瀉法皆古賢所未發者其取
 穴又多有多起發古人所未盡處經序佛經佛
 告曼珠室利東方去此過十旋伽沙等佛土
 有世界名淨琉璃佛號藥師琉璃光如來明
 行圓滿藥師琉璃光
 又為攘鳥獸昆虫之災異則定其禁厭之法是

以百姓至今咸蒙恩賴
 印度所謂大黑者通載以南海寄歸傳又佛祖蓋
 亦指大國主神當考下文
 嘗大國主神謂少彥名神曰吾等所造之國豈
 謂善成之乎少彥名神對曰或有所成或有不
 成是談也蓋有幽深之致焉其後少彥名神遂
 適於常世鄉矣

蓋少彥名神初不順天神之教養自立于海
 外而開國土如漢人所謂太古天皇氏以木

勝カニ至シハ皮葉表屈
 縮ス壓力小ナハ小屈
 シ壓力大ナハ大屈ス
 壓力サハ即チ本大
 二復ス壓力ト彈力ト
 常ニ對待ノ等分
 如何トシハ壓力強ク
 彈力弱キナハ皮葉表
 屈ス屈スル寸ハ彈力ヲ
 加フ壓力弱ク彈力
 強キ寸ハ皮葉表伸テ
 寸ハ彈力減ス必ス兩
 力相適等スルニ至テ
 止ル是故彈力ノ大サ
 ハ壓力ノ大サニ知シ
 此彈力ハ游氣ノ分子
 ノ彈力ナリ分子体中ノ小分子ノ引ニ因テ生ス是以テ知ヘシ地上游氣ノ彈力比自其本
 外以上十ハ游氣ノ重量ヲ以テ是ラ壓力ス一諸カシテ皮葉表ヲ推ト一理ナルカ故
 ナリト云リ又曰皮葉表中ノ氣壓力ノ為ニ屈スルノ比例ヲ考ルルニ皮葉表ノ大サ毎ニ壓力
 カノ互數ニ應ス一壓力カ一倍スルハ皮葉表ノ大サ半分トナリ一壓力カ半分トナリハ皮葉表ノ
 大サ一倍トナル是皆鎮ハ用テ示レル所ナリ同分ノ游氣ニシテ皮葉表中ニ於テ一屈ニ伸スル
 コミテ示レルハ一屈ノ中ノ分子ノ大サトナリニ至テハ游氣ノ厚キ一如倍セルナリ伸テ一倍トナル寸ハ游氣ノ
 スキ一一倍セルナリ然ハ一壓力カハ彈力ニ應シ彈力ハ本氣ノ厚サニ應ス然モ前ニ言
 ルカ如ク地上游氣ノ每本処以上ノ游氣ノ重量ヲ以テ一壓力カトセリ然ハ是各処
 游氣ノ厚薄ハ其
 本処以上ノ游氣ノ重
 量ニ應スルモノナリ重
 量ノ大ナルヲ受ルモノ
 ハ其氣隨テ厚シ重
 量ノ小ナルヲ受ルモノ
 其氣隨テ薄トナリ
 又曰游氣モ上下
 厚薄ノ不同ナクハ
 其最上界ノ商地ヲ
 測ル一極ニ易カラシ
 而シ其里數モ亦甚
 近小ナルベシ其故ハ
 水重キ一游氣ノ
 比ニ百九十倍ニ前

德王歲起攝提無爲而化者三皇恐是謂少
 彦名耳故至大國主神起乃自海外來到戮
 カ一心造天下矣凡天下爲大地者三謂之
 三大界其一界分爲三州所謂亞細亞歐羅
 巴亞弗利加是也其二界分爲二州所謂北
 亞墨利加南亞墨利加是也其三界則爲一
 州所謂墨瓦臘尼加是也合爲六大洲萬國
 各在六大洲之中其屬亞細亞者爲日本支
 那韃而韃印度巴再西亞亞辣比亞都兒格

那多利亞莫卧兒如德亞亞再默泥亞大灣
 呂宋錫蘭渤泥馬路古瓜哇蘇門答刺及地
 中海諸島大小數百屬歐羅巴者爲伊斯把
 泥亞拂郎察意太里亞入再馬泥亞和蘭地
 蘇亦徵亞波羅泥亞第那瑪再加諾再勿入
 亞雪際亞沒斯箇未亞蠟皮亞翁加里亞厄
 カ西亞大貌利太泥亞意再蘭太依蘭地則
 蘭地鄂底亞歌再魯非土蘭地倭再加日物
 私的再馬與里革米諾里革野非加克再西

○古義神代考中

○五

為所說小異ナリ水
 銀重キ一水二十四倍
 此數ヲ本トシ最上
 界測リクハ然尺上
 下厚薄漸ラテテ
 各位々殊ナル故事
 竟ハ一定ノ界ナキカ
 忠雄曰右數ヲ以テ
 ス六水銀重キ一
 倍セリ今カノ玻璃
 管中ノ水銀ノ長ヲ
 二尺四寸ト定メテハ
 則游氣最上界ノ
 離地面是二尺四寸ノ
 一萬九千九百一十
 二萬八千五百六十尺ナリ是僅ニ二里計ナリ
 又曰ヒツトドムメカスルニ人高上ニ至ルニ三里拂郎斯里ニ其游氣ヲ測ルニ平地
 ノ氣ヨリ薄キ一ヒツトドムメカスルニ四倍弱ナリトシカスルハ四倍強ナリトセリ
 忠雄曰二人登山測法モ必定晴雨豫豫ヲ以セシモノナリ管中水銀降テ四分ノ一ト
 ナルニ至ル其高山上ノ游氣ノ重カク及ヒ獸力向モ平地以上ノ游氣ノ重量及ヒ獸力ヨリ
 小ナル四分ノ一ナリ故ニ高山上ノ游氣ノ彈力及ヒ其厚キ平地游氣ノ彈力及ヒ其厚キ
 ノ四分ノ一ナリ厚キ一四十分ノ一ナリハ即是薄キ一四倍ナリ又拂郎斯道法一里ハ二十四百
 大歩ト云リ而ソ一大歩ハ五尺トス然ハ我國ノ六尺一間六十間一所三十六所一里
 一里ハ我ニ當リ其二三
 今四倍ヲ本トメ三里以
 上ノ氣ヲ推ツテスルニ
 其平地游氣ヨリ輕
 薄ナリ六里ノ上ニテ
 十六倍セリ九里ノ上
 ニテハ六十四倍セリ
 十二里ノ上ニテハ百餘
 下倍セリノ二十四ノ
 中ナリ二百里餘ニ至
 六誠ニ至薄ナリ假
 令ハ其氣ヲ以テ土星
 行道ノ徑ヲ以テ球ノ
 徑トスル者ノ大ナル皮

革撒而地泥亞。齊西里亞。馬兒太。哥再乎。甘
 的亞。匿苦魯波。卒突尖山島。新增白蜺。喜百
 再尼亞。諸種七十餘國。屬亞弗利加。一名利
 未亞者。為巴再巴利亞。馬路古。佛沙。皮力土
 再熱利土。沙拉。泥利德。入匿亞。工鄂。喝叭布
 刺贊。西拔再亞。耶那。亞白。祁私。亞毘。心域。阮
 入多。怒皮亞。謨納。厄牟。機。扭平。馬拿。莫太。巴
 福島。聖勞冷。祖島。聖多。默島。沙哥。多刺。葛不
 歌再。垓。諸種大小百餘國。屬北亞。墨利加者。

為南渚。北渚。諾龍。伯再瓦。臥兒。狼德。新伊西
 把泥亞。勿羅。洛多。新拂郎。察新。諳入。里亞。加
 拿太。洛勿。洛多。古巴。諸種。屬南亞。墨利加者。
 為金加。西蠟。字露。祈多。故私。可披。巴牙。那智
 里。加利。巴納。伯西。兒巴。刺孤。亞亞。馬作。擱。巴
 太温。得再。歌烏。臥。諸種。如墨。瓦臘。尼加。國土
 未詳。蓋六大洲中。以亞細亞。為天下至尊之
 地靈也。若夫歐羅巴。比於萬國。則可也。而其
 地方近寒帶。不得四時中正之位。且其國聖

○古義神代考中

葉ニ充ノ布ノ巨厚力
ヲ人テ是ヲ屈セシメハ
皮葉屈縮ノ終ニ寸
立小ニ至テ而後ニ始
テ平地游氣其厚
キ一フ等スル一フ得
ヘト云リ

忠雄曰二十四ノ幕
ハ三十里ノ薄ニ應ス
故ニ其ハ三乘幕ハ
六十里ノ薄ニ應シ
七乘幕ハ百二十
里ノ薄ニ應シ十
九乘幕ハ二百四
十里ノ薄ニ應ス
ノ數ニ應ス

トソノ算ハ其ノ薄キ一
地面ニ近キ游氣最モ厚
間ニ入キ太陽出沒
スギ不何レモ我國ノ
深キ一僅ニ二百五十
里ニソ既ニ大ニ太陽ノ
盛光ヲ遮隔スル足
ル一此ノ如シ木星ノ
地極近ナルモ猶一億
里ナリトス上端下卷ニ
テレレベシ假令天上ノ
氣ノ薄キ一僅ニ地氣
ニ四十万倍セリ凡一億
里ノ深遠ヲフルニ至テ
ハ厚濃游氣深遠ニ
百五十里ナルモノト庶
光ノ分ヲ等スヘシ木
星何ソ隱晦ナラン一
得ニ然ニ木星光輝甚
明ナリ具ヲ以テミレバ
四十万ノ比例ニ過タル
一遠キ一知ヘシ況ヤ

人伯多祿者始即位稱伊多利亞帝也實我
活目入彦五十狹茅天皇仁垂三十年漢平帝
元始元年之事也又如其國莫斯科未亞帝
以伊多利亞千三百二十五年為開基元年
則亞細亞之至尊可以見矣而我大日本在
亞細亞之極東日出之處昔者豐御食炊屋
姫天皇古推聘陪煬帝書曰日出處天皇致書
日沒處天子煬帝覽之怪其意氣高遠遣裴
世清等十三人來觀國風見經籍後傳記北
史隋書並作日出

忠雄曰右ノヤルブツクニ言ル此例ヲ以テスルハ辟言ハ地上三万里ト三万〇〇〇ニ里トニ僅ニ
里數万分一ノ差ナルニ氣ノ厚薄ハ既ニ四倍ノ異アリ此ノ如キノ數理ハアルヘカラス然ハ
右ノ算數ハカノ地球ニ屬ノ運入ル游氣ノ厚薄ノ異以下ノ比例ナラン思フニ三千里以下ノ
間ニテ數ノ試ニテ立タルノ記ナラン今テ試ニ高地游氣ノ厚ヲ拂即斯ノ六十里
トソノ算ハ其ノ薄キ一地面ニ近キ游氣最モ厚間ニ入キ太陽出沒スギ不何レモ我國ノ
深キ一僅ニ二百五十里ニソ既ニ大ニ太陽ノ盛光ヲ遮隔スル足ル一此ノ如シ木星ノ
地極近ナルモ猶一億里ナリトス上端下卷ニテレレベシ假令天上ノ氣ノ薄キ一僅ニ地氣
ニ四十万倍セリ凡一億里ノ深遠ヲフルニ至テハ厚濃游氣深遠ニ百五十里ナルモノト庶
光ノ分ヲ等スヘシ木星何ソ隱晦ナラン一得ニ然ニ木星光輝甚明ナリ具ヲ以テミレバ
四十万ノ比例ニ過タル一遠キ一知ヘシ況ヤ

處天子致書日沒處天子無彼又以為其國
恙釋氏資鑑作帝覽之甚悅又以為其國
在日邊故以日本為名近東海日出而名也
其說亦似不遠矣想二神造天下而亞細亞
歐羅巴亞弗利加之一大界始成大國主神
以為善成矣然亞墨利加墨瓦臘尼加之二
大界未成故少彦名神曰或有所成或有不
成遂適於常世鄉乃往造亞墨利加諸州也
古言謂底曰常亞墨利加諸州與我脚底相
對故謂之常世常世有三義此取神世幽深
脚底世界之義

○古義神代考中

〇七

恒星ノ天ハ至遠ナリ
ト云リ上緯上卷ニ見
天經或問ニモ土星天ノ
上ナリト云而モ衆星
歷ヲトノ計フハク天狼
大角織女ノ若キ明星
ハ光煥盛大ニ恰モ
數里ノ近キニアルヲ見
カ如ク天ノ薄キ
推テ知ベシ

呂魯日夫須方三三三
通ノ三三三三三三三三
至薄ノ氣地面ノ氣
比スルニ薄キ一四十九
百億倍ニ過タリト云
リ若三三三三三三三三
ナラハ天際ニ云エテハ四
千九百億倍ヨリハタキ
ノ天際ニ至テハ宜ク尼
呂魯日夫須又曰天氣假
ハ水ニ比ルニハ億人カ
ノ一ナランモ此ニ天ノ
諸曜ノ運行ニ在テハ
一萬年ノ一億年ヲ經ル
ニ非スルハ諸曜ノ行ニ
在テハ小変ヲモ察ル
ベシ是等ノ言如何ナル
數理比例ニ本ナリマ
ハ知ラサレ何ニモ天
際ノ氣ニ至テ輕至

源
有二体周旋于大小輪
其求心カ各應至齊
心齊即半徑之幕之
互數則心亦自乘
幕之一周之幕相應ス
求心カノ高心算中ニ
應亮一ハ重カ扁
見タリ又止輪周
旋ニ在ニハ求心遠心
西力常ニ等カナル

之傳誠有旨哉。文德天皇齊衡三年。常陸國
上言。夜半望海光耀。屬天明。日有兩怪石。在
水次。高各尺許。體於神造。非人間石。後一日
亦有二十餘小石。在向石左右。似若侍坐。彩
色非常。廼馮人云。我是大奈母。知少彦名神
也。昔造此國。訖去往東海。今爲濟民。更亦來
歸。實錄。嘗聞北亞墨利加西北諸蠻方。凡祈
晴雨。則於衆石中。尋取一石。彷彿似物形者。
即以爲神。而祭之。或是祭少彦名之遺風耳。

其國又曾解有天神。用香花鳥羽供之。云實
我文龜永正之間。明弘治末年。歐羅巴州一
大臣。名閣龍者。生平講習行海之法。一日行
游西海。嗅海中氣味。曰。自此以西。必有人烟
國土矣。因聞諸國王。遂率衆出海。展轉數月
果至一地。即亞墨利加一隅。其後又有亞墨
利哥者。至歐羅巴西南海。尋得赤道以南之
大地。即以其名名之。故曰亞墨利加。數年之
後。又有一人名哥再德斯。國王仍賜海船命

○古義神代考中
○八

故ニ求心カト云ルモ遠
心カト云シモ其ハ意ハ
テリ而モ放動ニ在
テハ必ス求心カヲ称
ス前モ云ルカ如シ
國ノ解

右大小二輪極東遠
道ノ比例ハ元来契
礼ルカ堯明ニシテ
其其高然ノ數理
ハニ通ニ至ニ始テ
寔ニトテリ右ノ
起源ハ忠雄ガ呼意
弦源ニテラヒテ
亦タリ諸國行
道ノ事正極ニ
取ル其事正極ニ
非ナルハ下
所象新書中編附録九三編

○遊氣ニ里
奇見全書精微
三十七ニシテ
ニトテリ
ケシハ量各ナリニ
十ゲンイシラ
ルトニ二十四
ルオセトシ十六
ヲボトスホトハ
我百二十八
トテリ故ニオン
又ナリゲン
四百八十
一厘六六不
今事始テ
誤ル得定
二當リ奇
立方水
五分五厘

往西北尋訪復得大地在赤道以北即北亞
墨利加是也。以西把尼亞之君復念地爲圜
體徂西自可達東向至亞墨利加而海道遂
阻必有西行入海之處於是命一強有力之
臣名墨瓦蘭者率舟師而往訪墨瓦蘭既承
國命沿亞墨利加之東偏紆迴數萬里展轉
經年歲已盡亞墨利加之界忽得海峽巨千
餘里海南大地又復恍一乾坤墨瓦蘭實開
此區因以其名命之曰墨瓦臘尼加云。此西

○遊氣ニ里
奇見全書精微
三十七ニシテ
ニトテリ
ケシハ量各ナリニ
十ゲンイシラ
ルトニ二十四
ルオセトシ十六
ヲボトスホトハ
我百二十八
トテリ故ニオン
又ナリゲン
四百八十
一厘六六不
今事始テ
誤ル得定
二當リ奇
立方水
五分五厘

人艾儒略所說。
自後國中所味成者大國主神獨能巡造
神世之真義皆是帝王之舊辭故初二靈之
生國土也舉大八洲而不言他方此又云國
中讀者勿疑

遂又到出雲國興言曰夫葦原中國本自荒芒
至及磐石草木咸能強暴
是所謂草木言語之世漢人亦說石言于晉
魏榆左

一厘三分厚ノ二二万
 フ葉ノ三千七三ノ除ス
 六四夕夕ノ四七
 フ得十万ヲノ葉ノ
 三百六十九ニ除
 スルハ四夕夕ノ六
 モヲ得是各説梅
 立方水ノ重量
 梅ノ曲尺三ノ八分五
 厘九ノ力故ニ其立
 方ハ曲尺寸立方
 ノ十分ノ六二四ナリ
 是ヲ法トシ二説梅
 立方水ノ重量
 各數ヲ除スルハ
 寸立方水重量
 右ニ説事均スルハ
 志雄教々水ノ重量
 右四分五ノ間ヲ得
 太丈清トナリ二尺
 尺方五重ニ當ルノ
 右諸説大同ナリト
 テ今其取テ
 又七ノ四ノト空
 水量七ノ五ノト因
 六平均七分五分ト
 水量ハ水二十四倍ス
 ト云リ薄氣層ニ言
 カ如シ然ハ寸立方
 水銀ノ重量ハ百。三
 夕三ノカナリ
 金ノ重量ハ水ノ二十
 一ノ四ノ百ナリト云リ
 重量ノ希ニカカ如シ
 然ハ寸立方金重量
 量ハ百四十夕夕九分五

然吾已摧伏莫不和順。今理此國唯吾一身而已。其可與吾共理天下者。蓋有之乎。于時神光照海。忽然有浮來者曰。如吾不在。則汝何能平此國乎。由吾在故。汝得建其大造之績矣。大國主神問曰。然則汝是誰耶。對曰。吾是汝之幸魂。奇魂也。大國主神曰。唯然。迺知汝是吾之幸魂。奇魂。今欲何處住耶。對曰。吾欲住於日本國之三諸山。故即營宮彼處。使就而居此。大三輪之大物主神也。此神之子。即甘茂君等。大三輪君

等又姫踏鞠五十鈴姫。幸魂奇魂者。即靈魂之神也。漢人以魄者。迫然著人主於性也。通。白虎。又以靈氣在心。一來一逝。管子。惟人萬物之靈。其至人者。上闢青天。下潛黃泉。揮斥八極。神氣不變。莊子。故生為上公。死為貴神。賦。山。雖然。至人非自至。人有為至人者。是為幸魂奇魂。其於大國主神也。且如是。况乎哉。夫天下萬國者。大國主少彥名二神之所造。抑二神能仰觀俯察。以立濟

○古義神代考中

厚ナリ平均ノ水層
 七及五分ヲ用ハル
 四十ニ及ハル
 右ノ海氣重量ヲ
 シカガノ張本ナリ
 但シ寸立方至ハハ
 法算祖ニハハ六十
 目ト説記地ノ重
 輕重量重上思ト細
 トヨリテ相違有故
 大ニ説トヨリ是
 フ以テ今ノ新月ノ四
 一從テ右ノ如シ
 前篇マシムク説
 地上三層ヲ氣層ヲ
 一四倍ストヨリ今
 是例ヲ推ノ三重以
 下ニスルニ開ケハ
 一ノ因テ地面ノ重
 又見テ平地ノ開ケ
 一合ハハ七五ノ傳
 一ノ傳ハ本位以上ノ
 二ニルカ如シ地面
 水銀ノ長ハ部高ナ
 定ハ八九寸三七五
 外ノ水銀ノ高ハ八
 尺二寸九分八八リ
 其差一寸〇二厘三
 〇平地以上九寸三
 七五ニ至ルノ中間
 右ノ無里上無人口
 五ハ拂郎斯里ノ一
 薄氣層ニ詳ニ故ニ
 手前ニ十五大ナリ
 椰即斯由尺千百
 四十七尺五寸ナリ
 〇一厘ニテ除スレハ
 万千三百二十九ヲ
 是ヲ以テ平地以上無

世ノ道則自夫三皇五帝以至萬方開國聖
 者凡天地間有大造之績者皆是不得非二
 神之靈魂孔子曰西方有聖人不治而不亂
 不言而自信不化而自行蕩蕩乎人無能名
 焉列亦神人之謂耳今且試舉老釋證之夫
 釋氏者以彦波瀲尊末年入滅老子者以磐
 余彦天皇武神五十七年生孔子嘗問老子老
 子告之曰良賈深藏若虛君子盛德容貌若
 愚孔子去謂弟子曰今見老子其猶龍乎老

子遂著道德五千餘言而去莫知其終
 是猶少彦名告大國主以幽深之致遂入常
 世也釋氏亦記甚深般若波羅密多我滅度
 已後時後分後五百歲於東北方當廣流布
 大般其說曾不虛若支那秦西漢既知有佛
 迨明帝夜夢金人迺遣使印度求之得佛經
 四十二章釋迦立像併與沙門攝騰竺法蘭
 還正字通攝騰一作佛入支那三百歲傳百
 濟一十歲百濟聖明王遂貢獻國家實天國

里無合九三七五三至
 中間游氣上下薄
 厚平均ノ重量水銀
 重量ノ一萬四千三百三
 十九歩ノ一當ルヲ
 シル前ニ見タル水銀
 寸立方重量百〇
 三又六分ヲ右ノ一萬
 千三百三十九ニ除
 シハ游氣寸立方ノ
 重量九七一得
 薄氣ノ重ヲ說ハ
 八百五十分ノ下ニ
 此說ニヨリ又前ニ
 見タル水ノ寸立方
 重量七分四厘ニヨリテ
 又諸氣障碍篇ニ由ルニ
 此說ニヨリ又前ニ見タル
 游氣寸立方重量九毛二得

排開廣庭天皇欽十三年也。初朝議忌之逮
 橘豐日天皇明始許之。是亦大國主奉天神
 之勅。愛養少彥名之意。多足驗于此矣。然則
 如支那聖教。則大國主之神靈所創作。如天
 竺。佛教。及西方諸州種種之教術。則少彥名
 之神靈所創作。故其道亦自有禪本教聖治
 也。已矣。蓋山之高乎。有亞太臘山。江之大乎。
 有地中海。河之深乎。有銀河。沙之遠乎。有萬
 里石塘。夜光之珠。不必出於孟津之河。盈握

右三說其ハ二說ハ取相違ク一說ハ里共ナリ多分ニ階ニテ二說ヲ取テ平均スレハ九毛
 一毛五ヲ得ルヲ各ノハ亦九毛二得ト成故ニ寸立方游氣重量ハ一定ノ數ナリ管中水銀
 九毛二得トス太數ヲ奉ル時ハ一厘トス但シ游氣重量ハ一定ノ數ナリ管中水銀
 二尺五寸五歩ナリ知蘭國ニテ水銀最高三十寸ナリ薄氣篇ニ見タリ三十寸ハ曲尺

之壁。不必采於崑崙之山。海內之廣邈也。此
 自有善道。彼亦自有善道。皆須學之。雖然少
 彥名本最惡之神。故天下不能莫惡道。惡道
 者。聖神之所疾。王制之所禁。寬永十六年。停
 六年禁。不受不。豈可不慎哉。是故不本本教。
 而取它道。謂之攻乎異端。君子正而不它。揚
 言。本教之準繩。一立則博文約禮。豈唯孔丘
 之學哉。昔者朝命立之。博士其萬事百物之
 學。靡有遺逸。故蘇因高。推古紀。唐國號妹吉

大槩其中ヲ取テ弄
定スルノ数ナリト知
レ平均水重サ七々
五分ヲ用レハ中八九
三弗ナリ
○西國ノ人晴雨瓊瑤
ノ理ニ本テ又リユクトホム
ト云物ヲ造リリ
トハ游氣ナリホム
え来水ヲ揚ルノ品
ノ名ナリリユクトホム
ニ本テ拂郎斯國ノカ
ルニスロヘルト云ルニ人
ノ者リユクトシキツ
ト云物ヲ制衣スト云リ
リヲトシキツフハ氣船
クキナリ游氣中ヲ飛
著セルモノニ枚アリ
ニ二人ヲ乗ス依キ帆
シ直道テ帆ヲノ俯仰
ノ一脊ニ球ノ浮カテ
弛タリ此ハ息不虞ノ
キ是物ヲ張テ船底ニ
ノ落ルコト急暴ナラ
スノ地ニ云テ其身体
恙ナキコトヲ得ト云
彼方ノ千七百八十
年第十二月一日
カルニス初テ是船ニ
乗リサレテ千五百
二十四夕々意須各六
尺三寸三寸クク一
軍羊ヲ降ル同日又
暗厄里亞國ノ一虫
ラ伴ヒテ外リ夜ニ
降リヌト云リ彼カ所
謂ノ千七百八十三年
ハ天明三年ナリ
按三寸立方游氣重
ヲ九毛ニ弗トスレハ徑

備真備開元初授經於趙朝衡等數人。名爲朝衡其事蹟詳于舊新唐書文苑英華。古今和歌集李白詩東征傳續紀續後紀等。皆遊支那博學無方金剛三昧至印度三昧。日本僧見真如王過流沙。釋書皆莫非爲法也。夫天下之大氣質萬品。教術亦不能不爲品。故本教者合字內總古今。莫所不學人能。以最靈之性通天徹地。心誠求之何不成之。有孔丘無常師學則不固。論語孰謂之摸梭手。持兩端號唐蘇味道世。孰謂之左手畫圓右手

畫方不能兩全。後世識淺之人不曉此義。求諸此道則唯此是。彼非求諸彼道則唯彼是。此非譬諸亞細亞之人與亞墨利加之人。脚底相對而吾以彼爲傾倒也。彼亦以吾爲傾倒也天無私覆地無私載。孔子居蓋渾人我同。天地而後論之譬猶歐羅巴諸州。以水火氣土爲四行莫卧再百再西亞諸國。以地水火風爲四大及那邏邏諸國。以水火木金土爲五行之類各非無至理。世人苟詳此義則應

○古義神代考中

○十三

其船成就始ニ試用セシ時ノ事ヲ圖説ニ
譯司吉雄氏贈リテ予モ嘗テ一見セシ船
曾ハ風車如ク舵ハ團扇ノ如シ又銀丸ヲ移
在ナラシム權上ニ大球アリ是球中ノ游氣ヲ除キ去テ
球上ニ網ヲカケ船ノ首尾ニホキツケ船ノ全體ヲ
球上ニ網ヲカケ船ノ首尾ニホキツケ船ノ全體ヲ
球上ニ網ヲカケ船ノ首尾ニホキツケ船ノ全體ヲ

二十七八球中ニ充ルル
ノ事ハ三万八千多
リ計スルハ二百四十
斤計ノ船ト球皮ト
二人トノ重サハ小ク
二百三四十斤ナル
徑ニ丈球ニテ二百
十斤計リテアルノ
カナルニ右ノ凶ニ在
人ノ長ニ比ハ考ルル
球大サ徑ニ丈ヨリハ
稍小ナリキ如クミ
ハ凶ニ於テ更ニリヤ
氣船制衣法及ニ其
事ノ詳ナリハ未タ聞ス

○光明有体

問フ晴雨現象管中ニテ水銀以上ハ真空ナリヤ曰海氣ノ厚重ナルハナクハ薄氣ノ充滿
セリ故ニ眞空ニハアラス何ヲ以テ力其然ルヲ曰温暖ノ氣能諸体ヲ隔テ相通シ
諸火ノ光能燬物ヲ透ス温暖ノ氣ハ光明ノ天上及ヒ物体中ノ薄氣
ニ交和シタリ光明最精神ナリ光明ハ火ノ精ナリ温暖ノ氣ハ薄氣ニ和シ相混スルハ
即薄氣ノ能出入フルヲ云問フ光明亦体アリヤ曰有リ体アルカ故ニ引カアリ力アリ
若キルヲ薄氣ト云問フ光明亦体アリヤ曰有リ体アルカ故ニ引カアリ力アリ
曰何ヲ以テカ引カアルヲ云曰木土ノ如キハ其体堅難ナルカ故ニ光明未テ
是ニ入ルニ當テ分子
ノ引カ前ノ后左右
不同アリテ光明
通行ノ直線路ヲ
矢レム見故ニ上面
於テハ光明ヲ及照
ノ各体上面ノ分子
濃淡錯綜殊々
ニ以テ各々自ノ色
ヲ呈シ呈色ノ一ニ
針鏡ノ屈光ニ五色
ヲ現ス一ヲ以テ知
屈光ノ一后ニ詳ナリ
体中ニ在テハ殊々ニ
光線ヲ曲テ終ニ其
カヲ大專ニ止メテ体中

知我神道本教之所以統記乎百學。知我神
道本教之所以統記乎百學。則庶足以盡天
地萬物之情邪。

一云勝速日尊兒天大耳尊此神娶丹鳥姬生
兒火瓊瓊杵尊一云事代主神化為八尋熊罴
通三島溝檝姬而生兒姬踏鞮五十鈴姬是為
神日本磐余彥火火出見天皇之后也。

右第三章

皇天二祖高皇產靈神天照大神勅八十萬神

曰豐葦原中國是吾兒可王之地也然彼地有
殘賊強暴橫惡之神者當遣誰者乎也惟再諸
神勿隱所知僉曰天穗日神是神之傑也可不
試與於是俯順衆言即以天穗日神往平之然
此神倭媚於大國主神比及三年尚不報聞故
仍遣其子大背飯三熊之大人此亦還順其父
遂不報聞故更會諸神問當遣者僉曰天國玉
之子天稚彥是壯士也宜試之於是天照大神
賜天稚彥天鹿兒弓及天羽羽矢以遣之此神

二宿也云光明速力
イ一后ニミ玉璣水
体ノ如キハ純粹ナルカ
故ニ光明未テコレニ
介ニ當テ分子ヲ引
カ前後左右相均
ク光明通行ノ直線
路ヲ妨ケス是故ニ上
面ノ及光モ寡ク其
体皆無色ナリ雪ハ
雜ナリ故ニ透明セス
ノ白色ナリ水ハ粹
ナリ故ニ透明ノ無
色ナリ是雜ト粹ト
ノ別ナリ而モ光明ノ
及セス未達セサルモ
ハ亦能止宿ス是
其安身分ヲ以て
漸ク又實重ナル者ハ引カノ分多キ故ニ光明ヲ宿スル
亦光明ヲ宿スル虚軽ナル者ハ引カノ分少キ故ニ光明ヲ宿スル
ノ氣ヨリモ暖ナルハ大ナル力故ニ暖氣強ク又陰寒ニアルハ止宿セシ
体輕薄ナルヲ以テ漸ク上リ出テ游氣冷ニ引吸セシテサルカ故ニ終ニ中和ノ氣ヨ
リモ冷ナルニ至是時
ニ至レハ其引カノ強
クテ人自身中和ノ陽
氣ヲヒク陽ノ氣ヲ
引ルハ多クカ故ニ人
其冷ヲ覺ルハ大
ナリ
金石ノ火ヲ引テナリ
ト虫而モ限リヤリ
其体屈剛ナルカ故ニ
大伸セサルヲ以テナリ
若限ナリハ火氣ヲ受
ト云ヒ猶モ火氣ヲ好
ムテ暖氣ヲナサシ
氣其ニ至テハ是既
ニ火氣ニ壓テ火氣ヲ
ハカツ受テカツクモ
ナリ金ノ大火ヲ受

亦不忠誠也。來到即娶顯國玉之女子下照姬。
亦名高姬。亦名稚國玉。因留住曰。吾亦欲馭葦
原中國。遂不復命。故天照大神。乃召思兼神。問
其不來之狀。時思兼神思而告曰。宜且遣稚國
之。乃從彼神謀。使稚往候之。
漢人以。雉者聽察先聞。雷聲。前漢五士相見
之。執各執雉。禮取其守介不失節。註。
其雉飛下。居于天稚彥門前。湯津杜樹之杪。而
鳴曰。天稚彥何故。八年之間。未有復命。

凡在神世。鳥獸之為人語者。越後白兔富良
富良鼠。一尋鰓頭。八咫鳥之類。不一。漢人亦
說宋處宗鷄。華表柱鶴。皆為人語。且如介葛
盧。公冶長。伎瓊。陽翁仲。李南。唐僧隆多羅。成
子。楊宣。皆能解鳥獸之語。此皆載籍所傳。豈
妄意臆斷可疑之乎。先賢亦嘗論焉。
時天探女見。而謂天稚彥曰。鳴聲惡鳥。在此樹
上。可射之。
俗以毘沙門者。嘗降伏天探女。故其像今身

六、流動スルニハ至レドモ
 燒テ火トナラサルモ火
 フヒクテ限アルノ証ニ
 ホノ火ヲヒクハ小ニシテ而
 モ又限アリモ限ナ
 クハ大ニ伸張スヘシ
 太陽ノ暖氣ハ木體ヲ
 断テヤクテ能サルカ
 故ナリ太陽遠キカ
 故ニ其暖氣ニ對シ
 テハ木體猶屈断ナ
 モ、如シ唯水ハ金ニ
 コリテ虚輕ナレハ火ヲ
 ヒクテ限ナシ太陽ノ
 火氣ヲ受テ能化
 ノ游氣トナリ游氣
 又火氣ヲ受レハ隨
 氣トナリテ升散ス故ニ其
 ハ火ヲ引テ大ナレハ亦燒テ火トナルノミ是等ノ事既ニ光明ノ引カニ用ル
 アルヲシヒヘキノナリ

被^キ金甲^ヲ而足踏^ル女人之^ノ肩^{カタク}陀羅尼集^云。或
 天稚彦乃取^テ天神所賜^ル弓矢射^レ之^ヲ則矢^チ遠^ク雉胸^ヲ
 而至^キ天神所處^ニ時天神見^ル其矢^ヲ曰^ク此昔我賜^ル天
 稚彦之^ノ矢也^{ナリ}今何故^ニ來^ル乃取^テ矢而咒^フ之^ヲ曰^ク若^シ以^テ
 惡^キ心射^ル則天神必當^ニ遭害^ス若^シ以^テ平^キ心射^ル則當^ニ
 無^ク恙^{ナリ}因^テ還^シ投^テ之^ヲ即其^ノ矢落^ク下^ニ中^ニ于^テ天稚彦之^ノ高^ク
 胸^ニ因^テ以^テ立^チ死^ス此世^ノ人所謂^ル返^ル矢可^レ畏^ル之^ノ緣^{ナリ}也^{ナリ}
 今謂^フ鳴^ク弦^ノ之^ノ術^ヲ以^テ此^ヲ爲^ス原^始矣^{ナリ}
 天稚彦之^ノ妻^ノ下照^ル姬^ヲ哭泣^シ悲哀^ノ聲^ヲ達^ス于^テ天^ニ是^ノ時^ニ

又火氣ヲ受レハ隨
 氣トナリテ升散ス故ニ其
 ハ火ヲ引テ大ナレハ亦燒テ火トナルノミ是等ノ事既ニ光明ノ引カニ用ル
 アルヲシヒヘキノナリ

天國玉聞^ル其哭聲^ヲ知^ル夫天稚彦已^ニ死^ス乃遣^フ疾風^ヲ
 舉^レ尸^ヲ致^ス天^ニ
 漢人亦以^テ風爲^ス天地之^ノ使^ト河圖帝^ニ當^ニ與^ス第一^ノ
 章^ヲ天柱^ヲ并^シ看^ル
 便造^ル喪屋^ヲ而殯^ス矣^{ナリ}時其葬^ノ官皆^テ以^テ衆^ニ鳥^ヲ任^ス事^ヲ
 蓋^シ以^テ天稚彦爲^ス雉^ノ致^ス死^ノ故^{ナリ}也^{ナリ}
 而^{シテ}八^ノ日^ハ八^ノ夜^ヲ以^テ遊^ス
 此亦^タ日神^ノ之^ノ故事^{ナリ}漢人以^テ倭國^ノ其^ノ死^ヲ停^シ喪^ヲ十^ニ
 餘^ノ日^ヲ家人^ノ哭泣^シ不^レ進^ス酒食^ヲ而等^シ類^ノ就^シ歌^ヲ舞^ヲ爲^ス
 古義神代考中
 〇十六

氣二氣水竹貝中伸氣

樂。後漢書。

伸氣ハ精ナリ屈氣ハ粗ナリ屈伸精粗ノ下ニ見ユ大氣最精伸ナリ水氣最粗屈ナリ土氣最粗屈ナリ

先是天稚彦與味耜高彥根神友善故味耜高彥根神登天弔喪大臨焉嘗此神形貌自與天稚彦相似故天稚彦妻子等見而喜曰吾君猶在則攀持衣帶不可排離時味耜高彥根神忿曰朋友喪亡故吾即來弔如何誤死人於我耶乃按神戶劔亦名大葉刈所倒喪屋其屋墮而成山今在美濃國藍見川之上喪山是也

精氣ハ能粗氣ノ同隙ニ入り剛質ハ能柔質ヲ斷テ入ル能入ヲ陽トシ能ハ谷ルヲ陰トシ能ハ在テハ陰陽トス

意太里亞羅助多之地有一室此室舊在如

石ハ金土ノ中間ナリ行ハ西國ノ知ナル所ナリ

德亞國後爲回回竊據天神凌空移至此地

彈力ハ質中ノ諸分子ノ引カナリ且テ以テ質ノ彈力ヲナス質中ノ諸分子ハ氣ニリト故ニ引カハ氣ニリト云フ引カハ体ノ屈ラ

越海七千餘里其趣不遠世人惡以死者誤已此其緣也時味耜高彥根神光儀華艷映于丘谷之間故其妹下照媛欲令衆人知映丘谷者是味耜高彥根神歌曰阿妹奈屢夜乙登多奈婆多廼汗奈餓勢屢多磨廼彌素磨屢彌素磨屸阿奈陀磨波夜彌多再輔拖和拖邏須阿泥素企多伽避顧備是後天神更選當遣於葦原中國者僉曰磐裂根裂

○古義神代考中

○十七

ニ於テス而モ分子皆至小ナリ故ニ能コレヲ隔テ相ヒクヲ得ル是モ亦至近ノ際ナリ故中分子是カ為ニ屈ス是ヲ氣ノ引カニ屈セラルト云左右分子サハ中分子伸フ是ヲ質ノ彈力ニ伸ト云中分子ノ引カ分子中ノ小分子ノ引カニコレリ是事常動常靜篇云彈力ノ既ニフノ後ニ至テモ小分子引カ互ニ小分子ヲ隔テ相ヒク屈スル引カハ猶プリ小分子ハ即分子ノ氣ナリ故ニ是又氣ノ引カヲ以テ屈スルモノナリ故ニ是故ニ其氣精氣粗合聚歛スル寸ハ氣成血ニ其氣ヲ約束シ終ニ其ニ結合ノ氣ニ化ス其氣粗合聚歛スル寸ハ氣成血ニ其氣ヲ約束シ終ニ其ニ結合ノ氣ニ化ス

神之子。磐筒男磐筒女。所生之子。經津主神。是將佳也。時有天石窟所住神稜威雄走神之子。甕速日神。甕速日神之子。燐速日神。燐速日神之子。武甕槌神。天石窟在天漢之中。漢人以漢水之精也。氣發而升。精華上浮。宛轉隨流。名曰天河。一曰雲漢。衆星出焉。物理益漢者。衆石相聚。而畜水之處。凡自此土名曰星者。大氏皆然。其有光者。受日光也。故知自星中觀此土。猶我觀

彼也。邵子嘗有水火土石之說。亦有意哉。此神進曰。豈唯經津主神獨爲丈夫。而吾非丈夫者哉。其辭氣慷慨。故即配經津主神。令平葦原中國。於是二神降到出雲國。五十田狹之小汀。則問大國主神曰。天神勅豐葦原中國。是吾兒。可王之地也。故先遣我二神。驅除平定。汝意何如。當須避不時大國主神對曰。將問我子。然後報。是時其子事代主神遊行在三穗之碕。以釣魚爲樂。故遣使者稻背脛。而致天神勅於事

神之子。磐筒男磐筒女。所生之子。經津主神。是將佳也。時有天石窟所住神稜威雄走神之子。甕速日神。甕速日神之子。燐速日神。燐速日神之子。武甕槌神。天石窟在天漢之中。漢人以漢水之精也。氣發而升。精華上浮。宛轉隨流。名曰天河。一曰雲漢。衆星出焉。物理益漢者。衆石相聚。而畜水之處。凡自此土名曰星者。大氏皆然。其有光者。受日光也。故知自星中觀此土。猶我觀彼也。邵子嘗有水火土石之說。亦有意哉。此神進曰。豈唯經津主神獨爲丈夫。而吾非丈夫者哉。其辭氣慷慨。故即配經津主神。令平葦原中國。於是二神降到出雲國。五十田狹之小汀。則問大國主神曰。天神勅豐葦原中國。是吾兒。可王之地也。故先遣我二神。驅除平定。汝意何如。當須避不時大國主神對曰。將問我子。然後報。是時其子事代主神遊行在三穗之碕。以釣魚爲樂。故遣使者稻背脛。而致天神勅於事

不足ノ体ノ縫綴体
ノ縫綴即千其ノ子間
際也ニ入ル能ハル者
モ体ヲ分解スル格
能ハス游氣ト水ト格
別ヲ相イレ相和セシ
カ如キ且正ナリ是故
ニ剛柔精粗其宜
適ヒ其配ヲ得テ而
后能引カ相感心ノ
能其体ヲ分解ノ交
和ス一ツ得火水ノ
氣最能交和ス但
ニ其本体相切ルヲ
惡ム其事下ニ火
氣大ナルハ水ヲ化シ
氣トナス火氣大ナラ
サハ水ト和ノエ中
ナリ火氣既ニ水体ト交和シ水氣火氣ニ精カセラルハ水質伸柔トナリテ火質
交リテ氣質トモニ合體ス水質ノ剛ヲ得テ火質水質ニ交ル故ニ剛ナルヲ得ル土
體ニ交ル火質柔ト直ニ土質ニ交ル能ハル故ナリ是ニ於テ火水ノ氣ヲ思宜テ土
水ノ引カ止留シ土氣ノ粗屈ヲ開テ火水ノ精神ニ和シ火水土ノ氣質地中ニ在リ
合體シ天地中和ノ氣トナリ是ニ於テ水土中ニ充テリ其輕キハ石砂ニ重キハ土
ナル天ニ外ハ六氣強ク水ノ分實寸ハ且是ニ於テ水氣ニ立テテ游氣中ニアル
質ノ引カヲ以テ是ニ於テ是ニ於テ是ニ於テ是ニ於テ是ニ於テ是ニ於テ是ニ於テ
トナル

代主神。且問將報之辭。事代主神曰。今天神有
此勅矣。我父宜奉避。吾亦不可違。因踏舩拙而
避矣。使者既還。報命時有事代主神弟名健御
名方者。此神獨違相闘。及其遂知不可勝而逃
去。二神追往而迫。到信濃國諏方海。乃將殺之。
健御名方伏罪曰。請勿殺吾。吾亦誓不出此境。
此葦原中國。隨勅奉矣。於是二神遂赦之。還既
而大國主神白於二神曰。我子既避去矣。故吾
亦當避。如吾防禦。則國內諸神。必當同禦。今我

奉避。誰復敢有不順者。乃以平國時所杖之廣
牙授二神曰。吾以此牙卒有治功。天孫若用此
牙治國。必當平安。

漢人以炎帝世衰。諸侯相侵伐。軒轅乃習用
干戈。以征不享。諸侯咸歸之。史記。
於是二神遂誅邪神及草木石類。則還昇報告。
時天有惡神。名曰天津甕星。亦名天香香背男。
便是星神也。
西人說。星體大小六等。上等全徑大千地全

輕薄ヲ加フ故雷
 電ハ多ク雨砂ハ希
 深ク土中ニ在テ
 土氣勝ルハ煉熟
 ノ金トナル鹵塩雨
 砂トナルモノハ金水
 二氣ノ中間ニ淺ク
 地上ニアリテ水氣
 勝ルハ堯生ノ木ト
 成硫黃雷田電ト
 ナルモノハ木火二氣
 中間ニ

水ハ輕ク土ハ重シ水
 能升天ニ土ハ能升
 天セス故ニ木ハ堯生
 ノ天ニアリ地上ハ皆
 天ノ金伏藏ノ地ニ
 アリ地ニハ多ク金ハ
 難シ是故ニ木ハ多ク
 金ハ少ク是等ハ金ノ
 屬ト云テモ可ナラン
 五行ノ精神妙合ニ凝
 ハ物トナル其妙用ニ
 至テハ人ノ思議ノ及
 フ所ニアラス人金剛
 火陽

火ノ源ハ天ノ中心ニ
 在テ太陽タリ降テ
 人ノ中心ニ在テ心
 臟タリ日ハ造化流
 行ノ
 大本タリ心ハ視聽
 云為ノ大本タリ心
 性ノ心ト心臟ノ心
 ト其名ナシ支那戎
 皆然リ

圖解流動者圖
 奇見曰流動
 者ハ分子相
 粘シ力弱キ
 ニシテ思フニ無量小
 球ノ相キルノ如ク
 下ニ即氣ナリ

分解圖
 又曰一体氣中
 二在テ体ノ多
 子氣ノ分子
 相引相引
 ノ力ニ勝リ
 又其体ノ間
 隙多ク而モ

徑六十八倍其最大者加二十倍次小者減
 亦如之其六等得地體三分之一六等之外
 更有微渺難見者魏石申以赤點記星百三
 十八座八百十星高巫咸以黃點記星四十
 四座百四十四星齊甘德以黑點記星百十
 八座五百一十一星三家合三百座計一千四
 百六十五星蓋在數千歲之上而言星中有
 神人者獨我本教耳但漢人以昭王恒星之
 降也東方朔李太白緯星之托也或亦近乎

地上ハ火氣多ク地中ハ火氣寡シ水火ノ和ハ易ク火土
 和ハ難シ是故ニ木ハ多ク金ハ少ク是等ハ金ノ屬ト云テモ可ナラン
 五行ノ精神妙合ニ凝ハ物トナル其妙用ニ至テハ人ノ思議ノ及
 フ所ニアラス人金剛火陽

又張端義貴耳集微考寶籙宮設醮一日親
 臨之道士伏章又乃起上問故對曰適至上
 帝所值奎宿奏事畢章始達上問奎宿何神
 曰本朝蘇軾是後謗議者言皆不入雖道流
 之說出于懺愧然不為無補佛經又說我北
 辰菩薩名曰妙見處於閻浮提衆星中最勝
 此等亦不甚遠也

故加遣殿後神建葉榎者則服高皇產靈神更
 還遣經津主武甕槌二神勅大國主神曰夫汝

氣引シイル、ニ是レハ氣
即チ浸シメテ分子ノ
間隙ニ充ツ苗ノ又其
體ノ分子相粘ノ力
氣分子ノ来リ撲ツ
ノ動力ニ堪サレハ其體
是ニ於テ人カ解スト云
リ力ノ人カ分子粘カ
其小分子粘カニ比
ルニ其弱キ者ハ分子
相粘緩クテ流動ス
ルニ至テモ小分子ノ相
粘絶サレハ其彈力僅
ナルカ故ニ伸張變化
スルノ能ハス人金水是
體ノ分子氣引カニヨリ
實剛ナレハ其引カ氣
分子相引ノ力ニ勝ル又氣引カニテ木ナレハ體ノ分子ノ相粘ヲ用クニ是サルニ似タレモ其體ノ伸
張ノ游氣トナシ至レハ分子ノ間ニ多ク火氣ヲ引テ地面ノ游氣ヨリ輕クナリテモ
小人ノ粘カ力未絶ナルニ湯氣有ル水ハ直ニ元氣ノ合織ニ生シ金木ハ又和氣ノ人
織ニ生ス又水火ハ成質ナリ人金木ハ成質アリ人金木皆土氣多ク粘カ水ヨリモ大
ナルヲ以テ人木ハ水氣
多ク金ハ土氣多ク
ト虫又木ハ伸氣金
ハ屈氣ト充ハ金木
對待ノ義ナリ水ニ比
シ共ニ土氣多ク土氣
ラテ生スハ又氣
ニ輕重ノニアリ小凝
ノ輕キハ膏油ノ類
水ハ土氣多ク大凝
重ハ木材ヲナス土氣
多ク故ニ膏油ノ類
ハ水木ノ間ナリ金木
ハ木土皆土氣引粘
質ヲナセリ故ニ木材
ノ分子ニ生テハ實ハ水
モ精屈ナリ和氣ノ合

所治顯露之事、宜是吾孫治之。汝則可以治幽
事。又汝應往天日隅宮。今當供造其造宮之制
即以千尋拷繩結爲百八十紉。柱則高大。板則
廣厚。又將佃供田。又爲汝往來遊海之具。高橋
浮橋及天鳥船亦將供造。
秦始皇作浮橋于河。後傳穆天子乘鳥船浮
于大沼。穆天子傳。
又於天安河亦造打橋。又供造百八十縫之白
楯。又當主汝祭祀者。天穗日神是也。於是大國

主神報曰。天神勅教慇懃如此。敢不從命乎。吾
所治顯露事者。皇孫當治。吾將退治幽事。乃薦
夷鳥神於二神曰。是當代我而奉從也。吾將自
此避去。即躬被瑞之八坂瓊而長隱者矣。既而
大物主神。即大國及八重事代主神。即事代乃
合八十萬神於天高市。帥以昇天。陳其誠欵之
至。大物主神乃期曰。天照大神悉治天原。皇孫
專治葦原中國之八十魂神。我親治大地官者。
時高皇產靈神。勅大物主神。汝若以國神女爲

鐵ニ生ルオ故ニ精ナリ土
氣ニ凝ルカ故ニ屈ナリ
木材至テ剛ナルハ或ハ
能沈水ス水ハ屈氣
木ハ伸氣ト云ルハ二体
分子對待ノ義ニハ
非ス但シ分子ノ輕モ
ハ皆水ヨリモ伸ナリ
膏油及ヒ樟腦ノ如キ
モ且ナリ樟腦ノ如ハ
亦木火ノ中間ナリ又
木ノ皮質ニ在テハ又
理疎ラ能其縫罅
ニ水氣ヲ容ル分子精
ニ而モ能屈ナリ分子
屈ニ而能文理ニ水
氣ヲ容ルヲ得ルハ元氣
ヨリ強シ故ニ火氣ヲ吸
以ニ金氣ノ少陰ニ配
木分子ハ金ニ比レハ
火ニ比テ水ノ輕ク伸
キハ火ヲ受ルノ上面
是故ニ能直ニ精神ノ
微質ヲ分解セラルハ
水氣ハ火氣ニ精神セ
ラニ木質ノ引カニ止
メラル寸ハ引カノ故
ニ游氣トナラスノ暫
木中ニアル者ヲ能本
質ニ引レ其輕薄ナル
微質ノ間隙ニメテ
是ヲ分テ解ス但シ微
質ト相麻スルノ動カ
ニ引テ木ノ本分子モ
稍分解セラルカ故ニ
暖氣ヲナス木腐
スルモノ比皆暖氣ヲ
而モ是微質ハ至テ
輕ハ水ニ和ノ升天
重ハ又水ニ隨テ流下

妻。吾猶謂汝有疏心。故今以吾女三穗津姬配
汝爲妻。宜領八十萬神。永爲皇孫奉護。乃使還
降之。即以手置帆。負神定爲作笠者。彦狹知神
爲作盾者。

磐余彦天皇。武建都。擅原經營帝宅。仍令天
富者率手置帆。負彦狹。知二神之孫。構立正

殿。古語。故以二神爲工匠之祖也。
天目一箇神爲作金者。天日鷲神爲作木綿者。
櫛明玉神爲作玉者。乃使太玉神以弱肩被太

再合鐵ニ出ハナリ木分子質ハ金ヨリ木ニ粘合カハ水
多ク若ク又限アリ且事爲首ノ末モ且ナリ
故ニ火氣ノ侵入モ易シ水ニ比スハ土氣多ク故ニ能粘合

手繩而代御手以祭此神者。始起於此矣。且天
兒屋神。主神事之宗源者也。故俾以太占之。
事而奉仕焉。

漢人以其俗舉事行來有所云爲。輒灼骨而
卜。以占吉凶。先告所卜。其辭如令。龜法視火
坵占兆。魏

是時齋主神號齋之大人。此神今在乎東國。楨
取之地也。高皇產靈神因勅曰。吾則起樹天津
神籬於天津磐境。當爲吾孫奉齋矣。汝天兒屋

ソエニ交ル微質ハ木
分子ノ合織ノナルモ
ヲネリ前二色香
ヲスモ、如キ是ナリ
火氣トナル者、本
分子トスル故ニ所謂
微質ハ本氣トナリ
水ハ木ニ比ス六分子粗
シテ而モ粘合弱故ニ
火ニアハ伸テ游氣
トナル金ニ比ルモ亦殊
リ是ヲ以テ燒テ火ニ
化ル一能ハズ
水火ニ体相切ルニ及テハ
火ハ精氣ナリ水ハ粗
剛ナリ火大ナラサル寸
ハ水氣ノ引カヲ以テ
火氣ヲ引ヒスレ、分子ノ
トナリ水體大ナラサレハ
テ去ノミ故ニ滴水ヲ炒火
火大ナラサレハ水必ス火
海水ノ火ヲ消スニ可ナラ
塩硝ヲ合テ火落ホトスル
紙質ハ氣ノ質ノ剛ニ若サ
解セル所ノ火ノ且遠ク道
ク又暖氣ハ火ノ粗ナル
力故ニ游氣引レ去サレ
却テ其剛ヲ以テ火源
ニ通ルヲ以テナリ暖氣
ハ火ノ粗ナル一層首ニ
見タリ、金質重剛ニ
故ニ引カ強ク大火ニ遇
サレハ流レズ大火ニ遇
ハカ子ノ粘合緩リテ
流動スルニ至レハ小
分子間隙粘合猶強
ク火質柔弱ニシテ其
動力モ是ヲ開ニ足ラ
ズ故ニ火去レハ又木質
ニ復ス終ニ焦燒ス
トナリ唯白精ハ屈氣
中ノ至精ニ故ニ能陰

太玉ニ神。宜持降天津神籬。亦爲吾孫奉齋焉。
乃使二神陪從天忍穗耳尊以降之。
磐余彥天皇。神武四年。詔建樹神籬。用祭皇祖
天神。所謂神祇官西院坐御巫等祭神。高皇
產靈。神皇產靈。魂留產靈。生產靈。足產靈。大
宮賣神。事代主神。御膳神。便是也。
是時天照大神。手持寶鏡。授天忍穗耳尊曰。吾
兒視此寶鏡。當猶視吾。可與同床共殿。以爲齋
鏡。

此勅是本教之大本。先教之教。先道之道。元
元本本。渾然一理。所以寶祚之隆。天壤無窮。
無爲而治之法也。聖神之一言。聖聖相承。故
謂之隨神道。亦自有神道也。孝德夫蜘蛛之
布網。磨旋蔓生。皆循右而轉。雅禽畜之賢者。
則有義犬義鷹。隨筆。國家人民良善之質。固
不教而仁義忠孝。其無爲而治者。不待多言。
是以孔子贊舜以無爲。老釋之所宗。亦無爲
而已。雖然至世漸陵夷。則人心必有好異。人

火ヲナレ又海水ニ陽カ
ラナク又硫ノ能陽火ヲ
ナレ又土中ニ温泉ヲ十
ス配セリ其性金水
間ナリ一金ノ剛ニ若
ス故ニ能精分ス水柔
ニ若ス故ニ猶屈剛ナリ
木氣ノ屈ハ火動力ニ
堪ハス木氣ノ剛ハ火ノ
動力ニ堪テ焼サルニ
知ハシ幽氣水ニ解カ
レ火ニ精分セラテ其
精華ヲ生シ或ハ猶水
中ニアリ或ハ升テ天ヲ
ハ硫黃ノ精華ノ火
ニ近キモノニ配ソ剛柔多ク
ノ小分子ノ間隙ニ入り
スルヲ得ルヲ火ノ木ヲ
火ヲ以テ燒カ加ナルヲ
精ト水ト相逆ニ屈伸精粗
ス 凡屈伸相雜シル者ハ伸氣出ルニ當テ必ス屈氣ヲ引合テサルカ故ニ屈氣ハ大屈シ或ハ凝
質ス又金鑄木灰ノ如キ清濁判ル理此ノ如シ

西國三ノ火ノカヲ以テ
丹岩塩硝精氣精
カニテ生スヲ取テ々々
強水ト云燒酎ヲ滴
ルカ如クニ其露ヲル
其水多ク火ヲ含ムルカ
故ニ常ニ沸涌メ氣ヲ
フノ顯微鏡ニ見ハ
燒酎モ酒モ常ニ沸涌
ストナリ諸金ヲ此
水ニ入ニ大ニ沸涌メ
多解ストナリ分解
スハ強水ノ色変ス
是ハ鑄ノ色ナリ己
金ノ解テ水トナリ
テ又強水ノ氣ニ隨
テ升ルモノナリ金ノ

心必有^ル好^ク異^ヲ則亦不能^ハ莫^キ治^ル之^ノ法。於是始^テ
有^リ學校之政。是亦明王之所以奉^ル本教也。所
謂^ニ聖人以^テ神道設^テ教^ヲ而天下服^ス矣。傳^易 豈^シ此
之謂^也。以^レ來所以有^リ禪^ニ神道聖治^者。雖^レ種^々
之教術。亦^タ假^リ用^之以^テ爲^ル安^ニ天下^之具。種^々
教術者。謂^フ天下所^レ立^ル之善道也。其善道惡道
章。清乾隆年間。開^シ創^シ四庫全書之館。經^ニ有^リ易
書。詩。禮。春秋。孝經。五經總義。四書。樂。小樂十
類。史。有^ニ正史。編年。記事本末。別史。雜史。詔令

故ニ能精^シ能屈^{ナリ}ハ是精^ク氣^シニ若クハナレ精^{ナルヲ}以^テ能^シ金
剛ナルヲ以^テ能^ル其相^ノ粘^カニカ^ツ是故ニ唯^ニ幽^ニ精^ニ能^シ金ヲ分^解
ノ小分子ノ間隙ニ入り
スルヲ得ルヲ火ノ木ヲ
火ヲ以テ燒カ加ナルヲ
精ト水ト相逆ニ屈伸精粗
ス 凡屈伸相雜シル者ハ伸氣出ルニ當テ必ス屈氣ヲ引合テサルカ故ニ屈氣ハ大屈シ或ハ凝
質ス又金鑄木灰ノ如キ清濁判ル理此ノ如シ

奏議。傳記。史鈔。載記。時令。地理。職官。政書。目
録。史評。十五類。子。有^ニ儒家。兵家。法家。農家。醫
家。天文算法家。術數。藝術。譜錄。雜家。類書。小
說。釋家。道家。十四類。集。有^ニ楚辭。別集。總集。詩
文評。詞曲。五類。此書共一萬三千七百二十
五種矣。其道之大。其書之博。於彼六大洲中
者。亦^タ可^キ以^テ知^ル哉。故^ニ其假^リ用^之之^ノ法。譬^ニ猶^ニ造^ル物
者。之^ノ無^ク盡^ル藏^ハ不能^ハ莫^キ其旋轉運動逐^テ世^ヲ而新^シ
者。又^タ譬^ニ諸飲食有^ニ酸^鹹。書^ニ說^命。若^シ作^レ和^宰我。

○古義神代考中

○三十四

解ルニ隨テ強水ノ力
弱ナルト云リ是金ノ
函精ニ化セサルヲル
ニ是リ人全解テ氣
ヲナシテ煙ヲトラス是
金ノ水トナルヲレニ
スレリ

函ハ能陰火ヲナレ能物
ヲ生シ其餘升天ノハ
凡ニ塵蕩夢軀終ニ
溶氣ニ和シ重ハ雨ト
ナリ又寒精ヲトス寒
氣ノ精ハ塩硝ノ氣ニ
炎ニ暑者氣ノ精ハ硫
黃ノ氣ニ炎スト西國
ノ説ニ見タリ水ニ摩
湯ノ輕ハ終ニ水ニ化シ
滓脚ノ重ハトナル

變テスレリ
又玻瓈水體ノ如ハ其質純粹ナルヲ以テ能透明スト云而モ光明既ニ是等ノ體纏
裹ルナリ其線路必ス屈曲ス目鏡ノ理ヲミテ知ハ此ハ是其體中ニ在テハ引カ
均平ヲ光線ノ直ナルヲ妨サレ光ノ出入ノ際ニ當テ玻瓈水體ノ上面ト光明ト相引
アルニヨリ游氣ノ引カハ弱シ玻瓈水體ノ引カハ強シ是以テ至近ノ際ニ在テ引カ
ノ強弱ハ人々ニ曲屈スルモノナリ予水ノ屈光ノ數ヲシテ試タルニ左ノ圖ノ如クナル
ヲ覺フ

三針鏡ニテ愈ナル白
紙ノ障子ヲミルニ障子
ノ骨ノ辺ノ暗キ外ニ
色ヲトス白紙ハ明
骨ノ辺ハ暗ナリ彩色
ハ明暗ノ際ニ起ル暗
ニ接テ而モ光明濃キ
ハ赤ヲナシ其次ハ黃
ヲトス暗ニ接テ光明
淡キハ青ヲナシ其次
ハ線ヲトス然ハ呈色
ハ屈光ノ濃淡ノ明暗
錯雜ニ起ルモノナリ
水ハ黒ク雲ハ白黒ハ

子貢善爲說辭冉牛閔子顏淵善言德行孔
子魚之孟大迦葉之頭陀阿難陀之多聞舍
利弗之智慧目犍連之神通阿那律之天眼
須菩提之解空富樓那之說法迦旃延之論
義優婆離之持戒羅睺羅之密行釋迦兼之
然則天下所立之教法者迺謂之我王道之
一也良不誣已聖神之本教一理之所以貫
萬理亦不能莫不然也學者思諸
復勅天兒屋太玉二神惟再二神亦同侍殿內

又天ニ在テ雨砂ノ炎トナル其
變テスレリ
又玻瓈水體ノ如ハ其質純粹ナルヲ以テ能透明スト云而モ光明既ニ是等ノ體纏
裹ルナリ其線路必ス屈曲ス目鏡ノ理ヲミテ知ハ此ハ是其體中ニ在テハ引カ
均平ヲ光線ノ直ナルヲ妨サレ光ノ出入ノ際ニ當テ玻瓈水體ノ上面ト光明ト相引
アルニヨリ游氣ノ引カハ弱シ玻瓈水體ノ引カハ強シ是以テ至近ノ際ニ在テ引カ
ノ強弱ハ人々ニ曲屈スルモノナリ予水ノ屈光ノ數ヲシテ試タルニ左ノ圖ノ如クナル
ヲ覺フ

善爲防護又勅曰以吾天原所御齊庭之穗亦
當御於吾兒
國家生民之多登穀之美所以冠乎天下四
大海職此之由漢人以日本土氣温煥宜禾
稻桑麻產金銀琥珀水晶硫黃水銀銅錢白
珠青玉蘇木胡椒細絹花布漆器扇刀劍鎧
甲武備
時忍穗耳尊有奏曰欲以皇孫瓊瓊杵尊代降
因以天兒屋太玉及諸部神等悉皆相授皇孫

及光ナリ又ハ反光寡
色ナリ無色ノ色ナリ
白ハ青黄赤混沌ノ
而モ反光スルモノナリ如何
ナ坦面モ微峻ナキ
能サル故ニ上面久ク方
方ノ光ヲ受テ屈シ
又久ク外面ノ方ニ反ス
水面ノ際界ヲ現スル
カ如キ是ナリ欲ラスハ
水ノ面ヲ舟スルノ能ハ
ス其方方及光ノ
勢ヲ平均スルニ坦面
一正ク前ニ推スノ勢
似タリ光明上面ニ
来テ是勢ニ通テ体
中ニイルノ能サルモノ
リ是ニ於テ彈力ノ故ヲ以テ反行スルノ球ノ壁ニ激メ及スルカ如此光明ハ体中ノ
面光ヲ受サルカ故ニ呈色ノ光トハ格別ナリ而シテ彈力定矩ノ故ヲ以テ左来ノ斜ノ角ハ
右及ノ斜ノ角トナリ右来ノ斜ノ角ハ左及ノ斜ノ角トナリ各処各色直ハスノ以テ能物
影ヲ写ス面ノ障碍ノカト彈力ト合テ加力ノ變線スルナリ正斜ニヨリテ強弱アリテ

且服御之物。一依前授焉。

右第四章

古義神代考中卷 終

左右同度ニナリシム其面ニ在テ多光ノ影ヲ反スル所ハ光盛ナリ他処ハ光微シ海ニ
多光ノ面ヲミルニカク影ノミ白キカ如レ若水面ニ泡アレハ泡又一固ノ鑑ナリ泡面ハ
泡ナリ山面ニ殊ノ斜アルカ故方方ノ来ニ隨テ窓影ヲ反ス故ニ泡面必窓影アリ
故ニ泡ハ二鑑ナリ十泡ハ十鑑ナリ無数ノ微泡相並ニ相重テ稍家ナリハ盆水満
面皆白色ナリ是白ハ多光ノ色ナルヲ知ヘキノ証ナリ
物色固有ノ青黄赤モ分子ノ質ニ隨テ反光ト無反光トノ明暗ノ際ニ當ニ屈光ノ濃
淡ニ隨テ各色ヲ呈スルモノナリ和蘭産ノ瓊瑤ハ質中ニ青色ヲ現シ和産ノ瓊瑤ハ
質中ニ綠色ヲ現スルヲミテ察知スベシ万物呈色ノ理悟リツベシ奇見ハ引カ發明ノ
名家ニノ三斜鏡呈色ノ一モ粗其書ニ出タレ屈光ニ出タリ地上万物引カ
ノ事厄通奇見暗ニ同時ニ發明スト云リ其生同時ニアリテ厄通長セリ但シ大奇見
ノ師ハゲンユスト云リ西域ニ視学家アリ厄通又其名家ナリ予モ視學ナノヲ云ルモノ
ヲ一見セシトアレハ恨ラハ唯百問ナリキ未タ具ニ屈光ノ數ヲ説セシヲモ見ス采女ノ固
ヨリ知ラス然レ右ノ屈光ノ説ハ又光明ノ引カアルヲ証スルノ一ナリ引カニ非ス何
ソ若ク屈光スルヲ得ニ
至精人子系来ナルヲナレ其次ノ分ヲ弟来ナルハ香ヲナレ剛ナルハ味ヲナス人皆香ノ体ニ
ラレル然ハ声光ノ体アルモ推テ知ヘシ

Faint, illegible handwritten text in a cursive script, likely a historical record or account. The text is written in dark ink on aged, yellowish paper. The script is dense and fills most of the page, though some characters are difficult to discern due to fading and bleed-through from the reverse side.

Faint, illegible handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written in dark ink on aged, yellowish paper. The script is dense and fills most of the page, though some characters are difficult to discern due to fading and bleed-through from the reverse side.

問フ何ヲ以カ光明速カアルヲ云ル曰奇見全書曰木日生侍星毎主星ノ陰運
少蝕ヲナス其理月蝕ト同シ近來測名家能豫メ各侍星ノ蝕ヲ
推算ス四箇ノ侍星アリ其事上編上卷ニ云然ニ木星ノ太陽ニ會スル前後
ニ當ル侍星蝕時ヲ本トシ其太陽ニ衝スル前後ノ侍星蝕時ヲ推シ
スルニ蝕ノ時ニ至テ其時刻毎ニ算定メ測スル所ヨリハ早シ又木星ノ太陽
ニ衝スル前後ニ當ル侍星蝕時ヲ本トシ其太陽ニ會スル前後ノ侍星
蝕時ヲ推算スルニ蝕ノ時ニ至テハ其時刻毎ニ算定メ測スル所ヨリハ
是是查生ノ會暗ト衝時トノ離地遠近不同アルヲ以テ侍星ノ光ノ我ニ
届ニ早晏アルヲ以テスニヨリテ然リト云リ

呂魯夫須曰嚮ニ光明速カノ事ニ附テ數件ノ難題アリシカモ皆能解
テ愈光明ノ速カアルニ決シ又ト云リ但ニ速アリト云ハ速カニ自系スルヲ
云リ
ロールト云者光明速カノ數ヲ測量ソ曰光明太陽ヨリ地球ニ至ル六十分
時ノ十ヲ以テスト云リ我七十分歩三十八秒
呂魯夫須曰ブラットレイノ說ニ云ル光明速カロールトノ云ルヨリモ甚大ナリ
然レ又曰若一箇ノ恒星假令ハ忽然ト消ルテアリモ月ヲ越テ猶能
其星ノ天上ニアルヲ見シト云リ
是事ノ言ヲ以テミルハ光明ノ速カアル一亦信ルニ足レリ固ヨリ既ニ引カニ関ル

アリテ又速カアルヲ從來諸件ノ談說ノ如ク然ハ其体アルト明ナリ光明既ニ
体アリ故ニ光明ノ至ル所暖氣ノ通ル所皆真也ニアラス
問フ純實ニ無虚ナルモ亦アラスマ曰十レ何ヲ以テカ其然ルヲ云ル曰奇見
曰ニ体其大サ相等
ノ其ニ重量相異ル
者モ体中虚階ヲ比
スレハ殆ト相等ト云
得辟言ハ游氣體中
虚階ト人並質体中
ノ虚階ト百萬ト九
十九方九千九百九
九ト比例ノ米ナルベシ
金ハ游氣ノ重量ニ
過ル一萬五千二百
三十八倍ト云リ然ハ
右比例ニヨレハ金ノ
實一萬五千二百三
十八ト游氣ノ實一
トノ差一萬五千二百
三十七ヲ金中虚階

古義神代考下卷

源紫偈迺部 著

天照大神乃賜天津彦火瓊瓊杵尊八坂瓊曲
玉及八咫鏡草薙劍三種寶物且以思魚神爲
執政之神因勅曰葦原千五百秋之瑞穗國是
吾子孫可王之地也宜再皇孫就而治焉行矣
寶祚之隆當與天壤無窮者矣
猗歟盛哉大祖聖神之勅亘乎億萬歷而不
可易也唐玄宗嘗稱彼禮義之國神靈所扶

○古義神代考下

○一

ト游氣中虚階ト
差ナリトノ其數ヲ游
氣中虚階ノ百分
一トナリ然ハ是百萬
ト又一ノ一萬五千三百
三十七分ノ一トヲ金
全体トシテ又一
一萬五千二百三十七
分ノ一トヲ金ノ實ト
スルナリ

如何トナラハ游氣水
体被瑤潔ノ如キ其体
皆能透明ス是其
實多其体ニ比ヘテ
甚小ナルニ非レハ能ハ
ス金石ノ透明セ
ルハ体ノ不粹ニヨ
リ實分多キモノ
ハ作至ラス然ハ人並
石體中ニモ充満セリ
而シテ其虚中ハ至薄ノ氣
充滿セリ

附金ノ分子間階密
シ游氣ヲイレス水氣
ヲイレス唯暖氣精ヲ
能入元而モ猶入テ小
分子相粘ノ力強ク
其間階微シ暖氣
ヲモ執一氣ヲモ執一氣
暖氣ヨリモ火一精ノ
多キナリイレサルニ屬
ハ如何トモスル一能ハ
ス唯光明ハ火ノ純精
ナリ太陽ノ光ノ暑キ
ハ人ノ体氣ニ交テ
熱氣トナレハナリ既
ニ毫目セルカ故ニ人得
テミザルノミ光明既
ニ斯ノ如ク況ヤ又

張九齡 宋太宗以為世祚遐久其臣亦繼襲
曲江集 宋太宗以為世祚遐久其臣亦繼襲
不絶此蓋古之道也 史宋其不然乎彼又以
東夷天性柔順異於三方之外故孔子悼道
不行設桴於海欲居九夷有臣也夫樂浪海
中有倭人前漢地蓋姬氏之來徐福之走亦
不得非是故也

已而且降之間先驅者還白有一神居天八達
之衢其鼻長七尺背長七尺餘且口尻明耀眼
如八咫鏡而施然似赤酸醬也即遣從神往問
能スル所ニアラス金質剛ナリト虫重量未ク瑤潔ノ
體中ニモ充満セリ而シテ其虚中ハ至薄ノ氣
充滿セリ

及光ハ其速カク奪フシ童光最多固有ノ黒色ヲナスト云リ人テ金ト游氣ト其
終ニ其速カク奪フシ童光最多固有ノ黒色ヲナスト云リ人テ金ト游氣ト其
實始ト相同キナハ金モ能ク光スル一始ト游氣ト相同カルヘキニ然ラサルハ体
取難ニヨリテ童光多カ故ナルベシ

時有八十萬神皆不得目勝相問故特勅天鈿
女曰汝是目勝於人者宜往問之天鈿女乃露
其胸乳抑裳帶於臍下而笑嚙向立是時衢神
問曰天鈿女汝為之何故耶對曰天照大神之
子所幸道路有如此居者誰也敢問衢神對曰
聞天照大神之子今當降行故奉迎相待吾名
是猿田彦時天鈿女復問曰汝將先我行乎抑
我先汝行乎對曰吾先啓行天鈿女復問曰汝
何處到耶皇孫何處到耶對曰天神之子則當

天上至薄ノ光
明往及ノ道ニ在テ
モ而モ光明ノ行ヲ障
碍スルニ止ル者光明
ニ比スルニ精微ナル
甚キ者ハ常ニ能金
石土水ノ体中ニ身通
充満ス老子曰無有
入無間ト云リ然ハ至
薄ハ能至剛ニ入理
ニ是ヲ以テニハ人等
ニハ傳氣充満セリ
一土中ニ水氣充満
ス方如シ水氣ハナク
薄氣充満セリ故ニ
金土ト相似タリ木氣
ハ火ト水ト交テ木ノ粗
解ナリ天際至虛ナリト
リト金暖氣ニ薄氣出入
土ト水ト混ソ土中
○不測
問四説及子カ言ノ如ク
リ出タレト弁ソノ知ハ
アラサヤ曰引カノ引カ
名所以ノ者是則
是妙ナリ是則不測
ナリ明ノ方以知カ作
ルル天経或問ノ序曰
西傳特其器數甚
精而于通幾之理命
辭頗極ト云リ今世
ノ西人モ亦是貴ナ
器數ニ精キノミ
別ニ異ノ八十千モト
知ヘシ凡人皆知サル
ヲ以テ不測トシレタ
以テ不測ニ非ストス
然モ其未タ知サル
モ不測ニ非ス其既
知レルモ益々不測

到筑紫日向高千穗日之峯吾則應到伊勢
之狹長田五十鈴川上
此即後奉齋天照大神於五十鈴川上之幽
契故古來以五十鈴川上為天照大神始自
天降之處也朝鮮人記垂仁天皇十三年甲
辰天照大神降二十五年丙辰始立天照大
神宮于伊勢國東海諸
因曰發顯我者汝也故汝可以送我而致之矣
天鈿女還詣報狀於是天神以真床覆衾裹天

解ルル天際至虛ナリト云
リト金暖氣ニ薄氣出入
土ト水ト混ソ土中
○不測
問四説及子カ言ノ如ク
リ出タレト弁ソノ知ハ
アラサヤ曰引カノ引カ
名所以ノ者是則
是妙ナリ是則不測
ナリ明ノ方以知カ作
ルル天経或問ノ序曰
西傳特其器數甚
精而于通幾之理命
辭頗極ト云リ今世
ノ西人モ亦是貴ナ
器數ニ精キノミ
別ニ異ノ八十千モト
知ヘシ凡人皆知サル
ヲ以テ不測トシレタ
以テ不測ニ非ストス
然モ其未タ知サル
モ不測ニ非ス其既
知レルモ益々不測

津彦火瓊瓊杵尊乃脫離天磐座排分天八重
雲以奉降之時天忍日神大伴連帥天津來目
來目背負天磐鞞臂著稜威高鞞手捉天梘弓
部祖背負天磐鞞臂著稜威高鞞手捉天梘弓
天羽羽矢及副持八目鳴鏑又帶頭槌劍而立
皇孫之前遊行降來果如先期皇孫則到筑紫
日向高千穗穗日之峯其狹田彦神者則到伊
勢之狹長田五十鈴川上即天鈿女神隨狹田
彦神所乞遂以侍送焉時皇孫勅天鈿女神汝
宜以所頭神名為姓氏焉因賜姓氏曰狹田女君

○古議神代考下

○三

不測ニ非ト蓋不測
測トテ合テ又愈不
測トテ恒星天外
何物カアル天漢何カ
故ニカカ若ク周環セ
六合ノ外限アリヤ限
ナシヤ宇宙何ノ時ニ
カ始リ何ノ時カ終ル
是皆不測ニアラカ
マヤ然ト云一万物一
体ニ志皆一陰一
陽對待ノ道ヲ音
ハシハ天外モ亦唯剛
柔ノ二体ノミラ生凡
ハ死アリ有涯アル無
涯アルヘキ理ヲ推テ
其不測モ不測ニ
非アルニ似タリト云
孰カ宇宙ヲ建立シ
常靜ノ觀ヲ室メ引カ
引カ作テ元氣ヲ屈伸
立行ヲ人カ體メ物ヲ
ラ其テ視聽言動思慮
ノ者モ不測ナリ不測
在トスト云所ナク而
剛太陽ヲ以テ都トス
是ヲ以テ一身ノ用ハ
衆心ノヨリ出一家ノ
務ハ衆心ノ父ヨリ出テ
一國ノ事ハ衆心ノ公府
ヨリ出天下政ハ衆心
朝庭ヨリ出天地造
化ハ衆心ノ出天地造
ヨリ出是故ニ能其身
ヲ修メ能其父ニ孝ヲ
リ能其君ニ事ヲ神
妙不測ノ天命ヲ凡
恒ハ寸ハ心ヲ以テ太
陽ノ三真ハ是宇
宙ノ至尊ニ奉スル所
以テハヤ
人ニ在テ胸膈ハ天
際タリ頭ハ地球タリ

故猿女君等男女皆呼爲君。此其縁也。初適皇
孫降。到於高千穗峯之時。天暗如夜。群神失道。
物色難辨。於茲有二人。一爲大鉗。一爲小鉗。奏
言。皇孫御手自拔。稻千穗爲粗。以投散四方。則
天日開晴矣。故皇孫搓穗爲粗。以投散之。天日
忽開晴矣。故稱皇孫曰天國饒石彦火瓊瓊杵
尊。火訓呼其處曰高千穗。二上峯。既而皇孫遊
行之狀也。則自穗日二上天。浮橋立於浮渚。在
平處。而齋宗之空國。自頓丘覓國行去。到於吾

其不測ニ非ルモ又愈不測ナリ凡天上天下都テ不測ニ非ル
孰カ宇宙ヲ建立シ常靜ノ觀ヲ室メ引カ引カ作テ元氣ヲ屈伸
立行ヲ人カ體メ物ヲラ其テ視聽言動思慮ノ者モ不測ナリ不測
在トスト云所ナク而剛太陽ヲ以テ都トス是ヲ以テ一身ノ用ハ
衆心ノヨリ出一家ノ務ハ衆心ノ父ヨリ出テ一國ノ事ハ衆心ノ公府
ヨリ出天下政ハ衆心朝庭ヨリ出天地造化ハ衆心ノ出天地造
ヨリ出是故ニ能其身ヲ修メ能其父ニ孝ヲリ能其君ニ事ヲ神
妙不測ノ天命ヲ凡恒ハ寸ハ心ヲ以テ太陽ノ三真ハ是宇宙ノ
至尊ニ奉スル所以テハヤ人ニ在テ胸膈ハ天際タリ頭ハ地球タリ

田長屋笠狹之碕矣。其地有一人。自號事勝國
勝長狹。皇孫問曰。國在耶。以不對曰。於焉有國。
請任意遊之。因立宮殿。是焉遊息。其事勝國勝
神。是伊弉諾神之子也。亦名鹽土老翁。是後皇
孫遊幸海濱。遂登長屋之竹島。巡覽其地。時有
於秀起浪穗之上。起八尋殿。而手玉玲瓏。織經
之少女。皇孫見之。問曰。汝是誰之子耶。對曰。妾
是大山祇神之子。名神吾田鹿葦津姬。亦名木
花開耶姬。因白亦吾姪。長姬在。皇孫曰。吾欲

○古義神代考下

○四

天降于地下地中... 諸官... 項... 折之線也...

以汝為妻如何對曰... 皇孫因謂大山祇神曰... 進時皇孫謂姪為醜... 幸之則一夜有身故... 使皇孫不斥妾而御... 常在。今既不然... 華之移落又顯見... 折之線也。

ト云... 項... 折之線也... 記... 魂... 動... 神... 傳...

按火火出見尊得壽... 天皇武則僅百三十七歲... 二千四百七十餘歲... 半在瓊瓊杵尊耳... 漢人以人壽不過百歲... 之終也故過百二十不死... 漢竇公年一百八十... 日本紀武內年三百七... 歲金完顏氏醫姥年二百許歲... 載其它小說若宋卿党翁之類... 又... 不勝其數

○古義神代考下

倒ナレハアラス木ニ在
 下ハ福天地交會ノ
 足サレモノナリ人ノ頭
 ハ地球タリ木ニ辟ニ
 大骨ノ大幹ナリ
 手足ハ枝タリ陰陽
 ノ若クハ明若クハ如ク
 皆木ニ在テハ上ニ
 向ヘリ人ニ在テハ下
 向ヘリ又木子ハ上ニ
 向テ生シ人ノ子ハ下
 向テ生ス是理ヲ以
 テ觀ハ頭ノ地球也
 一ニルベシ但ニテナリ
 ノ所説ニ合サレハ予
 カ在言ニテモアリナリ
 知ラス但ナリ頭ノ四ハ天道ニ象ル
 ノ形四ニ象ソノ能動クハ天動ニ出ス象動一母貝比劍起源一帯ニ見ユ質ノ分子
 形方ニ近クノ能動クハ地動ニ出ス方ハ所質ノ分子氣多子粘合強弱ノ
 理ヲ推テ知ヘシ是故ニ氣多子ノ直ニ取水合セルハ其形四ニ象セリ地球水球菓
 實ノ如キ皆是是氣多子天道ノ形ヲ表スルモノナリ菓實ハ所質アリ故ニ先微所質
 ヲナレテ又其所質ノ分列表スルニ本テ生スル者ハ四ナリ又各向來ノ如クハ角苗香
 ノ如キ是ナリ所質ノ分列表スル者ハ其形方ニ近ク水晶角アル方ニ近クナリ方解
 石ノ如キ皆是是質多子地道ノ形ヲ表スルモノナリ水土モ氣ナリ故ニ直ニ取水合
 生ハ四ナリ饅頭如
 キ是ナリ地外ニアル
 者多ク四ナリハ天道
 ニ象リ土中ニアル者
 多ク角アルハ地道
 ニ象レリ土中ハ地中
 ナリ地外ハ天中ナリ
 地球ハ亦天中ニアル
 故ニ直ニテ動ク然
 ハ頭ノ形死道ニ象
 リ田動ナレハ人ニ
 在テ地球タル所以
 アラスメ何ソヤ

也。五雜

是後神吾田鹿葦津姬。見皇孫。曰。妾孕天孫之
 子。不可私以生也。故告狀。知聞。皇孫聞之。即嘲
 曰。雖復天神之子。如何一夜使入娠乎。抑非吾
 之兒與。吾田鹿葦津姬忿恨。乃作無戶室。入居
 其內。而誓曰。妾所娠。若非天孫之胤。必當獲滅。
 如實天孫之胤。火不能害。即放火烧室。其火初
 明時。生出之兒。自言。吾是天神之子。名火照神。
 吾父何處坐耶。次火盛時。生出之兒。亦言。吾是

天神之子。名火進神。吾父及兄何處在耶。次火
 炎衰時。生出之兒。亦言。吾是天神之子。名彦火
 火出見尊。吾父及兄等何處在耶。凡三子矣。彦
 火出見尊。亦名火折尊。其火照神。是隼人等
 始祖也。

漢人亦說。高辛生而神靈。自言其名。史。蘇氏
 曰。凡物之異於常物者。其取天地之氣常多。
 故其生也。或異。麒麟之生。異於犬羊。蛟龍之
 生。異於魚鱉。物固有然者矣。神人之生。而有

凡例

一 西東西域ニ奇士
 アリ氏ハ通名アリ
 意抄骨ト云リ是人
 極テ穎敏ニ深廣
 數學ヲ究メ廣ク
 天地ノ理ニ通ス西國
 古今ノ諸名家ノ究
 明スル所ヲ奉テ其家
 學ニ比スルニ未ダ十分
 ニニ充ス是故ニ大
 凡ノ通ノ上ニ出タリ
 唯其數理起源ノ
 委曲ヲ述テ人々其
 學ノ奧儀中ニ入ル
 其長文ヲ一獻ヒテ
 二得ヘカラス是等ノ
 解ヲ作テ本文中ル
 二便ス安ニ達者ノ
 一短文ヲ加テ即チ
 一是編專ラ求心カ
 和蘭語ニテミテ
 スルケテカクト上
 ミツルヒエントト
 カラクトハカナリ
 今求心カト斷ス
 一上中ノ二編ト是
 各自ナク異ナルモ
 リ彼ニテハ互數ニ
 ストミルフ此ニテ
 比例タリト云ヒ彼
 幕根ト云フ此ニハ
 方根ト云フ彼ハ相
 一リト云フ此ハ平

以異於人何足恠哉佛經又說耶輸多羅抱
 兒放火投之不燒悲然如耶輸多羅生
 羅喉羅佛出家以後六年之事豈可同日而
 論哉

然後母吾田鹿葦津姬自火燼中出乃稱之曰
 妾所生兒及妾身無所少損天孫豈見之乎皇
 孫報曰我知本是吾兒但一夜而有身慮有疑
 者欲使眾人皆知是吾兒并亦欲明汝有靈異
 之威子等復有超倫之氣故有前日之嘲辭也

解ヲ作テ本文中ル雜題ヲ讀ノ張本九トスルモノ是編ノ上卷ニユレリ是唯之章也家
 二便ス安ニ達者ノ
 一短文ヲ加テ即チ
 一是編專ラ求心カ
 和蘭語ニテミテ
 スルケテカクト上
 ミツルヒエントト
 カラクトハカナリ
 今求心カト斷ス
 一上中ノ二編ト是
 各自ナク異ナルモ
 リ彼ニテハ互數ニ
 ストミルフ此ニテ
 比例タリト云ヒ彼
 幕根ト云フ此ニハ
 方根ト云フ彼ハ相
 一リト云フ此ハ平

於是竹刀截其兒臍其所棄竹刀終成竹林
 故號彼地曰竹屋
 漢人亦傳竹王所損破竹於野成竹林今王
 祠竹林是也華陽國志

時吾田鹿葦津姬以卜定田號曰狹名田以其
 田稻釀天甜酒嘗之又用淳浪田稻爲飯嘗之
 禮內則國君世子生告于君接以太牢
 然是後吾田鹿葦津姬恨皇孫不與共言皇孫
 憂之乃爲歌曰憶企都茂幡陸再幡與庚耐母

ト云リ直末清人ノ
譯ニ是等ノ文アルヲ
見ルニヨリ其ニ依テ
改タルノ
一 張本每解ノ首ニ
表出セル比例之圖等
ノ文ハ本文中ノ句ニ
本文ハ却テ下卷ニ
ハ讀ム人頗ニ其意
ヲ解スルニ能サル
ヲメト動自是ヲ摺テ
必シモ心ニ探索スル
カラス才一段ヨリ讀ム
直ニ末段ニ至ラハ必
曉ナクシテ得シ
一 諸國ノ付号ノ定例
一 張本ト本文ト異アリ
一 享和二年戊戌初冬刊
一 志苑忠雄識

水升ハ塩ヨリ火上ハ灰結フ古書曰輕清者上而為天實沉者凝而為地又易曰
立天之道曰陰与陽立地之道曰剛与柔然ラハ氣實ヲ指テ天地ト云ニモ可ナラカ
混沌未分ノ時唯太氣ノニナリ太氣未變ノ時大虚ノニナリ太虚ノ体純粹ニシ
碧瓊ノ如シ而シテ神氣往來之街タリ
天漢恒星子ノ光
氣常ニ天中ニ往返ス
詳ニ中編ノ末ニ云ルカ如
シ神氣往來ノ神靈
アリテ一箇ノ純心ニ未
レ去ル一アレハ衆變動
テ此ニ變合ヲ終ニ微塵
偏駁ノ境ヲ生ス且ニ
格テ方方ノ氣ニ至精
ナル氣ニ中編 雲霧
下卷ニ云ルカ如シ
起ルカ如クテ各ク此
ニ向テ輻湊取積
ノ混然ナル一大團ト
ナリ内外ノ天ヲ別ツ

作補耐據茂阿黨播怒介茂譽播磨都智耐理
譽又之天津彦火瓊瓊杵尊崩於笠狹之崎宮
因葬日向可愛之山陵

右第五章

瓊瓊杵尊崩彦火火出見尊承初兄火照神能
得海幸故號海幸彦弟彦火火出見尊能得山
幸故號山幸彦兄則每有風雨輒失其利弟則
雖逢風雨其幸不忒時兄謂弟曰吾試欲與汝
換利器弟許諾因易之於是兄取弟弓矢入山

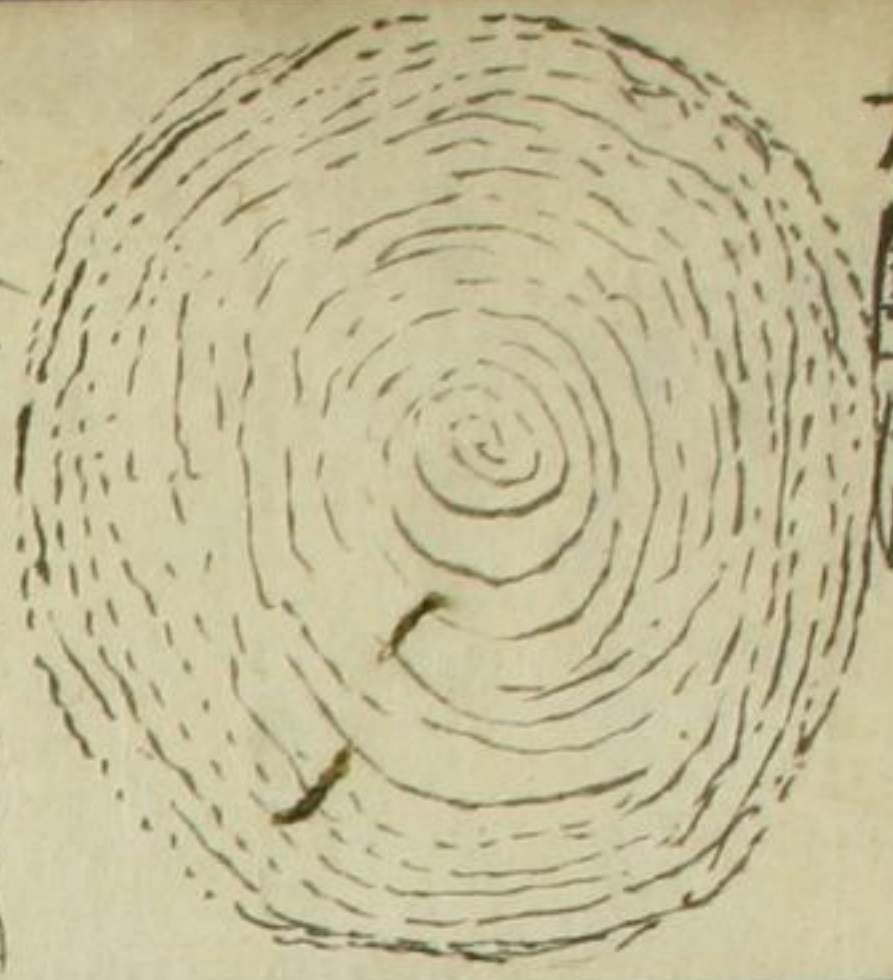
志苑忠雄識

本和二年戊戌初冬刊
志苑忠雄識
〇附録 混沌分判圖說

獵獸弟取兄釣鈎入海釣魚俱不得利空手來
歸兄即還弟弓矢而責已釣鈎時弟已失鈎於
海中無因訪獲故別以其橫刀鍛作新鈎數千
與之兄怒不受曰非我故鈎雖多不取益復急
責
此禍心也便是所以獲罪於天神說見下文
故火火出見尊憂苦甚深行吟海畔時有川鴈
嬰羅因厄即起憐心解而放去
齊王見牛之敵鯨而有不忍之心孟宋帝洗

〇古義神代考下

大團圓



遠方外方ニアリテ力カ相
及サレバ假ニ外天トタ
其元又又ニ其方ノ天中
ニ聚テ人カ判ヲナサンモ
推テ知ヘシ引カノ
中編下卷ニ詳ナリ

太虚ハ元來神氣從集
街ナルカ故ニ至薄ノ
氣常ニ動スルアリ
然モ至精至密ニシテ
以テヨク身通ノ相逆
ニ至ル寸ハ動カモ漸
相推シ相大尊テ終ニ
帶ノ水ノ輪旋スルカ
如ラ廻轉セシム是
ヲ動根トス其轉右
ニ向ヘハ是ヲ右轉ト
云

右轉ノ腰右轉ノ極己
初メ全團ニ在テ相
氏未團心ノカ止テ
テ加速スルカ如ク
心カニ敵スルノ能ハ
ス人全團大ニ縮ソ後
カ相尋キ至ル是ニ
於テ第一天安ル
卷緒スニ隨テ求
カモ加増スレモモ
心カ加増ハ遠心ヲ
スル所以ナリ時言
因ニテ日取身ノ遠
力極大ナルカ如ク其
行正横ニ向フカ故
今全團廻轉入行
帝ニ正横ニ向ヘリ故
遠心ノカノ皆長ハ
大ニ求心カ皆長ハ
タリ

手而不注水於蟻。此皆足以王之心。
須臾有鹽土老翁來。老翁問曰：何故患於此處？
乎。火火出見尊。具言其事。老翁曰：勿復憂。吾當
爲汝計之。即取囊中玄擲投地。則化成五百箇
竹林。

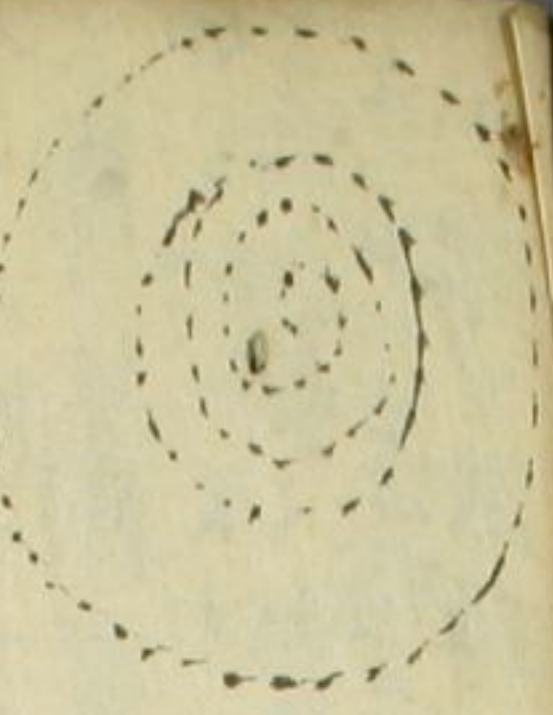
漢人亦謂玄王鬼之擲用竹。仙家采黑栢樹
作擲。又之投地。則爲竹筴矣。竹之殖於地有
梳地髮之義。陰陽
因取其竹作無目堅間。以細繩繫著。火火出見

中編光明有伴。係見今其氣相合。稍厚。懷
其動ニ殊不同。勢アリ是故ニ衆動ニ相引
動カ大ナル方動ノ主トナリ人全團ノ一和
如ラ廻轉セシム是ヲ動根トス其轉右ニ向
ハ是ヲ右轉ト云

尊而沉之。所謂堅間。是今之竹籠也。于時海底
自有可伶小汀。乃尋汀而進。忽到海神豐玉彦
之宮。

豐玉彦便是海龍王名。其所居曰海宮。漢人
謂之魚鱗屋。楚辭佛經謂之龍宮。
其宮也。城闕崇華。樓臺壯麗。門前有一好井。井
上有百枝杜樹。故火火出見尊。跳昇其樹而立。
時有豐玉姬侍者。持玉碗來汲井水。終不能滿。
俯視井中。則倒映人笑之顏。因以竹見天孫。即

全國通轉中外相
 其速也大十因テ
 遠心カモ大十旋
 輪牙一段ニ詳ナリ
 身ヲ以テ外ナル者ハ
 而力相敵スルニ至ル
 一極ノ方モ求心ノカハ
 一ノリ而モ其諸輪
 皆四維ト平行ナリ
 以テ遠圍心ノカハ
 甚微ナリ因テ其氣
 皆縮ニ来テ中心及
 其六週轉ノ腰ノ方ニ
 合會メ全國ノ形ヲ
 是ヲ以テ諸天ノ位
 其動ヲ帶ル所ヲ詳
 第一天ノ分馬之圖



右ノ如シ終ニ諸天ノ
 中團ト中央大團トナ
 生ス
 各天ノ中團ヲ起ス
 ハ本天ノ氣ヲ取ル
 ナリ本天中ニ厚重
 ノ氣或ハ多寡不同
 ナリ故ニ諸團大小
 參差タリ其別カ
 不同ナリ
 故ニ諸天ノ中間有秘
 一ラス又許多ノ微
 團生相會シテ中團
 ナラス故ナリ諸方ノ
 引カ同クナル所アリ

入告豐玉姬曰吾謂我王獨能絶麗今有一客
 彌復遠勝
 書紀此語爲告其王之言今考文理姑爲告
 豐玉姬之言
 豐玉姬聞之乃出見火火出見尊便以驚還而
 白其父神曰有一貴客骨法非常若從天降者
 當有天垢從地來者當有地垢實是妙美之虛
 空彦者與
 蓋水火氣土皆能使人類住者於是一言乎

第一天ノ氣中ニ於テ天機更ニ變動スレハ其周天ノ氣一処ニ聚テ一團ヲ
 ナス是其本天ノ本團ニ中團タリ氣ノ動カヲ約スルカ故ニ其本行
 亦其本天ノ動ニ同シ
 全團内辺ノ氣卷縮ノ第二第三乃至六ノ天ヲ別テ諸團ヲ十サンモ
 亦猶

見之矣
 是時海神自迎延入乃鋪設海驢皮八重
 漢人以東海島中出海驢其皮供用
 使坐其上兼設饌百机以盡主人之禮因從容
 問曰天神之孫何以辱臨乎頃吾兒玉彦神之
 子有德高來語曰天孫憂居海濱味審虛實蓋
 見神便是
 有之乎
 琉球自言始祖爲天孫氏其初有一男一女
 生大荒自成夫婦生三男二女爲神一爲天

中團甚引カ稍
 大ナル引ルルカ
 是ヲ以テ諸天ノ行
 道全ク正内ナラス甚
 線路全ク一面ニアス
 而モ其不正モ正去
 一ノ後ヲス其甚互給
 毛僅ニ數度ナレハ
 同位ニ在テ四輪ヲ
 画スト謂テ可ナリ
 中團氣厚濃ニシ
 引カ甚レケハ急
 二諸ノ直ニ塊ヲナス
 後ナレハ更ニ小天ヲ
 分テ小團ヲナス
 大團ノ中團ヲ支カ
 如レ終ニニ丈中ノ小
 上面ニモ以ス山谷ノ
 九者ハ陰極ニ陽火ヲ
 小塊ノ廻轉ハ小團ノ
 中轉ノ廻轉ハ其本天ノ
 二外辺ニ来リ加ル者
 塊ノ廻轉ノ腰ヲ行テ
 其氣漸ク厚濃ナリ若
 一廻轉ト同時ナリ
 中團ヨリ小團ノ天ヲ
 分ツニ及テ其天
 ノ氣モ周廻ヒトシ
 厚濃ナラハ疑合
 ノ環トモナラシム
 モシ全固ノ外ニ別
 ニ中塊ヲシテ遙大
 塊ト引カ相及ヒ
 運テトメテ末ニ内
 天諸塊之ヲ後ニ
 至テ大塊ニ由リ
 其位心維ニ極テ
 選ス其行左轉

神一為海神也。宋淳熙十四年。舜天即位。舜
 天、日本人皇。後裔。中山。此謂天孫氏。或亦近
 指。火出見尊。宋淳熙十四年。實我後鳥羽
 天皇。文治三年。蓋鎮西八郎源為朝。幼而勇
 猛。絕倫。其長七尺餘。猿臂善射。年僅十三。在
 豐後。陷數十餘城。稱日本猿臂將軍。後白河
 天皇。保元元年。斷其肘筋。放伊豆大島。於是
 遂到琉球。開其國云。漢人以大小琉球。雖受
 中國冊封。而臣服於日本。其國敬神。以婦人

守節者為尸謂之女王。世由神選以相代云。
 自國王以下。莫不拜禱。圖會。
 火出見尊對以事之本末。海神乃集大小之
 魚。通問之。皆曰不知。唯赤女比有口疾。而不來
 或曰。口女有口疾。
 魚能作人語。又解人情。異域亦有說。見西
 故固召赤女。口女探其口。則所失之鈎。自口女
 口出。

王昌齡。割赤鯉腹。得金錯刀之類。傳異。亦有

古遊ヲ嫌ハス其本
道播田甚細長
ナラシハ全團和
ノ動ニ與ラサシモノ
此ノ如キハ別種ノ
塊ト謂ベシ
内天大大中小諸
塊内四維ニアリテ
遊スルモ右轉ス
是山巽全團渾
沌一和ノ動根ニ本
ツラスレテ斯ノ如ク
ナシマハ
右氣ノ質聚散
大理ヲ云ノミニソ敢テ天地ノ始初シ後ニハラス而モ後世必コレヲ詳ニスル者ア
ラズ或ハ西人既ニ其説アリテ知ラス唯未タ聞サレシ

於是海神制曰。你口女。從今往。不得吞餅。又
不得預天孫之饌。即以口女魚。所以不進御者。
此其緣也。赤女。即赤鯛也。口女。即鯔魚也。已而
海神以其子豐玉姬妻之。火出見尊。仍留住
海宮。已經三年。彼處雖復安樂。猶有憶鄉之情。
故時復太息。豐玉姬聞之。謂其父曰。天孫悽然
數歎。蓋懷土之憂乎。海神乃語火出見尊曰。
天孫若欲還幸本宮。吾當奉送。便授所得釣鈎。

管子地員篇云。地者萬物之本也。柔者土之本也。剛者金之本也。其質之序。和蘭都有。諸般枝。其中別有。名曰。新理學校者。其立教也。即
三才萬物而究其本原因有之理。名曰。新理學校也。是以敬天尊神。衆致
修行。明事理。精術
藝。正物品。利器用
而帝王不德教。八
侯保社。授四民。安
業百工。盡巧。蓋其
教化之所至。每實焉
遠大也。

因誨之曰。以此與汝兄時。乃可稱曰。大鈎。踉蹌
鈎。貪鈎。癡駭鈎。言訖。則可後手授復進潮滿瓊
潮。潤瓊二種寶物。仍教用瓊之法。
蓋在海濱。作風招之類。亦是用瓊之法。所謂
思則潮溢之瓊。思則潮涸之瓊。便是風招。即
嘯也。佛經以龍王有摩尼珠。名曰。立海清淨寶
嚴。普明價直三千大千世界。
又教曰。兄作高田。則汝可作澇田。兄作澇田。則
汝可作高田。遂召集鰐魚。問曰。天神之孫。今當

惺齋樓此錄
筆斗動筆列數

古義神代考下

〇十三

有福之人方能識字
須當以字積德切不
可以字造孽予撰筆
誠三條但凡舉筆時

即想此字可損人不可
有則慎勿下筆庶不
以福我者反為禍我
較惜字紙功加百倍
戒筆下筆之身家
如後惟命起中筆類

戒筆下毀人名節
如揚過惡排賢良之類
戒筆下毀人事業
如被婚姻阻中筆類

要記トス(功過格下ニコロヲ記ス)

支那明ノ未撰乱極
乃民塗炭ニ陥ル韃韃
コレヲ治メテ保ニ是ヲ
有ソ女君生糸心ク奉
平ノ化ヲ被ル康寧
乾隆ノ二帝當時コ
レヲ小堯舜ト稱ス
其德教ノ隆盛ナル
ヲ推テ知ルヘシ
六大洲全圖
附録 功過格
千功 敦孝弟太郎
救免一人死
撫養長老幼
無依一人
百功 完聚一人夫婦

還幸上國。何等幾日之内將送以奉致。時諸鰐
魚各隨其長短。定其日數。中有一尋鰐。自言一
日之内則當致焉。

一尋鰐者。至短者也。短者身輕而行駛。長者
身重而行遲。莫斯哥未亞西北。海島多魚鼈。
其魚皮以為舟。遇風不沉不破。如陸走則負
皮舟而行。或亦近矣。

故即遣一尋鰐魚以奉送焉。其將歸之時。海神
自言。今者天神之孫。辱臨吾處。中心欣慶。何日

五大洲 問教盛行大抵其書ヲ問ルニ教ハ慈悲トス道
教ハ清淨トス旨トス孔子モ老子モ礼ヲ問ヒ教ヲ尊ル西方聖人ト稱セリ孔子ハ即三教ノ宗
師ナリトシ其教法ヲ説トキハ則福善ヲ福惡ノ理ヲ以テ積善ヲ修行ノ功トス乃千放
生戒殺憐孤恤寡敬老救貧忍罪救難施藥印經修路渡橋等ヲ功德トス或
ハ功過格式ヲ立テ積善消惡導人諸惡莫作衆善奉行ヲ以テ教戒ノ
要記トス(功過格下ニコロヲ記ス)

忘之。皇孫雖隔八重之限。冀時復相憶而勿棄
置也。既而火出見尊。歸來本宮。一依海神之
教。先以其鉤與兄。兄尚怒不受。故弟出潮滿瓊
則潮大溢。而兄自沒溺。因請曰。吾當事汝為奴
僕。願垂救活。弟出潮涸瓊。則潮自涸。而兄還平
復。已而兄改前言曰。吾是汝兄。如何為人兄。而
事弟耶。弟更出潮滿瓊。兄見之。走登高山。則潮
亦沒山。又緣高樹。則潮亦沒樹。兄既窮途無所
逃去。乃伏罪曰。吾已過矣。從今以往。吾生兒八

○古義神代卷下

○十三

掩人隱惡

除一人害

五十功 見愛孤寡

竭方保護

勸息人訟

和一家骨肉

三十功 除子第一惡習

梅妻養一病至

愈

倡首行善事

二十功 薦引有德人

以方術活重病

節嗜欲

戒無故殺生

十功 敬惜五穀

成人美事

受橫逆不嗔

一日言行真善

休恤奴婢艱苦

十過 敬師遵訓一日

廢孝第大節

宣又隱惡

百過 遇一患可救不救

造謗汚福不

不敬惜五穀

不除子弟惡習

不敬惜字紙

做一損人利己事

善用一匪人

十過 見一美色萌

一邪念

惡口犯口

啓人妄言

五過 出一損德言

十連屬不離汝之垣邊永當為俳優之民也請

哀之於是隨其所乞遂赦之時兄著犢鼻塗赭

於面掌而汚其身乃舉足踏行學其困苦之狀

以服弟之神德矣

漢人以倭國其俗以丹朱塗身山海或謂火

照神與彼又以赭衣為罪人服漢書又唐吐

蕃禁錮人塗面以赭之類間有之

是以火照神苗裔諸隼人等至今不離天皇宮

牆之傍代吠狗而奉事者也世人不債失針此

富者出財貴者

事涉閭閻不輕言落筆

知過必改事親服勞表歡一日

踐一約濟一飢人一齊戒盡誠一日

離人間人骨肉絕二人嗣

其緣也

凡人類皆受靈魂於造化三神自天子以下

至庶人皆不得非天神所生者故福人者便

是福已靈魂者也禍人者便是禍已靈魂者

也所謂天道福善禍淫者尚非別義也故聖

人之道皆莫不歸乎敬天者孔子曰獲罪於

天無所禱也語論在神世神人自為之而示大

戒於百世之人世人其可不慎哉

先是豐玉姬謂天孫曰妾已娠矣當產不久天

一過

峻二人爭
況滯人書信
傳説人一短
嗔一逆言
遷怒於人
乖一尊卑次
一日鬪于用過豐
其人解相不真
好誇已長
負一約
見人非為不難阻
見筆不行
知過不改
傳述相毀詔

孫之胤。豈可產於海中乎。妾必以風濤急峻之日到海濱請為我作產室相待矣。於是火出見尊。即以鷓鴣之羽葺為產屋。
漢人以鷓鴣產婦執之易生。本州
屋費珠及金。豐玉姬自馭大龜。光海來到。
馬路古國有大龜。一殼可容一人。或用為盾以禦敵。
時孕月已滿。產期方急。由此不待肯合。徑入居焉。已而謂天孫曰。凡他境人。臨產時。必頭本域

（右記スル所ハ丹桂ヲ藉ニ出ルモノヲ抄ス其餘傳家寶等ノ書日ニ出ルモノ其印格ヲ種々異同アリ但宜ク類ニ歸テコレヲ知ヘシ）
（第八年前崎陽ニ在テコレヲ清人ニ問フニ王公貴官大儒高僧トイハレ尊ヲコレヲ勤修スルヨリヲ説ケリ吾邦支那ノ書ヲ學ブ其草壹ヲ漢魏ノ文ヲ學ブ做シテニ心ヲ碎キ唐明ノ詩句ヲ擬セン一思ヲ焦スノ類トハ大異）
（因テ記ス二年前吾陸奥州ノ民數人支那ノ福建廣東ノ文ノ海濱ニ漂着ス少年ニ上レ際其船風波ノ為ニ失ス尺眇漠タル沙石間ニ在レ支多時雨尚凌心カク之偶漢舟圖ルヲ見テコレヲ招ク漢人助テ其舟ニ入レ火ヲ焚テ温衣ヲ乾サシ舟中人良至シシヒ

之形。妾今以本身將產。請勿看之。天孫心怪其言。竊覘之。則化為八尋大鰐。匍匐透地。外人龍女之說。與此全相似矣。見西域記。今不煩記焉。今世不令其夫覘產屋。此其緣也。
豐玉姬大恨曰。不用吾言。令我屈辱。故自今以往。妾奴婢至君處者。勿復放還。君奴婢至妾處者。亦勿復還。遂以真床覆衾及草。裹其子置之波瀾。閉海途而徑去矣。此海陸不相通之緣也。
于時火出見尊。乃歌曰。飡企都鄧利。軒茂豆

且憐テ懇ニ飢渴ヲ救フ
ノ雨雨有テ再ニ沙沙場ニ
出ツ是是ニ於テ彼土人ノ
漸々ニ多ク來會群ニ
聚メコレヲ觀ル皆歎
息ノ憐物ノ色アリ衆中
燃ク喫ス者アリ臭人ノ
漂泊ス一百餘日
烟草盡テ茶ノ滓ヲ
乾シテ重吸ス茶モ亦尽テ
喫相也者日々ニ
忽々烟氣ヲ嗅テ
情乃ラガス乃一夫ノ
ニ請フテコレヲ喫ス傍ニ
ニコレヲ見ル人々々
持スル所ノ烟草ヲ喫フ通コレヲ持セザル者ハ悔業ヨリ寒ク與テ生テコレヲタフ
又コレヲ見テ同ク喫ル者數人其遠ク立テル者ハ人ニ訛シ傳フテコレヲ喫フ一人裏囊
中ノ寒具具コレニ喫ルニ足ラステ便チ錢ヲ探リテコレヲ喫ル者アリ傍人コレヲ見テ
同ク錢ヲ喫フハシヨリ衆人皆爭テ錢ヲ喫フ斬日時得ル所身處堆ヲ成スニ
至ルコレヲ紙幣スル凡ハ母兄餘錢ナリ後歸國ニテ東都ニ來ル時予其人ニ遇テ面己
ヲ問ク此餘厚情善待感心スルニ足ル者々々實ニ女年五十秋九月也其事始末
按ルニ福建廣東共二南海濱ニテ古粵ノ地ナリ明人記スル所ヲ考ルニ其氏
廣野習ヒ山海利ヲ特ニ標榜ヲ教カト詔リ然ルニ今憐先躬ノ情彼方如ク厚子
施濟ノ心彼方如深法
此是是作善者者法
普ク行テ率上ノ濱
民往前ノ惡習ヲ
變化セル者非ス邪
善利園ニテウ

句志磨再和我謂補志伊茂播和素邏珥譽能
 捷鄧馭鄧母故其兒名稱彦波瀲武鷓草茸
 不合尊也乃取他婦人為乳母湯母及飯爵湯
 坐人凡諸部備行以奉養焉此權用他姬婦以
 乳養皇子及世取乳母養兒之緣也是後豐玉
 姬聞其兒端正心甚憐重欲復歸養於義不可
 故遣女弟玉依姬以來養者也時豐玉姬寄玉
 依姬而奉報歌曰阿軻娜磨迺比訶利播阿利
 登比鄧播伊珥耐企弭我譽贈比志多輔妬句

持也者悔業ヨリ寒ク與テ生テコレヲタフ
 又コレヲ見テ同ク喫ル者數人其遠ク立テル者ハ人ニ訛シ傳フテコレヲ喫フ一人裏囊
 中ノ寒具具コレニ喫ルニ足ラステ便チ錢ヲ探リテコレヲ喫ル者アリ傍人コレヲ見テ
 同ク錢ヲ喫フハシヨリ衆人皆爭テ錢ヲ喫フ斬日時得ル所身處堆ヲ成スニ
 至ルコレヲ紙幣スル凡ハ母兄餘錢ナリ後歸國ニテ東都ニ來ル時予其人ニ遇テ面己
 ヲ問ク此餘厚情善待感心スルニ足ル者々々實ニ女年五十月也其事始末
 按ルニ福建廣東共二南海濱ニテ古粵ノ地ナリ明人記スル所ヲ考ルニ其氏
 廣野習ヒ山海利ヲ特ニ標榜ヲ教カト詔リ然ルニ今憐先躬ノ情彼方如ク厚子
 施濟ノ心彼方如深法
 此是是作善者者法
 普ク行テ率上ノ濱
 民往前ノ惡習ヲ
 變化セル者非ス邪
 善利園ニテウ

阿利計利凡此贈答二首號曰舉歌彦火火出
 見尊御天下也五百八十歲崩于高千穗宮故
 葬日向高屋山上陵
 蓋火火出見尊初味入海宮定是數年既入
 海宮留住三歲後御天下五百八十歲其海
 宮留住三歲豈唯三年之謂乎大泊瀨幼武
 天皇雄略朝水江浦島子到蓬萊居之三年歸
 來則林園零落親舊悉亡逢人問之曰昔聞
 浦島子仙化而去漸過百年故知火火出見

海泉川湖
 海水ハ地球ノ面テ低キ處
 ニ止ル故ニ海底地上ノ水
 常ニコラ浸シ且テ常ニ
 コレヲ蒸レテ自ら鹹味聚
 テ潮ト成ル又涯濱ノ
 水日夜ニ進退ス一八月
 氣ニ推排ルカ故ナリ
 泉ハ山上地面及ヒ草木
 枝葉等日氣ヲ受メ

常ニ其下水氣升リテ
 地中鋒隙ノ處ニ盈テ
 自ラ水脈ヲナス其地高
 ノ管ハ寸ハ其側ニ穿
 今也即其川流ノ厚ナ
 川ハ其厚山泉ニアリ其
 水地下ヨリ此ニ至ルニ
 升順下領史モ止ルナ
 海水ノ方口甚元モノト
 異ナリ故ニ鹹味ナシ
 湖ハ其地小ナルカ故ナリ
 モハ其地小ナルカ故ナリ
 日氣ノ及フヲヤシ池塘
 ノ屬モ亦同シ然レモ細
 亞ノ西邊ニ北高向海ト
 稱スルモノアリ其水鹹
 是日氣ノ蒸ス處
 廣大ナカ故ナリ又地下
 雲雨務雨而落
 雨ニ日氣ノ地水ヲ照シテ
 雨務ハ雨ノ地上ニアリテ
 雨ハ雲ニ積リテ其勢成
 井ハ則其降ルモノ亦速ナリ
 雨路ハ雨ノ微シ物ニ寄
 五穀ハ以熟爲因

尊聖壽。恐是七八百歲也。人或難神世年代
 甚久遠也。然正史確實無可容疑。但据如周
 髡以一年爲一晝夜等。則又神世日月之歷
 行大異於今日。而有然者亦不可知也。

右第六章

彦波瀲武鸕鷀草葺不合尊。以其姨玉依姬爲
 妃。生彦五瀨神。次稻飯神。次三毛入野神。次神
 日本磐余彦尊。凡四男矣。
 漢人以其王姓阿每氏。自言初主號天御中

雨ハ雲ニ積リテ其勢成四ナル井ハ空氣ノ爲ニ厭エテ下ルモ也故ニ日氣ノ升ルモノ甚キ
 井ハ則其降ルモノ亦速ナリ
 雨路ハ雨ノ微シ物ニ寄テナル者ナリ
 五穀ハ以熟爲因

主。至彦瀲凡三十二世。皆以尊爲號。居筑紫
 城。彦瀲子神武立。更以天皇爲號。徙居大和
 州。唐又以彦瀲等二十五世。並都於筑紫日
 向宮。彦瀲第四子號神武天皇。自筑紫宮入
 居大和州橿原宮。宋又以其王以天爲兄。以
 日爲弟。倭王姓阿每。其國號阿輩羅彌華言
 天兒也。典又以國王以王爲姓。歷世不易。統
 志。

神日本磐余彦尊。諱彦火火出見。初號狹野。後

ヲ沸騰せしム又山山巖
大石ノ中ニ発スル有
勢是亦烈ニ火ヲ生シ
草木土石ヲ燒ク
空氣鬱積

燧ヲ擊リ木ヲ鑽ルモ是
ナリ燧ハ急ナリ木ハ緩
又五以テ採ルハ日曬熱
薄リ集テ発スルナリ
遍滿ソ方量スハカラサ
ル所アリ火ハ鬱積閉
薄ヨリ生ス故ニ其性用
皆其及對シテナリ
空氣ハ冷ナリ也ニ火
熱ヨリ生ソ火ス熱ス
甚キナリ空氣ハ重シ
夜ヲ照ス見ルハキモ
キナリ物ヲ燒スルナリ
ハルスルヲ能ハス然
火ハ物ヲ隔レ能ハス
其物ヲ亦及化ス侵入
甚キナリ

淺原

空氣地球ヲ包ム者ニ其厚サ地中ヨリ上四十五度分ニ及フコトヲ云フ體トモク是日氣ノ地球ノ
全體ニ融通シ其氣復外ニ発スル者ナリ故ニ自ラ水火ノ餘氣ヲ帶ル也是雲ノ理ニ
似タル大ニ異ナリ雲ハ一時河海山沢等ノ水氣ナリ也空氣ノ重シク體トモク是日氣ノ地球ノ
則少シク輕シカ減ス
ナリ是日氣ノ復浮
ハ執ト水火ノ餘氣ト
ヲ帶ルニ因テナリ

九天 日下別記
九重天 ト云 是日月五
星及ヒ彗星ノ在所ナリ
其高サ丈ハ次第ナリ
二因テ八重ヲナス
重々ノ隔アルニ非ス其上
ヲ宗動天ト云共ニ九重
ナリ
附録
利瑪竇夏明ノ時支那ニ
來彼ノ文章ヲ多クヒ
地ニ自等ノ書ヲ撰
其中諸ノアリ云人

撥平天下。查有八洲。故復加號曰神日本。磐余
彦尊。

後淡海御船奉勅撰謚号奉稱神武天皇。日
本朝鮮人記。神武天皇人皇始祖。名狹野地
紀。末主彦瀲尊第四子。母玉依姬。俗稱海神
女。以庚午歲生。周幽王十一年。四十九年戊
午。入大倭州。盡除中洲賊衆。五十二年辛酉。
正月庚申。始號天皇。百十一年己未。定國都
在位七十六年。壽百二十七。海東諸國記。

其彦五瀨神東征之役與長髓彦會戰於孔舍
衛坂中流矢薨稻飯神海中卒遇暴風則蹈浪
秀而往乎常世鄉矣此即新羅王始祖也
漢人以百濟人自海逃入新羅遂王其國。北
新羅蓋謬傳之耳。又以三韓諸國邑各以一
人主祭天神號為天君。又立蘇塗建大木以
懸鈴鼓事鬼神。其南界近倭。後漢三
父之彦波瀲武鸕鷀草薺不合尊崩於西州之
宮。因葬日向吾平山上陵。

○古義神代考下
○十八

若第四天ヨリ上ニ居テ
地ヲ視ルルアハハ大地
球必見ユクハ能ハレ是
地ノ天ニ比スルニ微ナリ
帝一立ニ如スルニ我
輩乃一微點ノ中彼此ニ
聚リ居テ東域ヲ分ク公
侯トナリ帝王トナリ是ニ
於テ道ヲ爲メノ大業ト
爲ス他ノ時ヲ受シ地ヲ
闢キ封境ヲ殖ユ身ニ於
テ功ヲ立テタル傳ルト
謂ヘリ日夜ニ思ハレテ心
ヲ竭ク神ヲ刻レバ彼限
リナキノ多欲肆ニスル
始哉

星曜

星ハ恒星ヲナリ又経星凡列星凡衆星凡
スルヲ以テ此ノ諸タレアリ其數タル億兆ヲ以テ計ルヘカラス故ニ至微ナル者ヲ曰ク星ニ見ルヘ
キモノヲ以テ其ハ光体ノ大サヲ分テ七等トス 和南國ニ於テニカサキ以上ヲメカネイラスト云 六等ヨリ以下ハ星
鏡ヲ以テコレヲ別ク又其間星ヲ見ル眼鏡アリコレスコトニトモク 衆星ヲ區別スルニ人物ノ聲ノ異
歩歩監財等ノ像ヲ以テス其黃道ノ中ニカス者土コヲ十二名トス又十二名トス 其南北ニアル者
共ハ五十四總テ六十十六座ト爲ス 恒星七等以上ナル者積數ニ計テ一星アリ 五星ハ
明キヨリテ情ニ至テ
全ノ政ヲ羅バテ文字ヲ用ユ
情ノ都大母ノ字ニ至テ
建テテ常ニ歐羅巴ヨリ
博士ヲ招テテニ師タラシ
是ニ依テ支那ノ儀ヲ以
以來二万三千年ニ及ス
諸術始テ正キヲ得
コレハ此未タ此積數
ヲ記スモノヲ見ス 支那日
本共ニ和ヲ圖ル知所ニ
及ハサル者一十二分ニ分リ
其數殆ト倍ナラズ
曆ハ七曜ヲ以テ日月ト
五星トナリ
七曜ハ恒星ノ七等ノ
分其大サ別ニ星ヲ以テ
コレヲ知ル地ノ大サヨリ
例ヲ以テナリ地ヨリナリ

姦儒嘗以日本元來無禮樂孝悌之道兄弟
叔姪公然配耦是倭奴之敗風而已嗚呼何
物書簾作此不敬姦邪之妄說夫禮樂孝悌
之名目者畢竟制犯者之道故犯者多則法
益嚴也天地不言四時行語論風俗正而不犯
則何禁之有上古婚姻之禮唯忌同母兄弟
外皆不避之者本教之所以正貴賤尊血詠
重宗廟繼後世也故雖彥波瀲之神大鷦鷯
仁之聖尚有之若夫氣長足姬功神之攝政豐
德

御食炊屋姫推之即位豈以不避同姓故王
諸呂漢呂毀唐廟哉唐則是昊天之日真宗豐
天皇武勅不比等撰律令也其八虐之制因
隋唐十惡而省內亂條略奸小功以上親目
其以我王制爲昭公取於吳語襄公淫乎妹
之類乎左傳及夫奸同母妹者聖神之所疾
也嘗稚子宿禰天皇允二十四年夏六月御
羹凝以作永帝異之使占之卜者曰有內亂
蓋親親相奸乎時皇太子奸同母妹輕大娘

古義神代考下

〇十九

者、日輪 一百六十倍餘
填星 九十倍餘
恒星 第一 一百零六倍餘
日六等者 十七倍餘
地ヨリ小十九者、
月輪 金星 木星 土星
月ヨリ地ノ大十九 二十八
倍

曾子問、蘭人テ之ヲ
十七者 若道下ノ地ニシカ
スルト云國ニ到ル其時
三月 十九日 始大暑有リ
土俗 夜ハ屋上ニ出テ
納涼スヤ蘭人モ亦然ス時ニ
數子ハ此ヲ見シ其高カク
形狀認ムヘシト云リ後
多ク生ル勿ク殺粒無ク人
食之シ土人凍餓死スル
モ多ク生ル勿ク殺粒無ク
人食之シ土人凍餓死スル
モ多ク生ル勿ク殺粒無ク
人食之シ土人凍餓死スル

海神望之圖 月長圖
兩務圖中時アリテ日氣ノ及
ル寸ハ空氣ノ厚盛スカコ
ニ因テ及テ盛ナルト得テ
相迫リテ勿ク心ニ推ス執
勢ノ靈ヲ生スト云フ此
執一タヒ竟ス寸ハ身
逐次テ推到ル 旋廻
扇揚彼ニ解レ此ニ遷
移シテ成盛タルモノアリ
微々其甚ナレ覺ト急
上其變心能ハ三階ヲナリ
雷雨不電
雲雨務圖ノ中ニ聚ル
寸多ク厚ク重盛ナル
寸則日氣ハヨリニ帶
リ穴執擬射實スル
ノ空ノ厚盛スカコニ
止メ速レテ其力強
猛ニ至ル 忽是ヲ執

因以大娘謫于伊豫。太子亦以故不能即位。
遂自殺矣。聖神之道寔可惧者如斯。豈倭奴
敗風之所稱也乎。腐儒不能解本教。妄發狂
言。欲蔑如帝綱。自非姦回亂賊之徒何也。若
以已所見。妄設論議。彼此互競勢利。以得其
計。則謂乞于瞿曇。何以知五鼎方丈。漢子仲
尼。何以知九重禁門。匹夫舜禹。叛賊湯武。何
以得為聖。又亦可也。舜娶堯二女。便是取於
同姓者也。周公禁之。便是以堯舜為不知禮。

者也。太伯去之。夷齊飢之。成湯則放。武王則
伐其無乃。是也乎。蓋春秋之間。弑君三十六。
弑父比比不巳。不知堯舜之名教。於何處乎。
諄諄焉。鄂羅斯人。最重君臣之義。自古無叛
逆篡奪之事。視他國之朝夕易姓者。相懸矣。
孔子所謂夷狄之有君。不如諸夏之亡也者。
論瞭然可見已。故刺他以爲夷者。自言爲夷
者也。刺他以爲賊者。自言爲賊者也。惡稱人
之惡者。惡居下流而訕上者。論君子重厚之

○古義神代考下

○二十

其ノコフ較手ハ火執ノ
機附塞モ強固ニ故ニ相
擊手薄スルニ遂ニ以テ
火ヲ取ルカ如シ

其ノ上ノ上降ニ機附氣凡
ナシ是上達スル故ニ火ノ
炎上ノ性ニ往テ其執輕
易シカ下降ニルナリ
其ノ如ク深キカ方ニコレヲ
擊ツカ強猛ク火ノ性下
相背中相争ヒテ迫ル
多クリ故ニ考案流リ
又時ニ火燒ク較隊上
又支アリ固塞ヲ較不
破執カ甚ニ急ナルカ故ナリ

其色本然湯沸ノ氣如ク其
其色亦濃ナリ日光ルコレニ
射スル其影斜ナリコレニ
虹日軍ハ彩ヲ現スモノ亦此
日人良圖

一廿四 紅赤紫青月銀
右丸規虹暈試米鏡而
記之
三按ルニ右ノ六色ノ本ヲ
空射ク黃赤青月銀ニ
黃赤ハ向シク日輪ニ
日輪赤ク月光長クナリ
青ハ空ニ色ナリ空又本
色ニ色ナシ如レハ色ニ
日輪ヨリ来ルモノナリ
又曰
白ハ色ヲ受ルモノ黒ハ色
ヲ受ルモノナリ白ハ色
始ナリ時スル心ハ黒ハ色
終ニ深夜ヲミルニ白ハ無
色ナリ故ニ諸事ヲ察スル
ナリ黒ハ色ヲ無ク諸事
ヲ設ク然ル則ハ色ノ正ニク

風。豈如斯哉。非君子不可語變子。文中亦本
教之謂也矣。

右第七章

得未豈不可敬可法
吾則爲君子爲善人爲有恒而文學功名益成其美
人之所以異
希正在此處
會之路蹊之路在這邊
中間無路善念是善
若中間立
爲善路人
是功過ノ因テ本ツク處ナリ故ニコレニ記シテ童蒙ノ尊キトナス

古義神代考下卷 大尾

其色本然湯沸ノ氣如ク其
其色亦濃ナリ日光ルコレニ
射スル其影斜ナリコレニ
虹日軍ハ彩ヲ現スモノ亦此
日人良圖

須天迺屋藏版

文政五歲壬午秋七月發梓

- 崇文堂前川六九衛門
明學堂城戸市右衛門
群玉堂岡田茂兵衛
泰文堂山本長兵衛

發行書房

△地止中央
右竹屋家號秘言ノ説西土本外學ノ由然レ其論地動
ニ及ハ
止中央
トス
ハ書ハザル所アルナリサレド多ク考ノ為メニ抄出スル
言ハ公ニ奉ナリ所ノ書ナリヨシ段字ニ序ニ見エタリ

